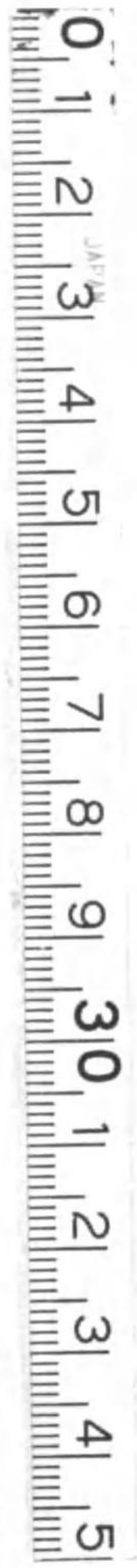


日本中学會  
地理講義錄  
日本地理講義  
天津昌永

62-379  
1200701676879



始





高等師範學校  
講師

矢津昌永講述

(非賣品)

# 日本地理講義

(不許翻刻)

大日本中學會



日本地理目次

緒言

日本地理總論

人事地理

生業及物産 財政 租稅 參政權 政黨 國防 外交

地方誌

關東

東京府

埼玉縣

神奈川縣

千葉縣

茨城縣

栃木縣

群馬縣

一 二 二六

五〇

五〇

五〇

五三

五四

五五

五七

五八

五九







日本の地理沿革

澎湖廳	一五三
臺東廳	一五二
宜蘭廳	一五二
臺南縣	一五一
臺中縣	一五〇
臺北縣	一四九
臺灣	一四〇
北海道	一三一
沖繩縣	一一五
鹿嶋縣	一一四
宮崎縣	一一三
大分縣	一一二
熊本縣	一一一

一五七
一五三
一五二
一五二
一五一
一五〇
一四九
一四〇
一三一
一一五
一一四
一一三
一一二
一一一

長崎縣	一〇九
佐賀縣	一〇八
福岡縣	一〇六
九州附琉球	一〇五
高知縣	一〇四
愛媛縣	一〇三
香川縣	一〇二
德島縣	一〇一
四國	一〇〇
鳥取縣	九九
嶋根縣	九八
山口縣	九七
廣島縣	九五
岡山縣	九四

一〇九
一〇八
一〇六
一〇五
一〇四
一〇三
一〇二
一〇一
一〇〇
九九
九八
九七
九五
九四



地方區劃  
日本地圖描法

附圖

日本地形圖

日本東部圖

日本西部圖

北海道圖

臺灣圖

地圖描法附圖

應用問題

總論之部

人事地理之部

地方誌之部

北海道之部

一六四

一八〇

一五二

一五二

一五〇

一四〇

一三〇

一三一

一五

一一八

一一一

一二四

一五四

一五五  
一七七  
一七八

日本地理目次終



日本地理講義

講師 矢津 昌 永

緒言

余は愛すべき我郷土なる大日本帝國の地理を諸子に紹介するに該り一言すべきことあり地理は何の爲めに學ぶやの疑問是なり。教室に於て教師生徒と相對する時は此等の疑問は容易に問答し得べしと雖も講義体の課程に於ては茲に一言し置くの要あるべし。

地理は常に山河都會の位置概況等を知るのみを以て足れりとせず。地理科を以て國民の資格を養成すべき一要科と心得ざるべからず。現今我國の中學課程に於ける一欠点は國民的一科を欠くことなり。立憲政体の治下にありて國民に參政權あれども國民に此等の重要な資格を與ふる學科なし。例へば代議政体とは如何。自治制とは如何。帝國議會は如何なる職責あるか。貴衆兩院議員に要する資格は如何。政黨とは如何なるものなりや。我邦の財政は如何。歳出入と



は如何。租税及納税義務とは如何。外交の現況は如何。我國運の進度は如何。凡そ此等問題は國民の日常心得置くべき要件なれども、今の中學科程に於ては之を教ゆべき科目なし而して現在の學科中に免れて、何科に於て課すべきやと言へば地理科は最も適當なりと答へざるべからず、獨り適當として強ふるにあらず、地理科に於て進んで説明するの必要ありと信ず、故に余が講義中に於ても、此等の問題は事情の許す限りは説明せんとするを以て、諸子も亦豫め此心して學ばれんことを望む。

日本地理總論

○位置 我大日本帝國は亞細亞洲の東部なる、北太平洋中に羅列する群島にして、東北より斜に西南に延び、其の極南は臺灣の南岬(北緯廿一度四十五分)にして、既に熱帯に入り、北端は千島のアライト島(北緯五十度五十六分)に至る、極西は澎湖島花嶼の西端(東經百十九度廿分)にして、極東は千島の占守島(同百五十六度三十二分)とす。故に南僅に熱帯に入る外、總て北温带内に位置せり、故に寒暖中和の暖帶國に

して我國と緯度を同じくする所は、皆世界の優勝國なり。

○境域 西方は日本海を隔て、朝鮮及西伯利(露領)と對し、東海を隔て、支那と相望む、南は一葦水の巴西水道を隔て、比律賓群島あり、北は千島群島により堪察加半島に接し、東は太平洋を隔て、遙に亞米利加洲に對す。島彙宛も亞細亞東岸に連珠を列ねたるが如く、凡そ二千哩の間に斷續して、オコック海、日本海、黄海及東海を擁せり。

故に西伯利、朝鮮及支那北部等の亞細亞大陸より、東方に出づるには必ず海路、我領海に依らざる可らず、又人口多き支那大國を西にし、富源限りなき北米大陸を東に控へ、南は南洋諸嶋を受け、北は西伯利によりて陸路歐亞兩大洲に通すべし。是を以て我國は兵要、上商業、上及交通上實に樞要の位置を占めたり。

○幅員 我國は五大島及約四千の島嶼より成る、而して其總面積は二万七千零六十二方里あり、中央の最大島は本州(本土)にして、次ぎの大島は北に在りて蝦夷(本州)と謂ひ、九州は本州の西部に位し、又本州と九州間の大島を四國とす、臺灣島は遙か南に在りて、其の大き九州に次ぐ。その他千島、琉球、佐渡、淡路、對馬、隱岐、壹岐



日 本 地 理

等積々大なる島なり。左に各地の面積及大小の比、例を示すべし

土地	面積	百分比例	土地	面積	百分比例
本州	一四、五七二、一二二	五三、八四	蝦夷	五、〇六一、九〇	一八、七〇
九州	二、六一七、五四	九、六四	臺灣	二、二五九、九〇	八、三五
四國	一、二八〇、六七	四、三六	千島	一、〇三三、四六	三、八二
琉球	一五六、九一	〇、五八	(三十二島)		
(五十五島)			佐渡	五六、三三	〇、二一
對馬	四四、七二	〇、一七	澎湖島	八、二〇	〇、〇三
淡路	三六、六九	〇、一四	(五十二島)		
壹岐	八、六三	〇、〇三	隱岐	二一、八九	〇、〇八
總計	二七、〇六二、四六	一〇〇、〇〇	小笠原島	四、五〇	〇、〇二
			(二十島)		

○五大島の面積を概比すれば本州は全國の半を占め蝦夷は本州の三分の一九州臺灣は略々相同しく四國は蝦夷の四分の一に當り、其他諸島の面積を合せて本

總

論

州に比すれば約十分の一に當るの割合なり。  
○區劃 我國現今の政治區劃は分ちて一廳三府四十九縣とし、更に小別して六百六十一郡とす、又別に畿内八道八十五國の別あり左に府縣名を示すべし。

本州	東京	神奈川	埼玉	千葉	茨城	栃木	群馬	福島
南部	京都	大坂	奈良	和歌山	兵庫	岡山	廣島	山口
四國	德島	香川	愛媛	高知				
九州	長崎	佐賀	福岡	熊本	大分	宮崎	鹿兒島	
	附冲繩							

長野



北海 渡島 後志 石狩 天鹽 北見 膽振 日高 十勝  
 道(國) 釧路 根室 千島

臺灣

臺北 新竹 臺中 嘉義 鳳山 臺南  
 宜蘭廳 澎湖廳 臺東廳

○海岸 本邦の海岸線は屈曲甚だ多きを以て之を延長すれば七、千、四、百、六、十、七、里に及びり。此の延長里程は國の廣さに比すれば甚だ長く、世界中我が邦に比すべき國なし。左に各島に就き其の沿海の狀を述べし。  
 ○本州の海岸線は其の重なるは太平洋方面の北端に斗南半島斗出し、西津輕山嘴と相對し、内に陸奥灣を抱き、蝦夷島と津輕海峽を挟む。斗南半島以南犬吠岬に至る海岸は鋸齒狀を呈して大灣入なく、牡鹿灣及松島灣を稍々大なりとす。犬吠岬の南に房總半島出で、三浦半島と共に東京灣を抱けり、伊豆半島其西に出て、東に相模洋西に駿河灣あり、是より西志摩と三河の間に一大灣入あり。知多半島灣の中間に出で、衣浦伊勢海に分つ、伊豆の南端石廊崎より志摩に至る七十五里の

海上は有名なる遠州灘なり。志摩の西に紀伊半島出で、紀州灘、熊野浦を左右にし、潮流急なるを以て舟行の警むる所なり。  
 ○紀淡海峽を入れれば大坂灣にして、是れより西早瀬瀬戸(馬關或は長門海峽)に至る間を瀬戸内海とす、風景甚だ好く海岸は犬牙の如く相錯り、無數の島嶼其の内に點綴せり。内海中重なる出入は兒嶋半島及兒嶋灣、廣島灣等なり。  
 ○早瀬海峽を東北に廻れば、日本海にして海岸線の屈曲は太平洋に比すれば少し、島根半島若狭入江、富山灣、能登半島、男鹿半島等を大なる出入とす。本州を圍む海岸線の延長は一千九百五十三里にして、屬島の海岸線は五百二十三里に及ぶ。  
 ○四國島は他の四大島に比して小なれば海岸線長からず、其の延長は屬島を合せて六百七十六里あり。瀬戸内海には梶取(宮崎)三岬の兩突出ありて、伊豫灣を抱く、太平洋には東に室戸岬、西に蹠陀岬ありて、土佐灣を擁す、伊豫の佐田岬は西に走りて九州と連絡せんとし、其の間は潮流急なる早瀬海峽、豊後水道なり。  
 ○九州島の海岸は出入頗る夥し、特に西部は灣入、岬角相交錯せり。肥前は全國中最も海岸の屈曲に富み、全部西に突出して半島狀をなし、内に築紫灣及大村灣を抱



き、松浦彼杵野母島原の四半島あり。又薩隅は兩股を南に延ばすが如く、股間は鹿兒島灣にして、内に櫻島を挿めり。九州の北岸一帯は玄海洋に臨み、唐津博多の小灣あり。瀬戸内海に面しては、國東半島及薩摩灣あり、其の以南には臼杵佐伯等の小灣入ある外、海岸線の屈曲に乏しき日向灘に面して、南端に一の志布志灣あり、海岸線の延長八百六十一里、之に壹岐對馬其の他の屬島を加ふれば一千八百四十七里に及びり。

蝦夷島は赤罽の尾を振ふが如し。宗谷襟裳の兩岬を兩端とし、知床納紗布の兩岬東に突出して其の頭頸を作り、渡島半島は振へる尾なり、尾間に内浦灣を抱けり、海岸線の延長は比較的短く、六百二十九里にして千島列島を合すれば、一千二百四十一里あり。

臺灣島は五大島中海岸の屈曲最も少し。北岸は僅かの小灣入ありて、内に唯一の良港たる基隆あり。東岸は峻嶒絶壁にして港灣に乏しく、恒春半島遙か南に突出して、其の端兩分して南岬及西南岬となる、其間を南灣と云ふ。西岸一帯は臺灣海峡を隔て、支那の福建地方と相對し、裏に澎湖島を擁して、澎湖水道を作る。其の

沿海は遠淺にして打狗及淡水等の小港あり。故に其の海岸線の延長僅に三百五十二里にして澎湖島を加へて四百二十七里なり。

○地勢 我國の地勢は東南に擴出して西北に彎曲せる三連の弓形より成る、其の走向は皆東北より西南に横はりて亞細亞大陸の東に懸れり。三連の弓形は(一)千島列島(二)本土列島(三)琉球列島并に臺灣是れなり。故に其の觀頗る莊麗に恰も三連の珠玉を亞細亞東岸に掛けたるに異ならずとて外國の學者は『東洋の花彩島』と稱せり而して此の東洋花彩島の内部の形勢に就き説明すべし。

國內は到る處山岳多き山國にして平地は全面積の一割に過ぎず。故に山脈の配布を知るは本邦地理を學ぶに最も必要とす。國內に起伏する山岳は種々の方向に亘りて甚だ錯雜せる如きも本邦の土地は二大山系より構造せられたり一を樺太山系と云ひ一を崑崙山系と云ふ。

○樺太山系 此山系は樺太島より蝦夷島に渡り蝦夷と本土との間に一の陷落ありて海水に浸され本州に於て地形の如く西南に走り遂に中央部に達す。

崑崙山系(從來支那山系と稱せり)は其の脈遠く支那崑崙山より延くを以て名けらる東海を渡り



來りて九州に達し西南より東北に趨りて四國中國の地帯をなし遂に本州の中央部に於て樺太山系と相會せり。此の二大山系の結節する所は本州中幅員最も廣く地勢最も高峻なる甲駿信越地方とす。地學者此高台以北を北日本と謂ひ以南を南日本と稱す

此の兩山系とも太平洋方面は陸地自ら擴出して能く發達すれども日本海方面は彎曲して陷落の所多し故に地學者又太平洋方面を外帶或は表日本と謂ひ日本海方面を内帶或は裏日本と稱す。表日本は水成岩に富めども裏日本の地質は火山多し

○火山脈 地殼に若し軟弱なる所あれば地心熱は此所を破りて迸發したるものを火山とす故に若し地盤に一系列の裂罅等あれば火山は此の線上に噴起して一帯の脈をなす。我が北日本と南日本と會合する所に本州を南北に横斷する裂縫帯ありて一大火山脈茲に迸發す之を富士帶と稱す

又樺太山系及崑崙山系とも單一の隆起帯にあらすして數條の並行せる山脈より成る其の並走する脈間にも之に沿ひて裂線あり故に火山列をなして噴起し恰も

水成山脈と交互に並走せり。我が國土は此等の諸山脈を地帯として發育せる地なるを以て地勢の東北より西南に延長するは此諸隆起帯に沿へるものなり

左に樺太崑崙兩大山系に屬する重なる山脈及火山脈の大略を示すべし

樺太山系

- 蝦夷山脈 樺太島より蝦夷島に渡り宗谷岬より南に走り中央に於て千島火山帶に連り高峻の脈となり再び千島火山帶より分れ東南に走り襟裳岬に至りて海に没す。千島帶以北は一に東北山脈と云ひ以南は日高山脈とも稱す
- 千島火山脈 千島列島を噴起し蝦夷島の中央に於て蝦夷山脈と交叉して高峻となる尙ほ西走して樽前嶺の火山を起し火山灣を繞りて津輕海峽に陥り本州の中央火山脈に連る。本脈の火山灣の東北に聳ゆる火山彙を一に後志火山脈と云ひ火山灣の東南海岸に亘る脈は渡島火山脈の名あり
- 北上山脈 陸奥の南及陸中海岸北上川の東側を南北に走り仙臺灣に没す早池峰六角牛山等の高峯あり
- 阿武隈山脈 北上山脈の後を受けて阿武隈河口より起り其の東側を走り南端



は筑波山麓に連る一列の山脈なり  
 ○中央火山脈 斗南半島の恐山燒山等を起点とし奥羽の境上を走りて太平洋と日本海の分水嶺となり岩手山駒ヶ岳藏王山等の高峰を抽んづ岩代に入りて吾妻磐梯の両山あり那須岳より二派に岐れ稍々南に折れるものは日光山麓となり稍々北する一派は帝釋山脈の名あり上野に於て白根赤城榛名妙義の諸山となり富士帯に達する長き山脈なり  
 ○鳥海火山脈 陸奥の岩木山より起り中央火山脈と並行して鳥海羽黒月山となり岩代越後の境上に蟠まり上野越後信濃の境に於て別に三國山脈の名あり白根吾妻淺間諸山より富士帯に合す鳥海山(七千百余尺)は本脈の主山なり  
 ○東部沿岸火山脈 羽後男鹿半島の寒風山より日本海の飛鳥粟生島に連り越後の彌彦山より妙香燒山等を経て信濃に入り富士帯に達せり此脈或は彌彦山脈の稱あり  
 ○富士帯 本帯は我國を兩分する天然の限界にして樺太崑崙兩山系の接合線に噴起する一大火山脈にして富士山を盟主とし北は八ヶ岳淺間の諸山より越後の

妙高山燒山等に連り南は箱根の群山より伊豆を経て豆南諸島を起し遙に南に駛れり

崑崙山系

○九州南部山脈 肥後の天草島より本島に渡り日向の境を西南より東北に貫き四國に亘る山脈なり市房山江代山等の高峰あり  
 ○九州北部山脈 肥前の五島より起り肥前兩筑兩豊に蟠まり早瀬海峡に没して中國に亘る山脈なり  
 ○阿蘇火山脈 肥後の阿蘇山より起り東に趨り瀬戸内海に入り四國の北部を過ぎ本州に入り遂に三河より東北に走る一に瀬戸内噴火帯と稱す  
 ○霧島火山脈 澎湖島及臺灣より沖繩の鳥ヶ島及河邊七島を噴起し櫻島より九州に入りて霧島山となり肥前温泉岳に亘り多良岳に至る一大山脈なり  
 ○四國山脈 九州南部山脈の一亘陥りて再び四國島に於て起れるものにして四國の中央を東西に亘りて其の脊梁となる石槌山劍山等の高峯あり  
 ○紀伊山脈 四國山脈の端を受け紀伊に於て高野山大和に於て吉野山等の山麓



となり志摩に亘るものなり  
 ○赤石山脈 紀伊山脈の一たび伊勢海に陥りたるもの三河より駿遠の境上に走り遂に駿信の境より富士帯に會する高峻の山脈にして白峰山赤石山等は一万尺以上に聳ゆる高嶺なり  
 ○中國山脈 九州北部山脈を受けて山陰山陽兩道の境となりて東西に亘る中國の脊梁山脈なり  
 ○美濃飛彈高原 美濃より飛彈に亘る我が邦の大高原を組成せる重厚の山地なり  
 ○乘鞍火山脈 信飛及信越中の境上に蟠まる最も高峻なる火山脈にして鎗ヶ岳穂高山乘鞍岳御岳の四峰は一万尺以上に聳へたり  
 ○木曾山脈 天龍木曾兩河の間を走る山脈なり駒ヶ岳は一万三百尺に達し脈中の最高點とす  
 ○白山火山脈 加賀の白山を盟主とし西山陰道に於て伯耆の大山三瓶山及び石見の青野山等あり

○隱岐火山脈 佐渡島の金北山に起り能登を経て隱岐に亘り壹岐及平戸島に終る  
 ○新高山脈 本山脈は臺灣島を南より北に貫ける高峻の水成岩にして新高山は一万二千尺以上に達す之より琉球帯に連れり。又火山脈は澎湖群島より臺灣島の西北端に渡り琉球帯の裏面を沿ひて遂に霧島火山脈に連れり  
 我國は斯の如く山脈多きを以て到る所山岳多き山國なり特に火山岩は日本全面積の五分の一を覆へる火山國なり。火山の數は百七十座の多きに達し内本州及豆南諸島に九十座蝦夷島に十八座千島に二十八座四國に一、座九州に十六座其の他諸島に十六座ありて時々猛烈の噴火をなす彼の磐梯山吾妻山の爆裂の如きは近來のとにして人の知る所なり

○水誌

○蝦夷島の山脈は十字形をなせるを以て水系は此の高背を下りて四方に流注す石狩川天塩川十勝川は本島の三大河なり。石狩川は長さ百七十六里本邦第一の長流とす。此の諸河の灌域は沃野甚だ廣く將來有望の地多し



本州の地形は狭長にして山脈中央に脊梁をなし河水は其の兩側に配送せらるゝを以て長流を成す能はず唯其中稍々長大なるものは必ず兩脈の峽間に落ち地形に従ひて流下するか若くは山脈を横断する流れにあり。今其の大河を擧ぐれば太平洋の排水道に北上阿武隈木曾天龍の諸川あり或は山脈を破り或は山脈に沿ひて流る。又日本海系に能代御物最上信濃の諸川あり或は山脈を破り或は山脈に沿ひて流る。此れ等諸大河は頗る廣き流域を開き運輸灌漑を資け人口多く集まれり

畿内附近には長大の河流なく紀の川淀川を稍々大なりとす。就中淀川は最も重要の河にして畿内平原を流れ其の灌漑は肥沃にして人口甚だ多し

中國は地形已に大河の養成を許さず僅に江の河の中國山脈を破りて日本海に注ぐを以て稍々大なりとす

九州の河流も亦北部南部の兩山脈によりて分水せらるゝが故に大河を成す能はず。西に注げる筑後川筑前川球磨川川内及東に流るゝ大淀川五個瀬川等を稍々大なりとす

四國の河流は多く四國山脈に分水せられて南北に分流す。吉野川は四國山脈を破り中流以下は其の脈と並行して流るゝを以て最大なり其の河域は農産物多し特に藍は甚だ適せり。此の外仁淀川渡川腋川等の數流あり

臺灣島の河水は全島を南北に縦断する新高山脈の爲めに分水せられ是れ又大河なし。唯淡水河は北流して稍々大なり。其他重なる河水は大肚溪濁水溪等あり

以上河流の内石狩信濃利根は日本三大河にして富士最上球磨を三急流とす

本邦の河流は多く山間を急下するを以て上流と中流とを具ふれども幅廣く水深く流れ緩にして運輸の便ある下流の特質を具ふるもの少なく霖雨に逢へば雨水忽ち急斜面を下りて平原に漲溢して水害を被ること尠からず。然れども此の急流を利用して電氣等の原動力となすこと甚だ利あれば工業上には便益を與ふるに至るべし。又灌漑の利は稍々多く各河の流域は主要の生産地にして水田多く又河口の三稜洲には多く繁盛なる都會を建設せり

本邦に於て湖の大なるものは近江の琵琶湖とす周圍五十九里余湖畔は風景絶佳



にして近江八景の稱あり湖上には汽船往來し運輸の便あり常陸の霞ヶ浦は第二にして周圍三十六里運輸灌溉共に便なり。其他周圍十里以上の湖水を擧ぐれば岩代の猪苗代湖(十六里)出雲の中海(十六里)羽後の八部瀧(十五里)陸奥の小河原沼(十三里)出雲の宍道湖(十三里)下總の印幡沼(十二里)陸奥の十和田湖(十里)等なり

○平野 平野は穀物蔬菜の産する所又商賣工業の行はるゝ地にして人類生活の要素は多く茲に存す。本邦の地勢は總て廣大なる平野をなす能はず唯山脈の峽間又は海濱の低地等に平原を有するのみなり

本邦第一の平野を關東平野とす八州に亘れるを以て關八州平原の名あり。其の面積約百三十方里に亘り利根川荒川等の河流灌溉し本邦の首府を始め人口一万以上の都會二十一個此の平野に建てられたり

之に次ぐを畿内平野とす五州に廣がり地味肥沃にして古來繁盛の場所なり。本邦の二大都府及人口一万以上の都會八個此の平野に在り

濃美平野は尾張美濃に亘れる肥沃の平野にして三都に次げる名古屋を始め人口一万以上の都會七個茲に在り

石狩平野は北海道石狩川の流域を占め將來有望の地なり

筑紫平野は九州の筑紫瀧に瀕したる膏沃の平野なり。臺西平野は臺灣の彰化より臺南の間に廣がり土地肥へ農産物多し。其他宮城野越の平野讚岐平野臺北平野等あり

○風景 本邦の風景に富むとは世界に其比少く外遊人等の常に羨望措かざる所なり元來我國の島形を地圖上に於て見るも四大島及千島列島琉球群島等の太平洋の波上に連々恭布するは恰も珠玉を列ねるか如く頗る風流の觀あり故に或は我邦を東洋の花彩島と稱して大陸に草花を掛けたるか如き壯觀ありと賞せり

況んや實地に就て國土の趣を觀れば到處の山は峨々として而して綠に之を繞る水は靑靛の如くにして清し或は瀬戸内海濱の山紫水明あり日本海岸の奇景絶勝あり中にも白妙の雪を戴く富士の高根と風光明媚なる琵琶の大湖とは日本の双美と稱し陸前の松島丹後の天橋立安藝の嚴島は日本三景と呼ひ上野の妙義山信濃の岐蘇谿豊前の耶馬溪は日本の三奇景と云ふ。其他日光の山景三保の松原天草の洋嵐峽の花紅葉墨堤の櫻雲など一部に就て擧ぐるときは數ふるに遑あ



らす全國皆是れ佳景なり斯る風土に住して地理を究むるは實に學者の多幸と謂ふべきなり

○温泉 温泉は地下水の地熱によりて鑛物を融解したる温泉なるを以て鑛泉の名あり。本邦は火山脈に富むを以て温泉従ひて少からず其の最も多き地は中央火山脈の連亘する地方及富士帯附近又は日本海沿岸の火山脈の多き地方とす九州も亦火山に富めるを以て温泉従ひて多く四國は甚だ少くして北海道は西部に多し。温泉の總數は全國に四百三十二あり内本州に三百〇九四國に九九州に七十北海道に四十四あり

○地震 本邦は有名の地震國なり。古來慘烈なる震災を被りしこと尠からず。統計によれば殆ど毎十年に一大地震ある割合にして微震をも通算すれば殆ど一日として震動なき日はなし其の震力度數は各地同一ならざれば概ね地盤の堅固なる地方は弱く且稀なれど火山地方又は地盤軟弱なる平原は強く且つ多し殊に富士帯の近傍關東平野濃美平野等は最も頻繁にして亦強烈なり。明治二十四年の濃尾二十七年の東京二十九年の陸羽の大地震の如きは親しく人の知る所なり

地震の海中に起るを海震と云ひ恐るべき海嘯を生ずることあり。本邦古來海嘯の害少からず近くは二十九年三陸地方海嘯の如きは人の普く知る所なり

○洋流 我國四近の海洋中には暖流及寒流共にあり。暖流は日本海流と稱し南方赤道附近より來り台灣の東方を北流し北緯二十六度の邊に於て本支二流に分る本流は琉球列島の東を流れ九州四國本州の南岸を洗ふ其の色深藍色なるを以て黒潮と稱し伊豆諸島の間を流るゝ時最も著しく黒瀬川の稱あり尙ほ進んで犬吠岬の沖を過ぎ日本陸地を遠ざかり東方に流る其の温度は通常の海水に比して四五度高し。支流は對馬海峽より日本海に入り其の東部を流る是れを對馬海流とす津輕海峽の西方に至り分れて二派となり一は津輕海峽を出て、消滅し他は北流して宗谷海峽を経てラコック海に入りて其跡を絶つ

我が國の近海を流るる寒流に三派あり。一は親潮と稱し堪察加半島及千島列島に沿ひて南流し本州の東岸を洗ひて犬吠岬附近に於て黒潮に會ひ表面に其跡を失ふ。他の二派はラコック海より起り露領沿海州の東岸を南に流れ樺太島の北角により分れて二派となり。該島の東岸を南流するを樺太海流と云ひ千島の間



を出で、親潮に合するものと日本海に入りて其の中央を流るゝものとあり他の一派を來滿海流とす亞細亞大陸の東岸に沿ひて南流し朝鮮海峽を過ぎて東海に出づ

以上の如く我が環海には暖寒の洋流あるを以て之が爲め氣候を感得せられ若くは船舶航路の便を得ること多し

○氣候 我が國南端僅に熱帯に入る外總べて北温帯内に在りて到る處氣候和順にして四季皆愉快に生活することを得べし。亞細亞洲中に於て氣候の温和なること一も我が邦に及ぶ處なし。今國內各地に就きて全年の平均温度を述べれば台灣島の南端に於ける二十五度を最高とし北海道本地北端五度を最低とす其の差は二十度にして中央部の平均温度は十二度なり此の中央温度は歐羅巴の南部諸國及支那中央部と同等なり

夏期(八月)の平均温度は南部の二十七度より北部の十五度の間にあり冬期(一月)は南部の二十七度より北部氷點下十度を最低とす我が國は海を環らす島國なる上に南面は温暖なる黒潮の洗へるを以て著しく温暖なり但東北の一部は寒流に洗

はれて稍々寒冷なれども全体より之を見れば寒暖中和の好氣候にして暑熱の人を傷害すること少く又寒氣の營作を妨ぐる地稀なり。是れを以て動植物皆其の所を得て全土風色に富み亞細亞洲中にありて最優等の國なり

我が日本は温帯中多雨の國なり。全年平均雨量は一千五百七十三耗あり即全邦土の面を五尺二寸の深さを以て掩ふ割合に當れり各地により又多少の差あり。降雨の量最も多きは二所あり(一)大隅より志摩に至る太平洋岸一帯の地(二)加賀能登越前等の日本海に面する地方とし何れも二千三百耗以上あり。又雨量の最も少なき所は蝦夷島にして之に亞々を本州中央部の信濃より兩野に至る内地及瀬戸内沿岸の各地とす。季節に就て言へば暑候は多雨にして寒候は降雨稀なり。六月及九月は霖雨多く殊に六月は「五月雨」と稱し降雨連日に亘ることあり。十一月より翌年三月頃までは天氣晴朗の日多し。我が國は西北に大陸を受け東南は大洋に瀕するを以て

風は主として此の二者に支配せらる。即夏期は太平洋より亞細亞大陸の内地に向ふ風あり是れ夏日南風及西南風多き所以なり。冬期は之に反して亞細亞大陸よ



り黒潮に向ふ西北風あり此の風は烈寒の地を掃ひ來るを以て此の風を被る間は我が邦の寒氣は較々強し。九月の上旬には往々颶風起ることあり此の颶風は比律賓群島若くは臺灣島附近に起り東北に進み九州四國を経て日本海に出で北海道を横ざりて遙に東方に向ふものなり

○動植物

○植物 我が邦の地形は斜に長く三十緯度を通して太平洋波上に横はり且つ氣候の溫暖なるど雨量の多きとにより寒温熱三帯の植物を併有し有用の樹木及華麗の花卉尠からず。凡北緯三十二度以南なる九州南部臺灣琉球小笠原島及其他の諸島には熱帯の植物繁茂し其の重なるものは樟榕樹羊齒蘇鐵竹栢露兜樹檳榔椰子檳榔樹龍眼肉芭蕉實芒果等特種の産あり。九州四國本州及蝦夷の南部には温帯植物能く生茂し國民の命脈を繫ぐ米麥の嘉穀を首とし穀類豆類及纖維植物能く生し喬木には杉檜樅樺公孫樹赤松黒松山毛櫸柯樹茶梅櫻楓栗山茶茶梅檜檜樺椴椴梅等の有用樹繁茂せざる地なし。蝦夷の北部及千島列島には寒帯樹類の植物繁茂す赤楊蝦夷松偃松椴松羅漢松等を重なる特生樹とす

海中にも亦海流と緯度とに應じて海生植物數多あり  
 ○動物 本邦に繁殖する動物は必要なる食用及他の用をなす家畜禽鳥虫類多く有害なる猛獸有毒なる蟲類等は實に少し。虎象豹の如きも古昔は棲息せしが如しと雖ども現今は其の跡を絶ち唯北海道に熊狼を産すると臺灣に山猫及豹を棲ましむるのみに過ぎず。内地普通の獸類には馬牛を始め犬猫豚等の家畜は最も多く野生の猪鹿狐狸鼬兔猿の類尠からず臺灣には水牛を産す。魚鳥及虫類は何れも多く特に魚介は熱帯より來る暖流寒帯より來る寒流あるを以て地球上に於ける各種大抵産せざるものなく貴重なる臘虎臘納海豹等をも産せり南部海には熱帯生の特生多く鱈鮭鱈等北部の海には夥しく産す  
 ○鳥類は食用に供すること多からざるを以て繁殖盛ならず鷄家鴨の外著しき食用鳥なく野生の鳥類も人々多く捕獲盛なるを以て多からず。鷹雁鴨鶩鳶鴉雉鳩の類を普通とし鶴は近來甚た少なく臺灣には鴉を見す北海道には大鷲多し此の外各種の小鳥尠からず又渡鳥と稱して秋に來りて春に歸るもの多し  
 ○蟲類は其の種類多けれども利害をなすもの少し只蠶は我國益をなし琉球臺灣に



は毒蛇及有毒の爬虫を生ず

## 第二編

### 人事地理

我日本人種の多數は國祖の子孫にして其血統相同しく性質習慣等亦従つて同じく最も統一したる國民なり故に我國を血族國家と稱し團結甚だ鞏固なり然れども當初より悉く同一種なりとは認むべからず其種屬を別てば下の數種族となるべし。大和種族は國初九州地方より漸く國の中央部に蔓延し他の種族を平けて遂に日本帝國を建設したる最も有力にして最も多數なる種屬なり。容貌温和なれども頗る威嚴を有し性質慧敏にして優美なれども勇敢の質を失はず一般に通じて日本魂なる一種の氣象を有す。然れども規模狭少にして耐久の性に乏しとの評あり。アイヌ種は即蝦夷人にして今北海道に小數を存す此種は初め北日本の全部に繁殖し人口も甚だ多かりしが大和種の繁殖するに従ひ漸次北方に退けり此種は鬚髯深く顔面蒼色を帯び體格は偉大なり額高く眼窠深くして鼻高し性質勇悍なれども智慮淺く人口次第に減少す。其他西南地方より侵入したる慄悍

なる熊襲種。我國先住民たる土蜘蛛種等ありしが今は世々皇室の恩威の下に服し忠君愛國の至情に至りては固より相譲らざるに至れり。國運の隆盛に従ひ臺灣の諸種族も新に我か臣民となり未だ冷く皇化に潤はされども漸次忠良の臣民となること遠きにあらざるべし。我國人口は今より凡一千三百年前は約五百萬なりしが百五十年前に至りては二千五百萬に増加し。明治初年には三千二百萬となり最近に於て四千三百萬あり。而して其の増殖頗る速にして一ヶ年の平均増加は三十八萬人に上り百年の後には今日の二倍に達すべき割合なり。又所によりて疎密の差あり其の最も密なる所は近畿にして一方里に付五千七百人に當り次ぎは關東平原にして次ぎは濃尾平原なり其の最も疎なる所は北海道にして僅に六十二人に過ぎず。全國を平均すれば一方里に付一千七百〇三人に上り其の稠密なること世界に稀なり。此の外臺灣は未だ精密なる人口調査なければも概略二百萬人に下らざるべしと云ふ然れば我國現今の總人口は既に四千五百萬あるべし。我國の風俗は古來質朴を貴び衣食住ともに華美を避け淡白質素なりき。近時西



洋各國と交際せしより從來と趣を異にし生活の程度の高まると共に華奢に流るるの傾向あり。邦人の衣食住は總て我國土自然の勢力に養成せられたるものなり。即衣服は氣候温暖なるを以て寛濶なる日本服となり。食物は我が氣候土地の稻作に適するを以て食米人種となり。住居は良材至る所に多きを以て木造とし夏は開通して清風を入れ冬は閉鎖して寒氣を防ぎ又葎及障を以て風雨を防ぐ等皆我が氣候に相應するが爲めなり。我國は氣候温順なると山水の秀美なるにより人心自ら融和し優美にして技術に長じ敏捷にして學藝を好み且誠實にして忠君愛國の心厚く一旦事あるに當りては水火を蹈むをも辞せず是れ所謂大和魂(やまとだま)なる特有の美質なり。但輕快にして持重に乏しく新奇に趨りて事に倦み易く規模總て狭小にして宏遠壯大の氣象を缺くの通弊あり是れ深く各自に戒めざるべからず。

教育 我教育法は古より忠孝仁義の意義を以て教養の第一義としたり維新後は朝廷最も教育を奨励し玉ひ特に教養の主義として教育勅語を降し玉ひたれば我國教育の主義益々明確となりたり。

教育の楷梯は初等教育中等教育高等教育とし初等教育は尋常小學校及高等小學校に於てし全國に約二萬七千の小學校と三百七十萬の生徒あり學齡人員百分の六十一は就學者なり。中等教育は中學校を主とし全國に一百校と三萬二千の生徒あり其外高等女學校及各種學校あり。高等教育は第一より第五に至る高等學校及山口高等學校ありて四千餘の生徒を養ふ大學は東京京都の兩帝國大學ありて一千八百の學生あり。又至高學問所には大學院の設けあり。教員を養成するに東京に高等師範學校及女子高等師範學校あり各府縣に師範學校(四十校)あり其他各專門學校各技藝學校(三)及約一千三百の各種學校あり。軍事教育には陸海軍大學校(各二校)陸軍には士官學校(二)中央幼年學校(一)地方幼年學校(六)あり海軍には兵學校(二)の設あり。

教育の進歩するに隨ひ著書及新聞雜誌等も年々増加し來り最近一年間に於て圖書の出版せらるゝもの二萬七千部に達し。新聞雜誌約八百種ありて其發兌數約



四億一千萬部に達せり  
 宗教 信奉は自由にして一定の國教なし現今神道・佛教及基督教は國民の間に信  
 奉せらる  
 神道は皇祖皇宗の御威靈を奉祀し或は國家に勳功ありし有徳の君子等を尊崇す  
 るものにして宗教以外の派と宗教に屬する派とあり全國の神社の數十萬あり  
 佛教は其の傳來遠く一千二百年以前にありて我國の風俗文化其他百般の事物に  
 影響を與へたること尠からず。其宗派には天台眞言淨土臨濟曹洞黃檗眞宗日蓮  
 融通念佛法相華嚴の十二宗あり其中眞宗最も盛なり。全國の寺院は七萬一千八  
 百僧尼の數五萬三千餘あり  
 基督教は初めて足利氏の末葉に渡りしかども一旦國禁となり維新後再び禁を解  
 かれ漸次國內に傳播せり最も盛なるは新教とし其の他舊教希臘教等あり。全國  
 會堂の數は八百八十餘傳道師の數は一千六百人にして信者の數九萬五千餘に上  
 り臺灣にも亦三千餘の信徒ありと云ふ  
 土地 古來我國の土地は悉く帝室の御領にして所謂率土の濱も王土にあらざる

はなく各々領主を置きて之を管せしめ農民は全く小作者なりしが維新以後は一  
 般人民に土地の私有を許し官有民有の種類を分つことゝなれり。官有地の總反  
 別は二千百三十九萬三千餘町にして民有地の生産反別は一千三百八十九萬九千餘  
 町なり(此の價合計十五億  
二千五百五十萬圓)而して民有地の田地反別は二百七十三萬二千餘町にして畑  
 地は二百二十七萬七千餘町なり

生業及物産

我國は氣候の温暖にして雨量の多きと土地の肥沃なるを以て天産物豊饒にして  
 各種の生業行はる以下各生業産物に付述べん  
 農。業。及。農。産。 我國は古より「瑞穂の國」と稱し最も穀産に富めるを表せり且農は國  
 の本として世々之を奨勵せられたるを以て農業は能く進歩したり。故に農民の  
 數は實に全國人口の三分の二を占むるに至れり然れども田畑は五百萬餘町にし  
 て人口の衆多なるに比すれば多しと謂ふべからず其の産物も悉く國民の消費す  
 る所たり  
 農。産。物。の。中。最。も。多。量。な。る。もの。は。米。に。して。平。年。産。額。四。千。萬。石(一人に付  
約二石)に上れり次ぎ



を麥とし平産一千八百万石に達せり是れを穀物の二大産とす大小豆は約八百五十万石を産し粟二百二十万石及蕎麥(百二十万石)稗(百万石)黍(二十五万石)の産あり其の外能く下層民を養ふ甘藷は殆ど六億貫を産し馬鈴薯又四千万貫を産せり藍綿麻烟草砂糖漆等も我國産に數ふべきものなり

蠶業は近年大に發達し殆ど全國に亘り産額も夥しく蠶糸の平年産額は二百十萬貫に上れり。之に次ぎ盛なるは製茶にして最近の産額は八百五十萬貫に達せり此の外臺灣にも三百万貫を産すと云ふ此の生糸茶の二品は輸出品中最も重要な品なり

工業及工産 本邦人は意匠手工共に巧なるを以て東洋美術國の名を博せり。各種の製造業中にも機業最も盛にして其の進歩も亦著しく織物の最近産額は殆ど一億八千万石に上れり絹織物の最も盛なるは京都西陣を第一とし福井、栃木、群馬の三縣之に亞ぎ山梨、東京、滋賀亦之に亞ぐ木綿織は愛知を最もとし和歌山、埼玉、大坂之に次げり全國の織工一百余万人に達せり。紡績業も漸く進歩し鍾數七十六万個綿糸の産額二千一百万貫に達し此れに従事する男女の織工六百万人に及ぶ

○釀酒は年額四百万石に上り兵庫を以て最もとし次ぎは愛知、福岡、長野等此れに次ぐ○醬油の産出額は一百四十万石にして最も多きは千葉なり○紙類の産額は九百万圓に上り産出の最も多きは高知とし次ぎを愛媛、岐阜とす西洋紙は東京、福岡等より多く産せり摺付木製造も亦近頃盛大にして五百五十万圓を出し兵庫の産出は全額の過半を占む次ぎは大坂、愛知、東京等にして多く支那、朝鮮、印度等へ輸出す○陶磁器は産額五百萬圓に上り愛知、岐阜、京都、佐賀、石川等産額頗る多く海外輸出品の重要なものなり○漆器は我國の特技にして近來輸出品漸く増加し三百二十萬圓の産額に達せり

○其他製革(大坂、東京、兵庫)、疊表類(岡山、廣島、大分)、裝飾品等は重要製造品なり。然れども規模宏大の機關によりて製造するものは未だ總て幼稚なり。本邦は最も工業に適する諸資格を備ふる國なれば將來東洋の一大工業國を以て自ら任せざるべからず

○林業及林産 森林の富は獨り木材、薪炭等の材料たるのみならず國土の風景をも添へ氣候を調和し水源を涵養する等の副効あり。我國は森林に富み全國各所



に茂林の緑滴んとするを見ざるはなし中にも陸奥、羽後、兩野、信濃、(木)越中、伊豆、(天)駿河、遠江、伊勢、大和、紀伊、日向等には大森林あり。特に木曾、紀伊、大和、天城の諸山は良材豊富を以て名あり。森林の段別は一千八百万町歩あり其の立木の數無慮三百九十四億本以上に上れり即一人口に付殆ど一千本の割合とす

○牧畜及畜産 我國土は牧畜に適せざるにあらざれども此の業は未だ發達せず近時肉食論盛なるに従ひ牧畜業も漸く進まんとす。畜産中最も重要なるものは牛馬にして近年外國の良種を輸入して頻に改良を計れり全國牛の頭數は一百三十万にして馬は一百五十三万頭なり牛の産地は九州、中國に多く特に但馬は著名の産地とす馬は奥羽及九州を主産地とす豚の飼養盛なるは東京、千葉、長崎、鹿兒島、沖縄、及臺灣等なり。牧羊は千葉及北海道に稍々行はれ臺灣の水牛は食用及農用に適せり

○漁業及水産 本邦は四回環海にして且暖寒の海流共に此れあるを以て甚だ水族に富り。漁場の面積は耕地の面積よりも遙に廣く實に無盡の富源と謂ふべし特に北海道の沿海は世界三大漁場の一と稱せらる。現今全國漁業者の數は三

百三十万余人にして總人口の十二分の一餘に當り其産額は三千六百五十万圓なり。魚類の産出最も多きは北海道の鯡(八百)を第一とす。又鰺、鯉、鯛、柔魚、鮭等は各百万圓以上の産額あり此の外北海道には臘虎、臘肭臍、及各所の沿海には鯨等を産すれども其の捕獲未だ邦人の熟せざる所にして却て外人に其利を占められんとするの模様なり。水産は魚貝、海藻、製鹽を始め陸産に劣らざれども魚漁法宜しきを得ざると資本の不足なるによりて規模小にして其富は空しく海水に附與せしが近時遠洋漁業奨励法を始め着々之か改良進歩を計り其業稍々見るべきものあるに至らんとす

○鑛業及鑛産 我國の地質の錯雜せるを以て種々の鑛物に富り。特に重要なるは石炭、銅、鐵にして石炭は年額四百八十万噸(價額一千二百五十万圓)に上り九州の西北部及北海道の西南部に埋藏すること最も多し銅は年額五百萬貫に達し世界第三位の銅産國なり多く海外へ輸出す下野の足尾、伊豫の別子は重なる産地なり○鐵は從來産額多からざりしかども將來有望の一鑛にして既に製鐵所の設けあり○銀は右三鑛に次ぎ年額十八萬貫を産し○金は二百四十萬餘を産せり其他硫黃の産額



は世界第二位を占むれども往々第一位に進むべし。安質母尼は佛蘭西を除けば我國に及ぶ所なし。○又大理石、花崗岩、粘板岩等の石材、水晶、瑪瑙等の寶石及石油、陶土等の産あり。

○商業 封建時代には各々一地方を區畫して交通不便なるが上に通貨も一樣ならず有無相通すること少く従ひて商業は一小區に限られたり近時此の區劃を去り全國比隣の如く物貨の共通繁く商業甚だ活潑なるに至れり。商賣の最も盛なる地は東京、大坂、京都、を首とし名古屋、仙臺、徳島、廣島、熊本の各市とす。是れ等の地は其の近傍に廣大の生産地を控へ交通の便備はりて貨物の集散配送所たり殊に東京は全國貨物の集散所にして大坂は關西商品の輻湊する所なり是を我が國二大商業地とす。此れ等商業地には必ず商業の機關たる銀行、會社、取引所及運送會社等悉く具備し一方には金銀貨幣の融通を圓滑ならしめ一方には貨物運輸の便を資く

國內重なる都市には商業會議所の設けありて以て商業の進歩發達を圖り又交通の發達に従ひ各地の商況物價互に相通し又商法、發明、特許、意匠、及商標、登録の制あり

りて商業を保護せし諸會社の數二千五百社之に注入せる資本金一億八千萬圓に達し諸種の銀行一千餘店、一億二千萬圓の資本流通せり。

○外國貿易業は年々進歩し最近の輸出入總額は三億二千萬圓に達す内輸出一億四千萬圓、輸入一億八千萬圓あり一人口に付三圓三十三錢の國産を出して四圓二十八錢の外品を需用するの割なり。

輸出品の主なる物は生糸、絹布を最多とし茶、穀物、石炭、綿布、海産物、金屬、陶磁、漆器等にして○輸入品は綿願を最とし砂糖、穀物、毛糸、毛織、金屬、學術品、油類、車船等を主とす○貿易の最も盛なるは英國との間にして之に英領なる香港及印度の貿易額を加ふれば殆ど我全貿易額の四割を占む次は米國にして多く我生糸を輸出す第三は支那にして第四を佛國、第五を獨乙とし何れも一千万圓以上の取引あり之に次くを朝鮮とし其他露、伊、濠、等なりとす。

○交通 交通の便否は直に國の文野に關す我國維新後は銳意交通の便を圖り封建時代とは大に其趣を異にせり交通機關は道路、鐵道、郵便、電信、電話、船舶等なり。

○道路 全國の道路は國道、縣道、里道の三種に分つ。國道は東京より道府縣廳并



は伊勢大廟に達する線路と道府縣廳と各師團とを連絡する線路を云ふ○縣道は各府縣廳を連絡し師團と營所とを通じ各府縣廳より市郡區役所に達する線路なり○里道は各村落の間を通する線路を云ふ

○鐵道 交通機關の最も重要なものは鐵道なり我國鐵道の起原は明治五年東京横濱間に敷設したるを始めとし今や全國の各要所に通じて其延長三千三百八十哩(三十二年現在)に達し尙工事中の線路頗る多し。我國現時の汽車は一時間凡二十哩を走り百哩の長程も尙五時間にして走るべし故に鐵道より享くる便益は豫想の外に出づるものありて鐵道の布設ある地と布設なき地とは其發達に大差あり(各道の連絡は圖に據りて之を見よ)

○郵便 古昔各地の音信を通せんには不完全なる飛脚屋と稱するものによりて僅に其用を便したりしか明治四年郵便の創設以來音信至る所通せざるはなく其用次第に弘まり現時一ヶ年の郵便物數五億四千三百三十餘万個に上り一人口に對して平均十二通に當れり

○電信 明治二年創設し既に全國の重なる都邑に通じ一年の電信數は一千二百

万通に及べり

○電話 明治十八年始めて架設し未だ東京横濱大阪神戸の四市に限れり

○海運 海運事業も近時著しく進歩し日本郵船會社大阪商船會社を始めとし百餘の河海運輸會社ありて蒸氣船の數五百七十艘積載噸數二十二万七千に達し之に西洋形帆船を加ふれば二十五万噸に垂んとす。沿海の重なる諸港には船舶の往復せざるはなく外は支那朝鮮の各港及浦羅斯德を初めとし西は遠く亞細亞南岸の要港を経て歐州に達し南は濠洲に到り東は遙に米國に定期航海を開くに至れり

○國體 大日本帝國は開闢以來萬世一系の天皇の統治し玉ふ帝國にして君主國體なり上には尊榮なる。帝室を戴き下には億兆の臣民皆其恩澤に浴し一國の團樂怡も一家族に異ならず故に或は我帝國を血族國家と云ふ。斯の如き國家は世界廣しと雖ども其比類なく皇運の隆盛なること天壤と共に窮りなし

○政體 政體は明治二十三年二月紀元節を以て大日本帝國憲法を發布せられ專制政體を改め立憲政體と定められたり。政治機關は帝國憲法により立法行政司



法の三大権に分つ

○立法部は帝國議會と稱し別れて貴族院、衆議院の兩院となる

貴族院は皇族華族及國家に勳功あり又は學識ある勅撰議員各府縣一名の多額納税議員を以て組織し。衆議院は各撰舉區に於て地租五圓以上所得税營業税三圓以上を納むる者より公撰せられたる議員總て四百四十五人を以て組織す

○行政部は内閣を中樞とす内閣は各國務大臣(各省)を以て組織し内閣總理大臣を以て首班となす。内閣の下に外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信の九省あり國務大臣一人各々其長官たり。別に帝室の事を奉掌するを宮内省とし其長官を宮内大臣とす又 天皇陛下の至高顧問府として樞密院あり國家の元老を以て其顧問官に任ず。帝國の會計を監督する所を會計検査院とす

○地方行政は三府四十三縣に分ち即ち府縣の長官を知事と稱し其管内を統轄す各府縣の下に郡、市、町村の區劃あり郡に郡長を置く。市町村は自治制にして其長を市長、町長、村長と謂ふ皆公撰にして其管内の事務を掌る。又府縣以下其意思を代表する機關あり之を府縣會、市會、町會、村會と云ふ

北海道長官、全道を統轄し其下に區長、郡長あり。臺灣は臺灣總督府を置き、全道を統治せしめ其下に六縣、三廳あり

○司法部は裁判官を以て組織し最高裁判所を大審院と稱し、東京に置き其下に七控訴院あり、東京、大坂、名古屋、廣島、仙臺、長崎、函館に置く。又各縣には一個の地方裁判所ありて、其下に三百餘個の區裁判所を置く。臺灣には高等法院、覆審院、及各地方法院を置く

財政

財政の發達進歩するには國第一に經費を要す其經費は國民より醜集すべきものにして之を租税と稱す國民は必ず租税負擔の義務を有す之を納税義務と云ふ

租税には國税、地方税の別あり國税は政府より直接に徴収する税にして地方税は府縣廳より徴収する税を云ふ又郡市、町村等に於て徴収するを郡市費、及町村費と云ふ

租 税

國税は國家事業に要する經費を支辨するものにして其徴収は下の科目に分つ、(一)地租、(二)所得稅、(三)海關稅、(四)酒稅、(五)醬油稅、(六)菓子稅、(七)賣藥稅、(八)船車稅、(九)證券印稅、(一〇)



續業税其他官業諸收入等あり。  
 其徴収額即歳入は國運の進歩と共に年々増加し、明治卅一年度に於ては、凡二億五千萬圓なり、而して歳出は皇室費を始め、諸官省費を支辨するものとす。  
 地方税は府縣限りの事業に要する經費を支辨するものにして、其徴収は地租割、營業税、戸數割及雜種税とし、其歳入、歳出とも各府縣に於て同じからず。郡市費及町村費の徴収は、地價割、家屋及戸數割、營業割所得税附加等にして、其歳出入とも各郡市町村に於て同じからず。

參政權

國民は以上各種の租税負擔額に應じて、政治に參與する權利、參政權に等差あり、國稅負擔額多きものは、國政に參與するの權重く、地方税負擔額多きものは、府縣政に參與するの權重し、又市費、町村費を負擔する者は、郡市政、町村政に參與すると得、國會議員、府縣會議員、市會議員、町村會議員の資格は是によりて生ず。

政黨

國民に參政權ある以上は、國家の政治に就き各々其意見を有す、而して其意見を同

うする者、相團結したるを政黨と云ふ、我國政黨の重なる者は、憲政黨、自由派、憲政本黨、進歩派を二大政黨とす、憲政黨板垣退助を首領とし、憲政本黨は大隈重信を領袖とす、之に最近に於て組織せらるゝ國憲黨あり、其外品川彌次郎の率ゆる國民協會、熊本の國權黨等ありて、各々其主義目的を有し、各議會に於て其意思を發表せり。

國防

我國防線は甚た長くして、總て海防線なり。帝國の軍隊は、天皇陛下の統率し玉ふ所にして、分ちて陸軍、海軍とし、全國皆兵の制なり。故に帝國臣民は、男子は満十七歳より四十歳迄皆兵役の義務あり。兵役は分ちて常備兵役、後備兵役、補充兵役、國民役の四種とす、各兵役年限等左の如し。

現 役 〔陸軍〕三年 〔海軍〕四年 滿二十の男子

常備兵役 〔陸軍〕三年 〔海軍〕四年 現役を終りたるもの

後備兵役 〔陸軍〕五年 〔海軍〕五年 現役を終りたる者之に服す

補充兵役 〔陸軍〕第一補充兵役 七年五月 現役兵員に超過する者  
第二補充兵役 一年四月 第一補充兵員に超過する者

海 軍 一年 現役兵員に超過する者



**國民兵役** 第一國民兵役——後備兵役を終りたる者  
 第二國民兵役——〔常備兵役、後備兵役、補充兵役及第一國民兵役を終りたる者〕

○陸軍 日本全國を十二師管に區別し、一師管に一師團の兵を備ふる制なり。一師管を更に分ちて二旅管となし各旅管に一旅團の兵を置く。更に一旅管を分ちて二聯隊區となし各聯隊區毎に一聯隊の兵を置く故に全國に二十六旅團五十二聯隊區あり。但臺灣は以上の管區外にして混成三個旅團を置き其守備に任ず。

○兵種は歩兵、騎兵、砲兵、工兵、輜重兵、屯田兵、憲兵、鐵道隊、軍樂隊等にして全國各要地に配備屯駐せしむ。又要所に要塞砲兵あり。小笠原、佐渡、隱岐、大島、(大)沖繩、五島、對島には警備隊を置く。全國の兵備配布左表の如し

都督部及師團旅團聯隊所在地

都督部	師團	旅團	聯隊	配備地 <small>(地名ノ下ハ聯隊)</small>
近衛師團	東京	近衛第一旅團	東京	(一) 高崎
近衛第二旅團	佐倉	近衛第二旅團	佐倉	(二) 松本
				(三) 高崎
				(四) 佐倉
				(五) 佐倉

東 部				中 部			
都 督 部 (京 東)				都 督 部 (坂 大)			
第一師團	第二師團	第七師團	第八師團	第三師團	第四師團	第九師團	第十師團
東京	仙台	札幌	弘前	名古屋	大坂	金澤	姫路
第一旅團	第二旅團	第三旅團	第四旅團	第五旅團	第六旅團	第七旅團	第八旅團
東京	東京	仙台	仙台	新發田	新發田	新發田	新發田
東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京
(一) 松本	(二) 高崎	(三) 高崎	(四) 高崎	(五) 高崎	(六) 高崎	(七) 高崎	(八) 高崎
(一五)	(二九)	(三〇)	(三一)	(三二)	(三三)	(三四)	(三五)



都督部	師團	師所在地	旅團	旅團所在地	步兵聯隊	配備地	(地名ノ下ハ聯隊號)
西都督部 (倉小)	第五師團	廣島	第九旅團	廣島	廣島	(一一)	(四一)
	第六師團	熊本	第十一旅團	熊本	鹿兒島	(一三)	(四五)
部	第十一師團	九龍	第十旅團	松山	高知	(二二)	(四四)
	第十二師團	小倉	第十二旅團	小倉	小倉	(二四)	(四七)
			第二十三旅團	大村	熊本	(四六)	(三三)
			第二十四旅團	久留米	久留米	(四八)	(二四)

○海軍 全國(台灣を除く)の海岸及海面を五海軍區に分ち各海軍港に鎮守府ありて其軍區を管轄し數多の軍艦之に分屬す  
 各鎮守府には海兵團ありて軍艦乗組員の屯在所とす。現今帝國軍艦の數は、四十三隻にして此の噸數十萬四千噸なり。内富士八島の二艦は各々一万二千餘噸長さ三百七十呎にして帝國軍艦中の最大艦なり、次ぎは清國より収容したる鎮遠とす松島、嚴島、橋立、高千穂、浪速、吉野等の諸艦は何れも二十七八年役に軍功ありし名

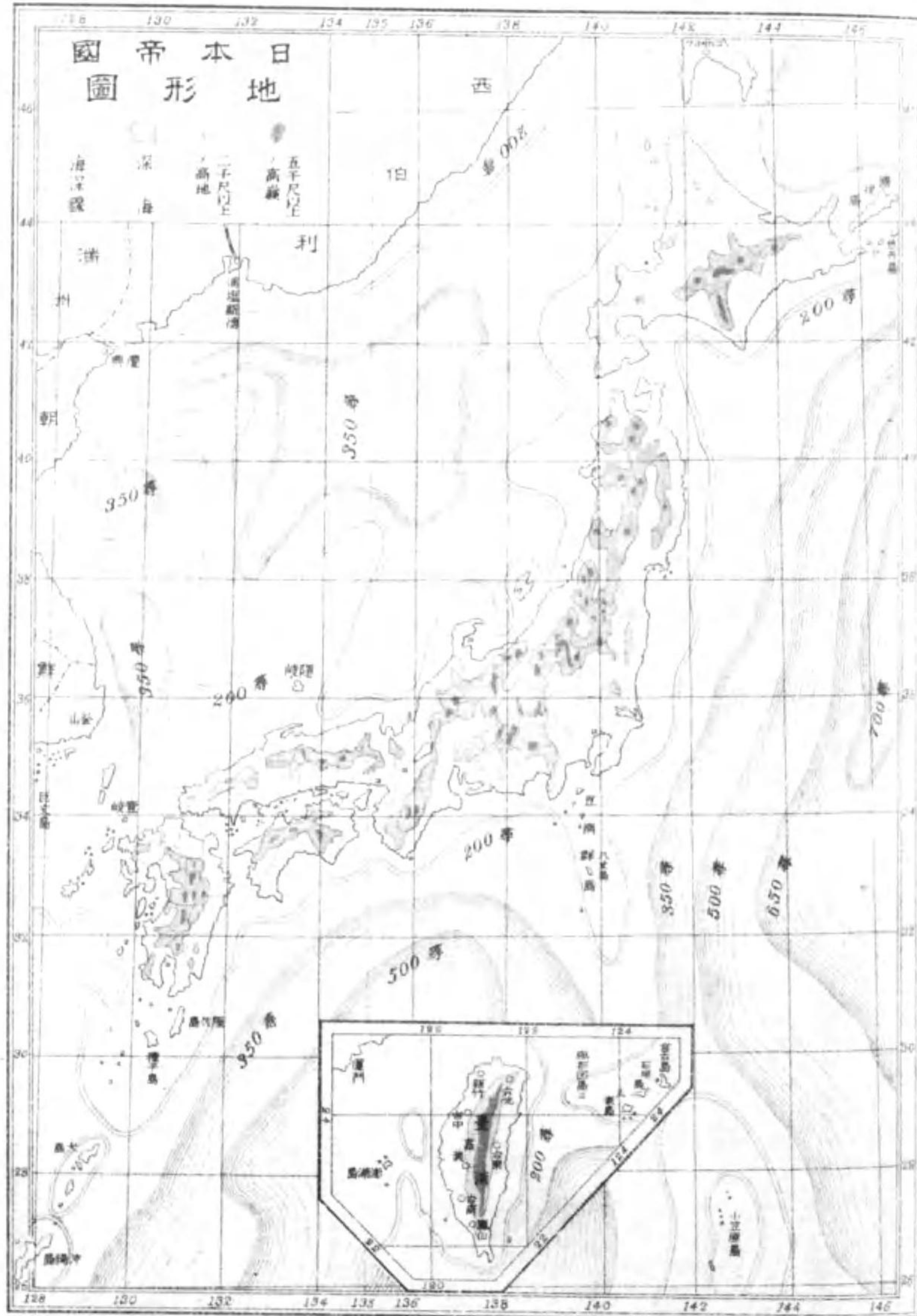
譽の軍艦の重なるものなり

海軍區軍港鎮守府所在地及管轄區域

區劃	軍港	鎮守府	管轄區域	海岸延長
第一海軍區	相摸國橫須賀港	橫須賀鎮守府	陸奥九戸郡下閉伊郡界ヨリ紀伊國南牟婁郡東牟婁郡界ニ至ル海岸海面及小笠原島海岸海面	一、〇五七哩
第二海軍區	安藝國吳港	吳鎮守府	紀伊國南牟婁郡界ヨリ石見長門國界マデ又筑前國界ヨリ日向大隅國界ニ至ル海岸海面及四國海岸海面並ニ内海	二、〇六七哩
第三海軍區	肥前國佐世保港	佐世保鎮守府	豊前筑前國境以西九州ノ西海ニ沿ヒ日向大隅國境ニ至ル海岸海面及壹岐對馬沖繩諸島ノ海岸海面	一、四九七哩
第四海軍區	丹後國舞鶴港	舞鶴鎮守府	石見長門國界ヨリ羽后陸奥國界ニ至ル海岸海面及隱岐佐渡ノ海岸海面	一、〇五五哩
第五海軍區	膽振國室蘭港	室蘭鎮守府	北海道陸奥及陸中九戸郡海岸海面	二、二七六哩

以上五鎮守府中舞鶴は工事中室蘭は豫定地たるのみにして吳及横須賀の兩軍港にて之を分管す  
 外交





我國と朝鮮とは一葦帶水を隔て、古來交通頻繁なりき、殊に三韓は一時我國に屬せり、其後支那との交通も亦開け、其文物技藝等を輸入せしこと尠からざりき、天文九年に至り、初めて葡萄牙の商船來り、尋て和蘭英吉利の商船亦來り、通商貿易せしが、耶蘇教輸入して遂に島原の變亂となりしより、徳川幕府は支那、和蘭二國船の交通を禁じたり

降りて嘉永六年(紀元二千五百十三年)合衆國の使節ペルリ來り、次で英、佛、露の使節も來航して、交々互市を乞へり、是れを以て安政元年遂に北米合衆國と和親條約を結びしを始めとし、爾來諸外國は修好條約を訂結し、二千五百有餘年來我國は始めて世界の日本として、外交場裡に出でたり、現今條約國の數左の二十一國あり

- |      |     |    |       |
|------|-----|----|-------|
| 歐羅巴洲 | 韓國  | 清國 | 暹羅    |
| 英吉利  | 露西亞 | 和蘭 | 佛蘭西   |
| 白耳義  | 伊太利 | 丁抹 | 瑞典諾威  |
|      |     |    | 葡萄牙   |
|      |     |    | 西班牙   |
|      |     |    | 獨逸    |
|      |     |    | 奧地利   |
|      |     |    | 瑞士    |
|      |     |    | 埃地甸牙利 |
|      |     |    | 瑞西    |



亞米利加州

北米合衆國

墨西哥

伯刺西爾

秘露

太平洋

布哇<sup>ハワイ</sup>明治三十一年來は北米合衆國に合併して其一州となれり

即ち亞細亞洲に於て三個國。歐羅巴洲に於て十三個國。亞米利加州に於て四個國。太平洋に於て一個國なりしも、今は米國の一州となれり

以上諸條約國の首府には公使を駐割せしめ、其國に於て日本帝國を代表し、兩國間の和親修好を司り、在留の帝國臣民を保護監督せしむ。又條約國の貿易港には總領事又は領事<sup>○</sup>を置き、其地在留の帝國臣民を保護し、又商事を監察せしむ

諸外國との交際は日に親密を加へ、特に明治三十一年來は諸外國と對等の修好條約を締結し、歐米諸國とも同等の交際をなし、外國人も内地に雜居するに至れり



第二編

地方誌

東京府

武藏の内一市八郡  
伊豆諸島小笠原島

○形勢 武藏野の中央を占め、隅田多摩の両河之を貫流す、南東は東京灣に臨み、北西邊は關東山脉の一部なる小佛峠コボトツの山地に屬す、土地肥沃にして形勢佳良の要所を占む。

○關東風習 近古以來、徳川氏此地に居りて、三百年の覇業を採れり、江戸は爾來、全國人士の輻湊する所となり、頗る關東人の特質を失ひ、「日本普通風」となりたれども、尙江戸の子氣象として一種任侠の風を有せり、近來都人士は漸く柔弱に陥らんとする傾あり然れども、近世の文華は概ね此地より胚胎しつゝあり。

○東京市 (百四十) は東京灣の濱、隅田川の兩岸に跨り、東西四里、南北四里半に亘る大都會なり、宮城其中心に位し、諸官省其周圍に在り、我國の首府にして政治、學問、商業の中點となり、全國百般の事物悉く連絡を此市に有す。

○市區 此地は元と「江戸」と稱し、太田道灌始めてこゝに城く、後徳川氏大に改築

して治所と定め、全國の諸侯を參勤交代せしめ、其邸第を設けしめたるを以て、商賈多く集り、日本の中心地となれり、市は十五區に分つ、麹町區は市の中心となり、丸の内と稱する外濠内には、宮城を始め、諸官衙兵營等多く、此内に在り、是より外街に通ずるには城門多く、古は、江戸四十八見附の稱ありし。

下々町 商業區は大抵宮城の東南を繞る、就中日本橋區は豪商多く、自ら商業區の中心たり、京橋區の銀座通りは、總て煉瓦石造の家屋にして、各新聞社、諸會社多し、神田區は商賈繁昌す、此三區は人口最も稠密なり、芝區には芝離宮及公園あり、下谷區には上野公園、淺草區には淺草公園あり、之を三大公園とし、本所深川の二區は隅田川の東岸にありて、諸製造場多し以上八區を下々町と稱す。

山の手 宮城の西北なる六區は、丘陵起伏し、山の手ヤマノテの稱あり、赤坂區には離宮あり、本郷區には大學、高等師範學校を始め、學校多く、小石川區には植物園あり、麻布四谷半田の三區は皆丘陵によりて邸宅地に適せり。

市の交通 隅田川の上流を「荒川」と稱し、南流して市の東部を過ぐ、有名なる「荒川」は「問はん都鳥」の古歌は此河の鴈を云ふ、市中を縦横する數多の濠水、此の河に注入し、



大に交通運輸を資く、川には吾妻、兩國、永代等六大橋を架せり、市中重なる通路には馬車鐵道を敷設し、鐵道は新橋、上野、本所、飯田町の各停車場あり、全国各地に通せり、又街道には品川驛より東海道の千住驛より奥羽街道に、板橋驛より中山道に新宿驛より甲州街道に通すべし。

近郊名勝 近郊には名所多し、隅田川の東岸は、向島（カウジマ）と稱し、多く櫻樹を植え、開花の候は都民群集し、河水も躍る斗りの賑合なり、其外東郊には、龜井戸（天満宮）堀切（花菖）あり、西郊に目黒（不動）十二（養）金井（花）あり、南郊には梅花の諸莊園及池上（本門）川崎（大）あり、北郊には王子（新）飛鳥山（花）瀧野川（紅）等あり、何れも四季折々に都民の遊覽する所なり。

○都邑 八王子町（二万）は甲州街道に當り絹織の産物を以て著名なり、東京より鐵道通じ便利の地なり。青梅は綿を産す、又鐵道東京に通せり。

○風土 府下は東京灣に濱し、氣候温暖にして恰も我國の中等温度（平均）なり。夏は海風暑を拂ひ、冬は風強けれども晴天多く、快活の地なり、梅の開花は二月中旬にして、櫻花は四月中旬を盛とす、平地よりは諸種の農産物を出し、西部山地は養蠶盛なり。

り、東京市は商業最も盛に、銀行諸會社卸商業多く、工業は造兵、印刷、出版業、洋品模造、雜貨製造等にして、又官吏雜業者多く、富豪尠なからざるを以て生活華奢なり。

○豆南諸島 伊豆の南より太平洋上に羅列する七島を伊豆七島と云ふ、富士帯の海底より噴起せしものなり、大島最も大なり、島中に三原山（活火）あり、昔爲朝の流竄せられし島なり、其南に利島、新島、神津島、三宅島、御藏島あり、三宅、御藏兩島の間は黒潮の流最急に黒瀬川の稱あり。

御藏島の南に八丈島あり、八丈絹を産す、此島は伊豆の南端を距る四十七哩にあり。八丈島の南百五十哩に小笠原群島あり、父島最も大に、母島之に次ぎ、兄弟、姉、妹等の諸島あり、父島に鳥廳を置く、諸島よりは熱帯性の動植物を産す、此群島の南に硫黄島あり。

埼玉縣

武藏の内 九郡

○地勢 武藏の北東部平地を占め、西部は秩父山（關東山）あり、武甲山、三峯の如きは平原の西を限る高山なり。



荒川、中川、江戸川の三流、平原の間を流れ、支流管内に逼ね、運輸灌漑共に便なり。  
 ○浦和町 は縣廳所在地なり、東京より厘に十二哩餘、奥州鐵道線に當る。大宮驛には武藏一の宮なる氷川神社あり、境内は公園にして老樹泉水あり、風致佳なり、此驛に於て鐵道は奥州線と直江津線とに分る。奥州線に沿ふて栗橋驛あり、穀物産地の市場なり、直江津線に沿ふて熊谷驛(三万)あり、川越町(九千)は鐵道東京に通じ、甘薯の産地なり。

○物産 平原地方は土地肥へ農産物甚だ多く、西部は秩父郡にして養蠶機械の業盛に、秩父絹最も名高し。

神奈川縣

武藏の内一市 三郡相模八郡

○地勢 相模の中部は武藏に續く平原にして關東平原の西邊なり、北部は丹澤山、榮幡より大山(兩峰)最も著はる、伊豆境には有名なる箱根山(富士)横はり天然の一大境界を限り、駒ヶ岳、雙子山、足柄山等ありて山中に温泉涌出し、遊人常に絶へず、蘆湖、山中に湛へ湖畔に離宮あり。  
 相模の東に馬入川(相模)あり、西に酒匂川あり、南方は相模洋に面し、三浦半島其東を

擁し、景勝の地なり、三浦半島の南端を三崎と稱し、遙に真鶴崎と相對す、觀音崎は富津崎(上)と相對して東京灣の口を扼せり、武藏の部は内海に濱する平原なり  
 ○横濱市 (十八万)は縣廳の在る所、其港は南に本牧岬出て、港口を扼し、船艦の碇泊安全なる東洋屈指の港なり。貿易港と定められし以來、俄に繁榮し、貿易の盛なる我國第一とす、市内街衢正しく正金銀行、税關、居留地等あり、東京へは十八哩にして海路は内外諸港との汽船往來し、益々繁榮に赴く勢なり。

○名所 小田原町は箱根の東麓にあり、昔北城氏の據りし古城跡あり、後大久保氏封せらる、提灯梅干の産あり。横須賀(八千)は三浦半島にある軍港なり、著名なる船渠等あり、浦賀其南にあり、鎌倉は賴朝以來幕府の舊趾にして鎌倉八幡、建長寺等の舊蹟甚だ多し、其濱海には名所古蹟多く、金澤八景、江の島、逗子、葉山、大磯等、都人遊覽の名勝なり。

○風土 管内は氣候温和に特に沿海は夏涼しく冬暖なり、且名勝多きを以て遊客多し、平原には農産(糧草)饒く蠶業亦盛に絹木綿を産す、沿海は水産豊なり。

千葉縣

安房一郡上總五郡下總の内六郡



○地勢 關東平原の中部を領し、下總の如き一の山をも見ず、其窪所には往々水を湛へ、霞ヶ浦、印幡沼、手賀沼等の湖沼多し、房總半島の南部は山地に属し、鹿野山、鋸山、棠あり、半島の南端は野島崎にして西角を洲崎とし、西は東京灣を抱き、東邊は房州沖及九十九里濱なり。

○千葉町(二万八千) は内海濱に在る縣治所なり、鐵道東京より此地に達して分れ、一の宮に、一線は佐倉成田を経て佐原に至る。佐倉町は元堀田氏の城地なり、近傍に義民宗吾の靈屋あり。成田町には有名なる不動を安置する新勝寺あり。佐原町は本邦地學の大家、伊能忠敬の出身地なり、醬油、酒を産す、其東南に香取神宮あり。銚子町(六千) は銚子口に在り、縮織を産す、近傍の犬吠崎に大燈台あり、市川町に國府臺あり、陸軍教導團を置く、行徳は塩の産所なり。安房は僧日蓮の出身地にして、北條館山の小都會あり。上總には東京より一の宮に達する鐵道通し、鹿野山は避暑の好地なり、木更津町は内海岸の小都會なり。

○風土 管内は氣候中和にして、海濱は避暑共に適當の地なり、能く橘類、無花果を産す、平原は農産豊に米は百萬石以上を産す、其他の穀物、烟草、薪炭を産し、養禽、養魚

亦行はる沿海は漁業盛に行はれ、水産額の多きは全國第一とす、特に九十九里濱の鰻、鯉、房州沖の鮪、鮑、漁最も盛なり、鋸山よりは石材を出す。

茨木縣 常陸一市十一郡 下總の内三郡

○形勢 縣の西北部は阿武隈山脉を受け、遂に加波山、筑波山となる、筑波山は三千尺に過ぎざれども、平原の間に屹立するを以て甚だ著名なり、其他は一般平原にして霞ヶ浦、北浦等此間に湛へ、久慈、那珂利根の諸川亦此間を流る、東は一面鹿島洋に臨めり

○水戸市(三万) は縣廳所在地なり、市は那珂河に臨み、上市(邸宅多し)、下市(商家多し)に分る、維新前は徳川氏の別封地にして、光國、齊昭等の英主及東湖の如き人傑出て、盛に文學を講習し、弘道館を設け、士氣を養成したり、市中に常盤公園(借樂園)、弘道館の趾あり、鐵道東京に通じ、其間七十哩あり。霞浦畔に土浦潮來の兩町あり、那珂河口を挟んで湊磯濱の兩町あり、河道運漕の要所なり、近傍の大洗は著名なる海水浴場なり、北浦の畔に鹿島神宮あり、石岡町(府)は霞浦運輸の便を占め、醬油酒の産地なり、下總に紬の産所なる結城町あり



利根川畔に古河町あり

○處誌 本縣は東海道の北端にして氣候も稍々寒冷なれども濱海地は温和なり穀物能く實のり百万石内外の米を産す其他農産物多く中にも『水戸烟草』最も名あり山地よりは花崗石寒水石陶土を産し沿海より水産(鰻)亦多く出づ。

栃木縣 下野一市 八郡

○地形 北西部は中央火山脈蟠まり日光山彙の如き最も重厚なる處なり山峯中の最高峯を男體山或は黒髮山と云ひ八千二百二十尺あり山彙中に中禪寺湖を湛へ其水溢れて華嚴瀧となる其他霧降裏見等の瀧ありて山水の景幽清なり其麓には結構壯麗なる東照宮あり參拜遊覽の客常に絶へず那須岳北境に聳へ其麓は那須野なり西境に白根山あり共に有名の火山なり塩原湯元を始め温泉多く湧出す本縣の中部は關東平原の北端にして平地南に向て開けたり鬼怒川小貝川思川此間を潤し共に利根川に合す那須野の水は那珂川となりて常陸に入り其中部を横貫す。

○都會 宇都宮市(三万)は栃木縣廳のある所なり奥州鐵道線の日光線と分るゝ所にあり(東京より六十六哩)市況繁榮なり鐵道は鹿沼(産地)を経て日光町に達す日光に東照宮あり參詣者及避暑の客等多し其西に足尾町あり銅の産出本邦第一とす。小出驛は奥州水戸前橋の三鐵道の分岐する所前橋線に沿ふて栃木町(三万)あり其西に足利町(九千)あり絹織業盛なり真岡町は木綿の産地なり。

○處誌 本縣は冬間稍寒強なれども平地には農産多く麻は最も能く産す縣下第一の産は蠶糸にして機業随つて行はれ民度低くからず。上野下野は『両毛』と稱す上古の『毛の國』なるを以てなり昔源氏の根據地にして新田足利の兩雄此の間より出身す人質慧敏と稱せらる近來蠶業盛なるを以て華奢に趣けり。

群馬縣 上野一市 十一郡

○地勢 本縣の南方は關東平原の一部なれども其他の大部は中央火山脈及彌彦火山脈を受け山岳多し東西の南境に兩白根山あり信濃の境は吾妻淺間碓氷妙義の諸山あり國內にも赤城榛名山ありて草津伊香保碓部等温泉多し。利根川は諸支流を率ゐて南東に下り運輸灌溉共に便利にして其流域最も繁榮し都邑多し。

○都會 前橋市(三万)は縣の中央にあり群馬縣廳こゝにあり東京より二十二哩余



にして機業盛なり其西南六哩に高崎町(八千)あり陸軍兵營を置く前橋と相俟ちて繁昌せり是より鐵道は碓氷峠を越へて信州に入れり桐生(二)伊勢崎の兩町は織物業盛にして富岡町は盛大なる製絲場あり北部に沼田町あり是より清水越を経て越後に入る要路に當れり。

○處誌 平地は穀菜を産すれども蠶業を以て殆ど專業とし古より『上州絹』の名世に高し殊に近年生糸の貿易品として海外に輸出多きを以て業務大に擴張し全國の首位を占む住民能く製絲機械を勤むるを以て民度頗る高く奢侈の風あり。

### 奥羽七州

○奥羽の風土 奥羽七州は面積四千二百五十方に亘り今福島宮城岩手青森秋田山形の六縣を置く中央に火山脈横はり全く地を表裏に兩分す表面は舊奥州にして北上阿武隈の兩山脈あり裏面は羽州にして鳥海火山脈あり故に奥羽は土地一般に高隆に氣候亦寒冷なるを以て農産物饒ならず住民僅に四百八十万あり古昔アイヌ種及安倍清原等の豪族割據して常に南方に抗したり人質古より驍果瓌野と稱せられ會津仙臺米澤等の平原よりは傳ふべき偉人多く出で近くは日清

の役にも此地出身の軍人は頗る驍名を著はせり

### 福島縣

盤城の内七郡 岩代十郡

○地勢 舊奥羽の南端なり盤城は東面太平洋に濱すれども良港に乏し海岸は濱街道にして鐵道通し國の西部には阿武隈山脈縦貫せり。岩代は中央火山脈國中に蟠繞し吾妻山(六三八)盤梯山(六七二)等高峻の火山多し猪苗代湖其間に湛へ四近を會津平原とす湖水の流れて西に走るを日橋川と稱し南より來る只見川と會して越後に入る東邊は武阿隈河邊にして鐵道之を通し主要の地なり。

○郡邑 福島町(五千)は縣廳のある所東京より百六十八哩あり元板倉氏の城市にして東京以北の都會なり鐵道に沿ふて二本松町郡山町あり。若松町は會津の城市なり戊辰の役に籠城を以て名あり其飯盛山は白虎隊の戦死所なり。濱海平地に小名濱久濱あり。中村町は相馬氏の舊城市なり相馬焼を産す平町は『盤城平』と稱し其南境に勿來關趾あり柵倉と共に舊城地なり。白河町は奥羽の入口にして『都をば霞と共に立ちし』の古歌ある關趾あり。三春は馬の産所なり。

『都をば霞と共に立ちし』  
『秋風を吹く白河關』



○風土 本縣よりは舊奥羽にして氣候も寒冷なり「部には花も散りあへずみちのく信夫の山は春風の頃」の歌によりて春信の遅るゝを知るべし故に農産は稍々劣れども米は百万石を産す蠶業甚だ盛に、牧馬亦有名なり、鑛物には金、銀、石炭(鑛)を産し、會津の漆器、紋蠟の如き名あり。

宮城縣

陸前一市十三郡  
盤城の内三郡

○形勢 東邊は北上山脈の一部を受け、海岸は險崖なれども岬灣多く、遂に牡鹿半島となりて仙臺灣を擁す、灣内別に松島灣をなし松嶼八百有八點指願の裏にあり所謂三景の一なり。縣の西境には中央火山脈連亘し、駒岳荒神山、藏王岳等の高峰あり、縣の中部は平地にして、北上川南流して仙臺灣に入り、阿武隈川は東北流す、中間にも鳴瀬川、名取川ありて運輸灌漑の便あり。

○仙臺市(五七千)は政宗以來伊達氏の舊城市にして奥羽第一の都會なり、宮城縣廳ここにあり、青葉城内に第二師團を置く、東京より二百廿七哩東北地方の中央市たり、市内に櫻岡公園(櫻岡)、榴ヶ岡(榴ヶ岡)の勝地、政宗及林子平の墳墓等あり、近郊に有名な多賀城趾あり、壺の碑を存す、宮城野は秋草の名所なり。  
塩竈町は松島灣邊に在り海産物を出す。北上河口に石巻港あり。萩濱は牡鹿半

島にある良港なり、半島の端に近き一島を金華山と云ふ風景に富み今燈臺を設く、盤城に白石町あり紙布、素麵を産す、阿武隈河邊に荒濱港あり。

○風土 氣候寒冷なれども平原より米其他の農産物を出す、又馬を産す、鑛物に銀石材(仙臺)、銅、水産に鱈、鰹あり、仙臺平、埋木細工、味噌等名あり。

岩手縣

陸中一市十一郡  
陸前の内一郡

○形勢 本縣は我國第一の大縣にして殆ど九百方里あり、東部は北上山脈蟠まり、早池峯(早池峯)、仙人峠等あり、西部には中央火山脈ありて駒ヶ岳及「南部富士」の稱ある岩手山(六八〇)等の高火山あり、附近温泉多し、其中間は北上河道にして、縣の北邊より南流して管内を一貫す、此流域は平地にして都邑多く交通運輸亦一に此河域による、北上川は實に本縣の生命なり。

○都會 盛岡市(三五千)は南部氏の舊城市なれば其封内を「南部」とも稱したり、市に岩手縣廳あり、東京より三百三十哩、其繁榮仙臺に亞ぐ、北上川其西を流れ水運の便あり、架するに明治橋(約五百尺)を以てす、河の右岸に厨川柵趾あり。盛岡以南の鐵道線に沿ふて花巻あり、其南の黒澤尻は羽後に入る岐路に當り、水澤には天文臺を置く、一



ノ。關は或は「盤井」と稱し其附近に毛越寺中尊寺等の古刹及平泉館高館衣川柵趾等の舊趾あり。海濱に宮古釜石の港あり。

○風土 沿岸は親潮に洗はれ冬寒頗る強けれども晴天多く雨量寡し管内山地多きを以て農産頗る乏し然れども釜石の鐵山地の森林共に甚だ富めり殊に馬は本邦第一にして「南部馬」の名世に高し水産に鮑及鮭あり南部表(下足表)鐵瓶織物亦名あり。縣域廣けれども山地多く住民少し人質は頗る朴野なり。

青森縣

陸奥の中二市 八郡

○形勢 中央火山脈斗南半島より起り恐山燒山八甲田山十和田岳となり其間に十和田湖を湛ふ。津輕半島は鳥海火山脈の起點にして「津輕富士」の稱ある岩木山聳へたり岩木河其下を北流し十三瀨に注ぎ流域に津輕平野を開けり斗南半島の北端は大間岬にして東端の尻矢崎には燈臺の設あり陸奥灣内に夏泊崎北出し青森野邊地の兩灣に分る灣の北岸なる大湊は良泊地なり。

○都會 青森市(七千)縣治所にして本州極北の一都會なり東京より四百五十七哩あり是より鐵道弘前市(三千)に通ず此市は津輕氏の舊城市にして第八師團を置く

八戸は東邊の一都會にして野邊地は内海濱の港なり  
○風土 本縣は本州の極北にして氣候著しく寒冷に花候も東京より後ること凡一月桃櫻梅李殊と一齊に開花す農産物は一般に豊ならざれども沿海に魚族昆布多く七月三本木等の馬及硫黃頗る多く津輕の漆器有名なり。

秋田縣

羽後一市八郡 陸奥の内一郡

○形勢 東境に中央火山脈を負ひ西部にも亦鳥海火山脈通過し太平山及鳥海山(六八八)あり西面は一圓日本海にして所謂裏日本の北部なり沿岸に男鹿半島斗出して八龍湖(琴湖或は八郎湖)を抱き風景に富めり内部に山地多く交通未だ不便なり東境の山地を下り來る二大流あり能代御物の兩河是なり此兩流域には平地を存し主要の地なり。

○都會 秋田市(六千)は佐竹氏の舊城市なり城は葛根城と稱し今公園となれり市は御物川の東岸に建ち本縣廳所在地にして第十六旅團を置く。御物川口に土崎港あり秋田市と相待ちて船舶出入多し。能代河口の能代港は漆器を産す其上流に大館あり。縣の南部に本莊あり又港を兼ね。御物川上流に横手あり其北に金



澤の柵趾あり。

○氣候産物 北方は總て日本海に面し一に其風化を受け、冬季北西の風強く氣候寒冷なれども、陸中に比すれば稍、高温なり、河域の平地には米及他の農産あり、森林は秋田大林にして夥しく、杉、其他の良材を出す、本縣は本邦の豊饒地にして特に銀は全國總産額の殆半を出す、院内、阿仁は其産地にして鑛業甚だ盛大なり、其他銅、金、鉛を産す、水産には鱈の捕獲盛なり。

山形縣

羽前二市十郡  
羽後の内二郡

○地形 本縣の北東南の境は山脈を以て圍まれ、只西の一方のみ日本海に向て開けり、故に地形は恰も袋の如く、管外に出づるには總て此山脈を踰へざるを得ず、故に縣界には峠多し、内地にも羽黒、月山、湯殿の三峯あり、此三山には皆鎮座の神あり、夏期に至れば參拜登山の者多し。最上川は我邦三急流の一にして偏く管内を曲流し、流域は地肥へ農産多く、都會は多く此河畔に建ち本縣主要の地なりとす。  
○都邑 山形市(三万)は舊名を「最上」と稱し、久しく最上氏の據りし處なり、今縣廳を當市に置く、歩兵第三十二聯隊あり。米澤市(三)は南部の都會にして元と上杉氏の

城市なりき、明君鷹山出で、農桑機織の業を勤めたるを以て今も産物多く特に米澤織の名高し。鶴岡町(二)は庄内地方の一都會なり。最上川に沿ふて下れば、流域に上の山、天童、寒河江、谷地、楯岡、及河口に酒田(二万)あり、酒田は日本海岸の良港にして米の輸出特に多し。

○氣候産物 氣候は濱海の外、内地性にして冬寒頗る強く夏期亦高温なり、河域よりは多量の米を産す、又薄荷、漆、銅、金の産あり、蠶業亦能く行はれ織業頗る盛なり。

中央高原

中央高原は我國諸山脈の集まる所、我國第一の高原なり、氣候内陸性にして寒暑共に強し、越後は大國なれば、平地も頗る廣く産物亦多し、甲信は農産豊かならざれども蠶業甚だ盛なり、三百五十万の人口域内に住めり、古武田上杉の兩氏據りて互に競争せし處、人質、價値と稱せられたり、今世に及んで諸種の達人此高原より輩出したり。

新潟縣

越後一市十五郡  
佐渡一郡

○地形 本縣は其境域頗る廣く我國第四の大縣なり、越後の南境は鳥海火山脈連



亙し國內には彌彥火山脈横斷す、脈中の米山を以て上越後、下越後に別つ、北面は長く日本海に濱し、裏日本の一部を成し、海岸は平原を存すれども其他は高原に屬す。信濃河は一名を筑摩河或は千曲河と稱す、信濃より來り西南境の山地を破りて本縣に入り、彌彥脈に沿ひ洋々として北流し、廣き河城を開き、運輸漕漕共に便なり。阿賀川又東境を破りて西流し、信濃川近くに注ぐ、此兩流附近、土地肥へ、農産最も豊富にして本縣の主要地なり。越後海岸より七八里に佐渡島あり、法馬形の海島にして左右より海水深く灣入す、西部に黄金の産所なる金北山あり、是れ佐渡火山脈の一部なり。

○都邑 新潟市(六)は信濃河の左岸にある港なり、縣廳及居留地あり、水運の便を占め、物貨輻湊す。信濃河を廻れば河畔に數多の都邑あり、三條、興板、長岡、小千谷、十日町の各町是なり。新發田町は北部の一都會にして第十五旅團を置く。村松町には歩兵第三十聯隊あり。高田町は上越後の一都會なり、直江津鐵道線に當り近來益繁昌せり、其北に直江津港あり、鐵道の終点にして東京より百九十哩あり、裏日本の中央の百貨出入の門口なり。柏崎は直江津に次ぐ港なり。佐渡は世々本間氏の領せし所なり、相川町(三)は島地の一都會なり、其他佐渡には夷町、小木町等の碇泊地あり。

○氣候産物 本縣は裏日本にして冬期北西の風頗る烈しく、且雪多きを以て有名なり、信越鐵道線路は積雪を以て埋没するに至る、高田町は雪最も深き處なり、而して夏期は又意外に高温に昇ることあり。平野廣きを以て農産物多く、米は百二十万石を産し、麻、甘藷亦多し、山地には養蠶行はれ、絹織及越後上布を産す。鑛物は佐渡の金を殆どし、銅、銀及所々より石油を産す。水産には鱒、烏賊、鮑多し。越後は中古上杉不識庵の據りて其武を輝がせし所、其後も諸豪族相踵で割領し、北越人は競争を好み、強を以て勵まし、頭角を顯はしたる人少からず、近來益、出身せり。

長野縣

信濃一市 十六郡

○形勢 信濃は我國の中央にして諸山脉の集る富士帶に當るを以て火山多く、淺間山、立科山、八ヶ岳、飛驒の境に鎗ヶ岳、乘鞍岳、御前岳等の高山あり、土地最も高く、到處高臺に屬し、諸河流の源をなせり。千曲川(筑摩)は東部より發し、中流に於て犀川と合し、河中島を抱き、巨流となり、越後に入る、此流域稍、平地を存す。木曾川は木



會山中を西南に下りて、深谿を刻し美濃に入る。河域は森林深き木曾大林にして良材多く、谿間には奇景多し。天瀧川は諏訪湖より發し南下して遠江に入る。諏訪湖は周圍五里冬間は湖水堅く氷る湖畔に諏訪の平地ありて農産物を出す。

○都邑 長野市(三)は千曲川下流の左岸にある縣廳所在地にして有名なる善光寺あり、鐵道線に當り東京より百三十五哩あり。松本町は中央の一都會にして蠶業盛なり。上田町は千曲川の右岸にあり。松代町は昔の海津城にして河中島の戰に關し有名なり。飯田町は天龍川左岸の都會なり、諏訪湖畔に上諏訪、下諏訪の兩町あり。

○氣候産物 本縣は我國の中央内地にあるを以て寒暑共に強く雨量寡し土地高きを以て霜雪共に早く寒威甚だ強し、木曾山中の如き五月花咲き九月麥熟するに至る。農産物は豊ならざれども、蕎麥は有名なり、蠶業は此地第一の生業にして繭の産額全國に冠たり、従つて種紙、織物を出す、又木曾より良材を産す、特に五木と稱して檜杉等の巨材あり

○風土 信濃は我國中の大國、境域十一國に跨る、昔甲越兩將の争ひし地なり、人風雄悍を以て知られ、源の義仲は此地に出で、旭將軍の勇名を博せり、其後佐久間象山を始め數多の偉人を出せり、近來出身者又漸く多し。

山梨縣

甲斐二市  
九郡

○地形 甲斐を繞るは皆山にして地形盆底の如し、故に「峡中」(一)と云ふ、是れ富士帶に當るを以てなり、南に富士の高峰聳へ西に白峰、身延、七面等の諸山あり、東に笹子峠あり、北は金峰山、八ヶ岳、駒ヶ岳等あり、中央の平地は釜無、笛吹兩河の流域にして相合して南方を破りて駿河に下る、是れ即ち富士川なり、此河道は南方東海道に出づる唯一の道なり。

○都邑 甲府市(四)は峡中の都會なり、山梨縣廳此市にあり、武田氏の舊城趾猶存す、勝沼町は其東にあり、葡萄産地を以て著はる、市川大門町は富士川を下る渡場なり、猿橋町は東都にあり、此附近は郡内と稱して別に一郷をなせり、絹織盛にして町に猿橋と稱する釣橋あり。

○氣候産物 連山の内地にあるを以て氣候は寒暑共に強く冬寒は東海道第一の烈しき地なり、中央平地には多少の農産あれども縣下第一の産物は蠶糸なり、「甲州



八珍菓<sup>ト</sup>て葡萄、柿を始め菓實多し。礦物には金及御嶽水晶等を産出せり。此地は武田機山<sup>山</sup>の據りし處其後徳川氏の直轄となる。甲州人は慄悍を以て名あり。近來蠶業盛に行はる一般に富有となれり。

本州中部

本州中部は富士帯以南の中央部に於て東海道西部及濃飛高原を包含す。内に静岡愛知岐阜三重の四縣を置く。面積凡千八百六十方里あり。

○東海道 西部は東南一帯太平洋に臨み、港灣の出入多く海岸に肥沃の平原ありて海陸の産共に多く、氣候亦温和にして戸口繁榮す。人質慧敏にして手工に長じ諸種の工業各所に盛なり。中古以來は織田、今川、豊臣、徳川の諸英傑及其旗下の諸將士輩出したる現今交通の要衝を占め鐵道貫通し往來頻繁にして發達も亦甚た速なり

静岡縣

駿河一市五郡  
江六郡伊豆二郡

○地勢 本縣は比に富士山を負ひ、南面は一帶太平洋に臨み、甚だ風景に富めり。富士山より愛鷹山及伊豆半島の天城山となる。○富士山は直立一萬二千四百六十

七尺に聳へ頂上に舊噴火口あり四時白雪を戴き其形白扇を倒にするが如く、觀望甚だ雄壯なり石川丈山は「雪如執素綱似柄。白扇倒懸東海天」と形容せり富士沼其麓に湛へ。濱海には田子の浦、三保の松原、興津、蒲原等あり皆な富士見の名勝地なり。伊豆半島は天城山の脈によりて到る處山地にして茂林を以て蔽はれ麓には温泉甚だ多し、海濱には良港少からず。遠江は赤石山脈を以て其西北部を擁せられ、脈中に無間山、黒法師、赤石山等あり南は即遠州洋にして濱海に濱名湖あり此湖は明應年間地震によりて海水と相通するに至れり故に「今切」の名あり。

○富士川は山間を破りて甲斐より來り、急峻を以て名あり。安倍川も亦急流なれども流域に多少の農産地を存す。大井川は雨期洪水の害あり。天龍川は川身廣く流域に農産地ありて諸種の産物を出す。

○都邑 静岡市<sup>方</sup>は賤機山を負ひ、元府中と稱し徳川氏の隠棲所なりき。維新後静岡と改む。市に縣廳及歩兵第三十四聯隊あり。東海道要路に當り市街繁昌し旅店等見るべきもの多し。竹細工、漆器等を産す、東京より百二十哩あり。○静岡の東に清水港あり三保崎に擁せらる、良港にして風景又甚だ佳なり。沼津は東部



の一都會にして氣候温和の地なれば御用邸を始め紳士の別荘多し。御殿場は富士の裾野にありて登岳の路に當り、東海道鐵道線中の最高点にして氣候寒冷なり。伊豆の三嶋町には有名なる三嶋神社あり、豆相鐵道の東海道線に連絡する處是より鐵道南條に達し、終に下田に到るべきものなり。下田は南端の良港なり、其西の石廊崎(長津)に燈臺あり、其他北條、葦山は伊豆の小都會にして、國內温泉多く熱海の間歇家を始め、修善寺、伊東等浴客多く爲めに賑合へり。○遠江の濱松町は濱名湖東にあり、東海道の名驛なり。其東に掛川町あり、御前崎遠く東に突出して、駿河灣を擁せり、其沖は遠州洋の名あり。

○氣候、産物 本縣内は北に山脈を負ひ、南は黒潮流る、太平洋に面し海風の調和によりて寒暑共に和順にして健康に適し、且風景佳良の所多し。物産も亦豊に茶の産すること全國第一にして海外貿易品となる。紙、藍も亦多く、伊豆よりは石材、木材を出し、沿海に鱈多し。

本縣の人質總て敏活にして世事に長ず、駿遠よりは中古諸英傑出で、伊豆よりは北條氏を始め源氏旗下の士多く出身し、源氏の覇業を賛けたり。

愛知縣

尾張一市九郡 三河十郡

○地勢 尾張の國境には本會川其西北を繞り、土地平遠にして南は伊勢海に臨み、北は美濃に亘れり、是れ濃尾平原なり。此平原は土味肥へ穀物能く産すること全國第一たり。平原の南に挺出するを知多半島と云ふ、以て伊勢海と衣浦とを分つ、半島は概ね山地にして南端を師崎とし、三河の渥美崎と相對す。

三河國には矢作、太平及豊川の三河あるを以て國名の起源となれり、此三流域は肥沃の農産地なり、渥美半島、東より西に出で遠州洋と渥美灣とを分つ、東北部は鳳來寺山(阿蘇火)本宮岳等ありて一般に山地に屬せり。

○都邑 名古屋市は東西兩京の中間にある(東京へ二百三十五哩、西京へ九十四哩)東海道第一の要市にして百貨輻輳し商業繁榮す、人口も既に二十五万に達せり、當市は徳川氏(徳川三)の舊城市にして其城は豊臣氏の築く所、天守閣には金銃を置き宏壯を以て名あり、第三師團控訴院、愛知縣廳等此市にあり、織物、陶器、七寶燒、セメント等の製造盛なり。

附近に熱田神宮(草薙劍を奉祀す)、鳴海(綾を産す)、桶狹間(古戦場)、清州(古)、小牧山(古戦場)等あり。知多半島に龜崎、半田、武豊の各町あり、鐵道大府より岐れて武豊に通じ、海陸の交通便なり、知



多地方は一般に酒、陶器の製造行はれ富家少からず。

三河の東部に豊橋町あり此町は舊名吉田と稱し東海の要驛なり其歩兵第十八聯隊は日清の役に勇名を揚げたり今歩兵第十七旅團を置けり。岡崎町は矢作川畔にある東海道中の一城市なり。元徳川家康の未だ微なる時の居城なりき此所より徳川隆興の當時所謂三河武士多く輩出して其覇業を助けたり。

○氣候、産物 南に内海を受け氣候温和にして雨量亦適度なれば土地大に肥へ産物饒く民物繁庶して元龜、天正の頃は英雄輩出し其驅馳競争の場となりき。尾張の米(全縣下に百五万石を産す)煙草、三河の綿最も宜しく工業亦盛にして愛知織(五新)三河木綿、瀬戸焼、醸酒等産額甚だ多く富の程度低くからず。

岐阜縣

美濃一市十五郡 飛彈三郡

○地勢 美濃の南部は濃尾平原にして地味大に宜しく木曾川廣大の流域を開き飛彈、長良(粘多く轉流難なり)揖斐の三川共に北より來りて會流し運遭灌漑共に宜しく「美濃米」の産地にして縣の要部なり。美濃の東北部及飛彈全國は濃飛高原に屬し到る處山岳重疊し交通甚だ不便なり。飛彈は四方高山を以て圍まれ、河流の發原所とな

る、南に下る水は飛彈川となり北に下る水は射水(シヅメ)神通の兩河となり越中を通して日本海に入る。

○都邑 岐阜市(三)は長良川に臨み稻葉山を負ひ東海道鐵道の線路に當り繁榮せり縣廳此市にあり先年大震の爲め非常の損害を受けたれども市況既に舊に復せり○岐阜の四方九哩に大垣町あり其西の關原は不破の關趾にして徳川氏と石田氏等との有名なる古戰場なり。其西の養老山に養老の瀧あり。岐阜の東に御嵩町あり。高山町は飛彈中央の一都會なり。

○氣候、産物 本縣管内は總て内地にあるを以て夏暑冬寒共に烈しく盛夏は本州に稀なる高温を示すことあり又南北両面の海より來る濕氣山地に於て雨となり雨量頗る多く諸川高地を下れば忽ち停滯し數々水害を被る然れども平原は地著しく肥へ美濃米の名世に高し其他綿、茶、紙を産し山地よりは銀、銅及良材を出す、美濃焼、飛彈織共に産額多く美濃焼は全國に供給す。

三重縣

(伊勢二市、十郡、伊賀二郡、志摩二郡、紀伊の内二郡)

○地形 本縣の形勢は東面長く海に濱せり其北を伊勢海とし其南方を熊野浦と



云ふ。志摩國其間に突出す。伊勢海岸には平地を存し木曾、鈴鹿、雲出、榑田、宮川の諸流之を潤し農産物頗多し。西背には鈴鹿山脈を負ひ南部は紀伊山脈の通するありて山深く志摩の朝熊山及大和境の大台原山の如き最も著名に山脚海に迫り海岸の出入鋸齒の如く島嶼亦多く若志島最も大なり。

○都邑 津市(三万)は伊勢海に臨み縣廳のある處或は「阿濃津」と稱す藤堂氏の舊城市なり。鐵道東西兩京及宇治山田に通ず。參宮鐵道によりて南に進めは阿漕浦(所)松坂町あり松坂は本居宣長(和學者)の出身地にして織物を産す是より宮川を渡り宇治山田町に達すれば大廟あり内宮は宇治の流清き五十鈴川の上に在ます外宮は山田に在ます共に莊嚴無比「何事のまはしますかは知らねども 雖有まきにぞ涙こぼるゝ(四行)」其海岸に二見浦あり有名な立石あり是より志摩に入れば鳥羽港及的矢港あり。

北伊勢の都會に四日市(五万)あり我國屈指の佳港なり鐵道亦通じ海岸の交通共に便なり。桑名町は木曾河口にある良港なり。龜山町は關西參宮兩鐵道の分る要驛なり○是より西に進めば鐵道は關(鈴鹿關跡)を経て伊賀に入り柘植驛に於て又關西奈良の鐵道線に岐る奈良線に沿ふて上野町あり伊賀第一の都會なり。其南

に名張町あり紀伊の部には尾鷲町あり。

○氣候産物 本管内は氣候温和にして南部は雨量多し。濱海平地の米穀伊賀の茶山地の木材共に佳なり又織物陶器(萬古)の製造あり伊勢の海は漁業盛に行はれ、鰯、鯛の産あり。

北國

北國は即北陸道の總稱なり(越後を除く)濃飛高原及白山火山脈以外日本海に濱する一帯の總稱にして即裏日本の一部なり。面積八百十五方里人口二百二十万あり内に福井、石川、富山の三縣あり。(新潟縣は北國なれども地形上今之を除く)

○氣候 其西北方は日本海に面して北來の風化を受け夏は乾燥なれども冬は日本海を渡り來れる北風夥しく濕氣を帯び來り其後背を擁する山脈の爲め凝集せらるゝを以て雨雪夥しく福井、石川の如きは全國最多雨の地なり特に降雪多く積ること甚だ深く有名なる雪國なり

○風習 京坂に近きを以て古來其餘波を受け風俗も京坂に類し服粧を喜び相貌凡て温雅なり人質巧慧峭直にして一般に佛教(宗)盛に行はれ寺院の多きこと我國



第一たり。

福井縣

越前一市八郡  
若狹三郡

○地勢 白山火山脈は若狹より越前を通じ、又越前の東部は濃飛高原の一部を受け、大日岳、經ヶ岳等ありて山嶽頗る深く近江に越ふるに木芽峠あり、是れ「越次」の名ある所以なり、賤ヶ岳の山腹には鐵道を通ず、柳ヶ瀬墜道是なり。

若狹沿海は岬灣の出入多く、山間に小濱灣あり、立石岬、若越の國境に突出し、其東に孰賀の灣入あり。越前岬は遙に丹後と相對し其間を若狹灣と稱す。越前の海濱は田野開け其間に日野、足羽、九頭龍の三流あり相合して日本海に入る。河口に三國港あり。

○都邑 福井市(三万)は松平氏の舊城市にして足羽川に跨り足羽山を負ひ市街繁昌し近來機業甚だ盛に其羽二重織は多く外國に輸出す、又北陸鐵道線に當り、東京へ三百五十三哩あり、此市は元「北莊」と稱し柴田勝家此所に城く今に城趾を存す、其他武生、大野、勝山、鯖江、丸岡等の舊小城市あり、鯖江には歩兵第三十六聯隊を置く、孰賀は日本海の良港にして貨物輻湊す町に第十八旅團あり。三國港(坂)は日野河

口の良港なり。小濱は若狹の舊城市なり其城を雲濱城と稱す、志士梅田雲濱(源次)の出身地なり。

○氣候、産物 本管内は北西に日本海を受け其濕氣を被むるを以て雨量の多きこと全國に最たり。特に冬季に多きを以て積雪深けれども冬寒は割合に強からず。平原地方よりは米、麻の産多く、山地に銀、銅、瑪瑙、基石を産し、沿海に鱈、雲舟、大蟹、若狹鯛の産あり、奉書紙、若狹塗を出し、近來羽二重織の輸出盛なり。人質、峭直にして壯快なり、維新の際明君松平春岳及橋本左内、中根雪江等の人物出身せり。

石川縣

加賀一市四郡  
能登四郡

○地勢 加賀の國境は皆山にして北西は日本海を受く、白山は北國の名山にして八千八百余尺に聲へ盛夏の外白雪を戴くを以て此名あり。海濱に平地を存し河、北瀉、柴山瀉等の湖沼あり、手取川、淺野川、安宅川等此間を流る。○能登は日本海に突出する人掌形の半島なり、其東端を珠洲岬と云ふ、半島の中部に七尾灣あり、灣内に能登島あるは掌中の玉に譬ふべし、沿海は奇景多く所謂「能州景」なり。

三更。越山併得能州景。  
莫道家鄉思遠征。

霜滿軍營秋氣清、數行過雁月



○都邑 金澤市(八千)は元「尾山」と稱し前田氏の舊城市にして北國第一の都會なり。鐵道東と西とに通じ東京へ四百哩あり。石川縣廳の所在地にして第八師團第四高等學校等あり、兼六園は日本三公園の一と稱せられたる佳景なり。金澤の東に津幡あり、北陸道線の七尾線と岐るゝ所なり。七尾町は七尾灣邊に在る都會なり。其北の輪島港は有名なる輪島塗を産す。金澤より西に赴けば小松及大聖寺の都會あり、大聖寺の南に山代、山中、粟津の温泉場あり、有名なる九谷焼は多く此邊より産出せり。

○氣候産物 本縣下は日本海の風化を受け、冬季北西の風強く雪深くして白山の麓なる牛首郷の如きは本邦第一の深雪地にして毎冬積雪丈餘に達するを常とす。濱海の平地より農産物を出し又山地に銀、銅、鉛を産し又絹織、陶器、漆器所々より産し海産に烏賊、鱈あり。加賀は舊大藩の下なれば人質勇壯を競ひ且舊藩主の獎勵等により近來學者武官の出身する者多く風俗は稍々華奢の傾きあり。

富山縣 越中二市 八郡

○地勢 北方一帯は日本海に濱し其中部灣入するを富山灣とす灣邊は越中平原

にして黒部、常願寺、神通、射水の四大流之を潤し、土地頗る肥沃に米穀を産すると甚た多く、越中米の名あり南境は飛騨高原に接し、土地高隆なり東部には立山(九千八百尺)劍ヶ岳等ありて山彙頗る重厚なり。

○都邑 富山市(五千)は神通川の右岸に建てる繁榮の市なり、賣藥の製造有名なり。其西方に當りて高岡市(三千)あり銅器及漆器の製造盛なり。北陸鐵道此市に達し東京へ四百二十六哩あり。海濱に伏木、放生津、魚津等の港あり伏木最も著はれ定期汽船の往復ありて越中米の輸出港なり。

○氣候産物 本縣下は能登の風蔭にありて北西風を遮るを以て北國中降雪最も少なき地なり然れども寒氣頗る強し平原地方は米を産し其額百萬石内外あり「越中米」の名高し又麻を産す、山地に木材を産し海産に烏賊、鱈あり都會地には諸種の製造業盛なり民度低からず。

近畿

近畿は畿内及其附近諸國を云ふ此地方は中國山脈、鈴鹿山脈及紀伊山脈を以て圍まれ、中間は五個國に亘る畿内平野あり此平野は西南茅渟海に向つて開け土地肥



沃にして住民多し内に滋賀京都奈良和歌山大坂の二府三縣あり○面積一千二百方里四百十萬の人民こゝに住し人口の稠密なる本邦第一とす。

○風土 近畿地方は古昔より歷朝の都し玉ひし跡各所に散在し。近來まで我國の中央地となり英雄豪傑の競逐興亡せし地なるを以て到る處名所舊跡あり。佛教一般に行はれ風俗優美閑雅にして品相高雅なりとの稱あり。

滋賀縣

近江一市十二郡

○地勢 本縣境は概ね山脈を以て包まる即ち東の境には伊吹山摺針峠鏡山等あり山城に通ずる所は逢坂山にして昔の關所なりき今は墜道によりて汽車を通せり。縣の中間に琵琶湖を湛へ其周圍五十九里餘汽船湖上を往來す湖中に竹生島等の四島あり湖水は勢多に至り窄まりて川となる宇治川是なり湖邊は風景絶佳にして幸崎の松石山の月等世に『近江八景』の稱あり湖邊の平地は地味肥沃にして多く農産物を出す。

○都邑 大津市(三万)は滋賀縣廳所在地にして歩兵第九聯隊あり湖に臨み風景明媚なり後に三井寺あり琵琶湖疏水は此市より京都に通せり此市は古の『かき波』

滋賀の「都」なり草津驛は東海道線と關西線との岐るゝ所湖東に彦根町あり伊井氏の舊城市なり其北の米原驛は北陸線の東海線に連絡する所其北に長濱あり縮緬の本場にして單に濱縮緬の名を以て呼ばる。

○氣候産物 本縣の管内は内地に在れども琵琶湖水の爲め氣候調和せらる茶麻は重要産なり織物陶器晒布蚊厨及牛魚類(湖中)を産す。近江は中江藤樹伊井閑老の出でし所質慧敏にして商業に通じ『近江商人』の名を博したり。

京都府

山城一市八郡丹波の内五郡丹後五郡

○地形 山城の東西北三方は山を以て圍まれ。比叡愛宕鞍馬の三山最も著はる、南方は畿内平野の一部にして宇治加茂桂木津の諸川相會流れて淀川となる此諸流域は久しく我國の中心地となり種々の歴史を有せり北なる丹波は一般に高臺にして山多く諸川の源となる保津川大堰川は山城に下り。由良川は丹後に下る丹後の境界には大江山あり。沿海に與謝半島突出し越前岬と相對す半島の南に天の橋立あり沙洲南出すると一里許老松之に生じ遠く望めば一長橋の如く風景甚だ佳なり海岸は出入多くして港灣に富み形勝の所多し



○都邑 京都市(三十三)は延暦年間奈良より都を移されてより維新まで一千餘年間の帝都なり。加茂川に跨り市區方正にして九條の大路を通じ、皇居其北に位し二條城は二條にあり、昔は左京、右京及洛中及洛外の稱ありき、今は上京、下京の二區に分る。此市は美術工藝品の製造盛にして加茂川染、西陣織の如きは他に其比なし。近來琵琶湖の水を引ききて市中に導き、電氣發動に應用せり。又京都帝國大學、第三高等學校、同志社等ありて關西の學問府とも稱すべし。

京都市の附近は名所甚だ多く、東山、西山、嵐山等あり、又有名なる神社、佛閣多く、參拜遊覽の客常に絶へず。鐵道東京へ三百二十九哩、大坂へ二十七哩あり。京都の東に稻荷町あり有名なる稻荷神社あり。伏見は京都の南、淀川水運の要所にあり、第十九旅團を置く。宇治には建築の精を極めたる鳳凰堂及平等院あり。

○都邑 京都の外、丹波に龜岡、園部、福知山の小都會あり、福知山には第二十旅團あり、丹後に舞鶴軍港あり、由良河口の由良も佳港にして縮緬を産す。西部なる宮津灣内の宮津港は特別輸出港なり。

○氣候産物 京都府下は多く内地にあるを以て寒暑稍々強く、京都の冬季は寒頗

る甚し、然れども平地は地肥へ米穀菜蔬を産すること多し。宇治の茶は全國一の佳品なり、製造品は織物、陶器を初め甚だ多し、丹波の烟草、牛、丹後縮緬共に名あり、京都は古來本邦文華の中心なれば、偉人、學者、詩人、畫工等輩出せり。人質優美にして手工に長じ、勤勉にして節儉の風あり。

奈良縣

大和一市 十郡

○地勢 大和の北部は畿内平原にして大和川之を潤し、土地肥へ、戸口繁く、上古歴代の奠都し玉ひし地なれば、舊蹟甚だ多し、吉野川縣の中央を貫き、紀伊に入る、河の南岸は吉野山にして、滿山櫻樹多く、「目千本」の稱あり、「コレハクトバカリ吉野山」にて花時の景言はん方なし、南朝三世の行在所、此山中に在り、「古陵松柏吼、天懸山寺尋、春寂寔、眉雲老僧時、輕掃落花深處說、南朝」。

○大和高原 吉野山彙以南は總て山地に屬す、大和高原是なり、七面山、釋迦ヶ岳等あり。十津川此間を南下して紀伊に入る。吉野川北岸にも一帯の山丘あり、その多武峰には談山神社ありて遊人常に絶へず。

○都邑 奈良市(三)は平原の北部、古の奈良の都の一部分なり、我國の舊都にして文



化の淵源地なり、春日山三笠山を負ひ猿澤池市中に湛へ、春日神社、手向山、入幡及東大寺、興福寺あり、其他縣内には法隆寺、藥師寺等の南都七大寺を始め、名社古刹甚だ多く、又畝傍山陵を始め歴代の山陵縣内に散在し、世に「大和廻り」と稱して遊人跡を絶たず、近來鐵道各所に通して便利なり。奈良の西に郡山町あり。月ヶ瀬は名張川畔にあり、梅多く花時は「滿溪白雪」の觀ありて其名全國に鳴れり。

○氣候産物 本縣は内地にあるを以て、寒暑稍々強く南部の山地特に甚し、平地よりは茶、綿を産し、奈良には漆器(根菜塗)、漬物、晒布、墨、香等諸種の製造品を出す。吉野山地よりは木材、葛粉、紙を産す。舊都の蹟なるを以て風景人質共に古雅を帯び總て優美閑靜の風あり。

和歌山縣 紀伊の内 一市七郡

○地勢 本縣は南方に突出する半島地にして紀伊山脈に屬するを以て到る處山多く、白馬山、大塔峯、雲取山、那智山等あり。高野山には金剛峯寺あり、那智山には那智の大瀑布あり、潮岬南に出づ大島其前に當れり、其東の海を熊野浦と云ひ、西を紀州洋と云ふ、黒潮流通し航行の警むる所、沿岸は危崖多し。





○氣候産物 本縣は内地にあるを以て寒暑は適し、吉野山は茶、綿を産し、奈良には漆器(根菜)漬物、晒布、墨、香等諸種の製造品を出す。地よりは木材、葛粉、紙を産す。舊都の蹟なるを以て風景人質共に古雅を帯び、總て優美閑靜の風あり。

和歌山縣 一紀伊の内 一市七郡

○地勢 本縣は南方に突出する半島地にして、紀伊山脈に屬するを以て、到る處山多く、白馬山大塔峯、雲取山、那智山等あり。高野山には金剛峯寺あり、那智山には那智の大瀑布あり、潮岬南に出づ大島其前に當れり、其東の海を熊野浦と云ひ、西を紀州洋と云ふ、黒潮流通し、航行の警むる所、沿岸は危崖多し。





河谷 紀伊川は大和より來り流域に農産地を開き海に入る。河畔は主要の地なり。其南に有田川あり、其兩岸は紀州蜜柑の産所なり、其南に日高川、熊野川あり。

○都邑 和歌山市(五万七千)は紀伊川の南岸にあり、徳川氏(三家)の舊城市にして、南部の大都會なり。綿ネル織盛なり、鉄道大阪に通し、其間三十九哩あり、其南に和歌浦あり、風光秀美なり。「和歌の浦や潮みちくれば、たな波あしべなきて田鶴なき渡る」南の田邊灣に田邊町あり、新宮町は熊野河口にあり。

○氣候産物 南海に濱するを以て氣候甚だ温暖に雨量亦甚だ豊なり、平地に綿蠟橘類を産し、山地に良材を出す、「木の國」の名是より起る、近海の捕鯨、鯉漁等甚だ盛大なり。

### 大坂府

攝津一市四郡河内三郡和泉一市二郡

○地勢 府下は畿内平野の大坂灣に濱する要所を占め、東南境に山丘連り、天王山、金剛山最も名あり、其西は所謂攝河泉の平原なり、土地肥沃にして淀川、大和川の下流を受け、運漕の便、灌漑の利共に極めて宜しく、故に入烟繁く、僅に百十六方里の地に百三十萬の住民あり。



○大坂市(六万七千)は淀川の下流、兩岸に跨り、大坂灣に臨める大都會なり。市は東、西、南、北の四區に分る。關西地方の中央市場にして百貨集散し、商賣の繁昌關西第一たり。淀川は安治、木津の兩流に分れ、安治河口は即大坂港にして、船舶輻湊し外國との貿易場なり。○大坂市中は淀川の水を引きて昔ねく溝渠を通じ、架橋の多きと他に比なし。○大坂城は秀吉の築く處、宏壯を以て名あり、今中部都督部及第四師團を置く。此市は鐵道の中心となり、梅田停車場より東海道線に、網島より關西線に、難波より和歌山線に、湊町より奈良線に通せり、市内には生玉、高津、天王寺等の名所及造幣局、砲兵工廠、造船所等ありて、諸製造業盛に行はれ、關西に於て商品の供給所なり。

堺市(五万)は大和川の南岸にあり、大坂より僅に六哩餘、交通甚だ繁く、紡績、段通織、及物等の製造行はれ、岸和田其南にあり。河内は楠氏に關する遺跡多く、道明寺、富田林、四條畷等相通せり。

○氣候産物 大坂灣に濱し、氣候温和なれども、夏季は頗る高温なり、平野は農産物多く、綿の産額甚多く、製造業到る所に行はれ、諸種の手工品を産す。大坂は我國第一

の商業府にして古より商業盛大なり、人質機敏にして、商賣に巧みなり

中國

中國ハ山陰、山陽、兩道の總稱にして、畿内以西日本海と瀬戸内海との中間に在る地方なり。○中國山脈、其中央を通過し、地を南北に分つ。山南は即山陽道にして、山北は即山陰道(丹波の一部、丹後を除く)なり。内に兵庫、岡山、廣島、山口、島根、鳥取の六縣あり、丹波、丹後は京都府に屬す。

○風土 中國は山陽と山陰とによりて地勢、風土、全く反對にして、山陽道は北に山脈を負ひ、南、瀬戸内海に臨み、主に南來の風化を受け、河系多く南流し、土地肥へ、陸に鐵道あり、海路平穩に、水陸の交通共に便なれども、山陰道は裏日本にして、南に山を負ひ、北日本海に濱し、一に北來の風化を受く、河系は多く北流し、平地に乏しく、海陸の交通未だ不便なり。山陽道は戸口繁く、人質敏達にして、偉人輩出せり。山陰道は太古出雲派の經營し、玉ひし故地なれども、僻在の姿なるを以て、山陽道に比すれば、民物總て寂寞たり。

中國の南面に瀕へたる瀬戸内海は、四國及九州との間に當り、海の面積凡二百五十



方里あり、早瀬、早吸、鳴門、由良の諸海峡によりて外洋に通じ、崎岬島嶼の形勢により、茅渚、播磨、水島、燧安、礮、琉黄、周防の諸海灘に區分せらる。海中には大小の島嶼散布し、兩岸の山峰黛の如く風景甚だ佳にして瀬戸内の景として世に有名なり、此海は四周山を以て圍まるゝにより降雨少く、沿岸各地何れも製塩に適し、食鹽の産額多く、沿岸に當る十國は何れも製鹽業盛にして世に十州鹽田の名あり。

兵庫縣

攝津の内一市三郡播磨一市十三郡丹波の内二郡但馬五郡淡路二郡

○地形 管内は畿内、山陽、山陰、及南海の一畿三道に跨り區域甚だ廣し、故に地勢も區々たり。攝津の部は畿内平原の一部にして、其西には武庫、摩耶、鵜越、鐵拐ヶ岳、鉢伏山等の山彙あり、海岸は大坂灣に臨み、須磨の浦より播磨の舞子、明石に連り、海濱は砂白く松青く、明石海峡を隔て、淡路島に對し風光明媚なり。『淡路島通ふ千島の啼聲にいくよ寝醒の須磨の關守』播磨の海濱は沃野遠く開け、加古川、市川、揖保川、千種川此間を並流す。北部は中國山脉に屬し、笠形山、書寫山、白旗山等あり、丹波に入れば山益深く、但馬には生野、銀山、三國山、氷山あり、朝來川は此山地より北に流れ日本海に入る、海岸に多少の平地あり。○淡路島の南部は阿蘇火山脈に當り、先山島の中央に立てり、紀伊と由良海峡を

挟み、阿波との間は鳴門海峡にして潮流甚だ急なり。

○神戸市(十九万四千) 市内に兵庫縣廳あり、神戸港は五港の一なり、港深く汽船内外各港に往來す、貿易の繁榮なると横濱に次ぐ、市街清潔にして賑合へり。○此市は東海道線と關西線との連絡する處、東京へ三百七十六哩、廣島へ百九十哩あり、湊川神社市内にあり、湊川の西は兵庫にして和田岬東に出て、風濤を遮る、附近に平清盛の開ける福原の舊趾あり、布引瀧、生田森亦遠からず、何れも遊覽の名所なり、鐵道によりて東に進めば住吉、西宮、尼ヶ崎あり、尼ヶ崎より鐵道北に分れて池田に達せり。○其西に有名なる有馬温泉あり、浴客常に多し。

○都邑 姫路市(三万三千) は神戸の西三十四哩にあり、酒井氏の舊城市なり、其城は秀吉の築く所『白鷲城』と稱す、第十師團を置く、革文庫の製造を以て名あり、山陽鐵道線此市に於て北に分れ、生野に達する鐵道あり、是を播但鐵道線と云ふ。○赤穂は西端にあり、四十七義士を出せり、亦鹽の名産あり、龍野は醬油の産地なり、海濱に飾磨津あり、是より鐵道姫路に通ず、其西に室津あり、○高砂には尾上相生の松あり、○丹波に篠山あり、但馬の生野は銀の産地なり。○豊岡、出石は何れも但馬の都會なり、○



淡路には洲本、由良、福良あり。○由良には要塞砲兵を置き、海陸の整備とす。○  
○氣候産物 氣候は攝津播磨は瀬戸内に濱するを以て内海性氣候にして濱海は  
温和なり、されば須磨舞子の如き轉地療養の遊人多し。

○攝播の平野よりは農産物を出し、米の産額百三十萬石に及ぶ。綿藍之に次ぐ、生野  
は銀を産すると多く、御影よりは石材を出し、伊丹、兵庫と醸酒の盛なると我國第一  
たり。○但馬は日本海の風化を受け冬季雪多し。○牛は著名の産にして「神戸牛」と稱  
して諸方に出す。○又出石より柳行李を出す。淡路は氣候温和にして海産及陶器を  
出す。淡路、燒是なり。

岡山縣

備前一市八郡備中十一郡  
美作十二郡

○地形 本縣の北境には中國山脈を負ひ、播磨の境に船坂山(高徳古跡)あり、隧道により  
て鐵道を通ず。美作は殆ど山を以て圍まれ、水源をなす、其水は高田、津山の兩川とな  
り、備前に入りて西大川(旭川)東大川となる。備中に川邊川あり、此等の流域は主要の  
生産地なり、濱海は低地にして兒島半島出て、兒島灣を擁す、其沖は水島灘にまで  
島嶼星列せり。

○都邑 岡山市(五万六千)は中國に於て廣島に亞ぐ大都會なり、旭川の右岸に建ち、池田  
氏の舊城市なり、市の公園、後樂園は我國三公園の一として、其景甚た秀麗なり、此市  
より鐵道東西に通じ、神戸より八十九哩あり、其西に倉敷、笠岡あり、又北に高梁あり。  
津山は美作中央の都會にして鐵道岡山と通ず、其西に院在あり、兒島高徳の櫻樹に  
十字の句を題して其赤心を表せし所と云ふ。  
○氣候産物 本縣は南方瀬戸内海に濱すれども、寒暑稍強し、農産物に綿、烟草、礦物  
に鐵、銅あり、製造品に刀劍、織物(本絨、雲裳)陶器(伊部燒)を出す。○岡山は熊澤、善山以來學問盛  
に行はれ、諸種の人物輩出したる。

廣島縣

安藝一市八郡  
備後一市十四郡

○地形 本縣の北部は一般山多く、鬼城山、御神山等あり、海濱は稍平地を存し、主要  
の部なり、太田川及蘆田川は南流して平地を開く、三次川は北流し、山間を破りて石  
見に入り、江ノ川となる。○前面は安藝灘にして西に廣島灣あり、島嶼甚だ多く、形勢  
頗る佳なり。

○廣島市は淺野氏の舊城市にして中國第一の大都會なり、市街繁盛にして商業事



活潑なり人口も既に十萬餘に進めり、廣島城内には今第五師團を置く、日清の役大本營こゝに置かれ、大元帥陛下親しく軍務を統監し玉ひたり。○宇品港は廣島市に近く日清の役大輸送地として其功著しかりき、東北に吉田町あり毛利氏の基業地にして元就墳墓の地なり。

嚴島は或は宮島と稱し、市杵島明神を祀る殿樓華表、潮水に浮ぶが如く、青山其後を擁し、風景畫くが如し、我國三景の一なり。○江田島には海軍兵學校あり、○倉橋島其南にあり大陸との間は音戸瀬戸にして清盛の開鑿する所と云ふ、○吳港其北にあり海軍第二區の軍港にして、吳鎮守府あり。

尾道市(二萬五千)は内海の要港にして向島其前に當り、風波を遮る、海陸の交通共に便なるを以て古より繁昌せり、其東に福山あり、西に三原、北に三次あり、○鞆津も亦良港にして船舶の出入多し。

○氣候産物 管内の氣候は温暖なれども夏暑頗る強し、茶、綿、麻、烟草等の農産あり、山地に銀、銅、及木材を産し、尾道附近の壘表(備後表)廣島より諸製造品を出す。曾て毛利氏此地に據りて雄視せし所、古來名將輩出し、頼山陽も亦此地より出づ。

山口縣

長門一市五郡 周防六郡

○地形 山口縣は内海と日本海との間に突出し、南端は門司ヶ關と相對して、早鞆峽を挟み、其間五丁餘に過ぎず、實に内海の咽喉たり、管内は既ね中國山脉蟠まり、兩面の海濱に僅に平地を存するのみ、故に河水は中央に發す、岩國川、厚東川、厚狹川は内海に入り、阿武川は日本海に注ぐ。

○都邑 山口町(二萬八千)は縣廳所在地にして、周防長門に境する内地にあり、初め大内氏の城、後毛利氏萩より移りてこゝに居る、今第二十一旅團及高等學校あり、萩は阿武川口にあり、毛利氏の舊城地なり、○赤間關市(七千)は内海の要口を占め、内外往來の船舶必由の港なり、陸路は山陽鐵道線の終端に當るべき處なれば、海陸の要点なり、其東に壇浦あり、源平戰爭を以て著名なり、三田尻は其東にある良港なり、山陽鐵道線此地に通し、神戸より千百七十五哩あり、其東に徳山あり、南東に進めば岩國あり、有名なる錦帶橋(錦盤橋)は岩國川(川)に架せる奇工の橋なり。

○氣候産物 南北の両面に海を受くるを以て濱海は氣候温和にして、夏密柑、無花果等を産す、紙、蠟、及銅、石炭を出し、近海には鯨、鳥賊等の海産多し、長防兩國は毛利氏



の舊封地にして吉田松蔭、木戸孝允等の先輩あり、維新の際數多の人物を出し、明治政府の要路に起ちし人多く、今も武官出身者續々多く長州人の名高し

鳥根縣

出雲一市六郡石見三郡隱岐四郡

○地形 本縣は山陰道の西部を領し、南に山を負ひ、北面長く日本海に瀕す、中間にも沿岸火山脈、白山火山脈通過し、三瓶山、三郡山あり、一般に平地に乏し、出雲の北に鳥根半島横はり其東端を美保關と云ふ、此半島によりて宍道湖及中の海を抱く。江の川は中國第一の大河にして備後より來り西に走りて海に入る、神門川、簸の川は出雲の平地を潤せり。隱岐は鳥根の北四十裡にある火山脈なり、西の島中の三島、島知夫、黒島を島前と云ひ、最大島を島後と云ふ、此の四大島より成る。

○都邑 松江市(三万五千)は宍道湖と中の海との間なる馬瀉の瀬戸に臨み、風景頗る宜し、鳥根縣廳此市にあり、元と松平氏の城市なり、杵築町は國の西邊にあり、町に有名なる大社あり。濱田は石見の港にして歩兵第二十一聯隊を置く。津和野は石見西南部の小都會なり。隱岐に西郷港ありて島内の都會なり。

○氣候産物 本縣は北に日本海を受け、冬季北西の寒風強く、降雪亦多し、平地一般

に少きを以て農産物に乏しく、麻、綿紙を産し、其他礦物、海草、陶器等あり、隱岐は鮑海鼠等の海産、及牛を産す、農産物は地狭きを以て豊ならず。

鳥取縣

四郡一市三郡伯耆三郡

○地勢 本縣の地形も亦南に山を負ひ、北は長く日本海に枕めり、中間に大山あり、五千八百八十尺に聳ゆる火山にして中國第一の高山なり、其東北に船上山あり、名和長年の後醍醐天皇を奉して義旗を擧げし古跡なり、國內平野甚だ乏しく、千代川、天神川、日野川等の小流域に過ぎず。沿海は出入少く、西に夜見濱の突出あるのみ、其沿海を米子の深浦或は錦浦と云ふ。

○都邑 鳥取市(三万八千)は千代川の右岸にあり、縣廳所在地なり、此市は元と池田氏の舊城市にして、今歩兵第四十聯隊を置く。米子町は夜見濱の東、米子の深浦にある良港にして船舶常に輻湊す、夜見濱の端に境港あり。倉吉は伯耆東部の都會なり。○氣候産物 本縣も北に日本海を受け、冬季北西風多く降雲少からず、土地瘠薄にして農産少し、綿藍及鐵、海草、蜂蜜を産し、又多少の手工品を出すに過ぎず。



第四編

四國

四國島は中國と瀬戸内海を隔て、相對する本邦五大島の一なり、古は「伊余之二名島」と稱し。後阿波讃岐伊豫土佐の四國を置かれたるにより四國島と稱するに至れり。徳島香川愛媛高知の四縣あり、面積千五百五十方里人口殆ど三百萬あり。

○地勢 本島の中央には四國山脈連亘し、西より東に横貫せり、是れ島の脊梁たり、山脈の西に、鬼ヶ城山森吉山あり、中央に石穂山(六千五百尺)あり、四國第一の高峯なり、其南に笹ヶ峰あり、阿波の境に於て兩分し、一は阿波、讃岐の國境となり、一は阿波の南部を東走し、劍山(六千五百尺)の高峯あり。

○風土 四國山脈あるが爲り、島地は南北の兩部に別たる、山南は表面にして硬質の岩石を以て構造せられ、地形南海に向つて緩斜し、河系多く南流し、凡て南來の風化を受く、山北は裏面にして火山(阿蘇火)及處々に平地を存し、河系多く北流し、凡て内海の風化を受く。

四國は中古以來長曾我部山内蜂須賀等の諸豪族の據りし處。人質武健と稱せら

れ、辯舌爽快なり、南海岸は稍卑俗なれども、商賈に長じ、富豪尠なからず。

徳嶋縣

阿波一市 十郡

○地勢 東面は紀州海腰に臨み、海岸の出入多し、東角を蒲生田岬と云ひ、紀州の比井岬と相對す。淡路島との間は有名なる鳴門海峡にして、内海の潮水進退する口に當り、水勢激して大渦旋をなし、其聲遠雷の如く、航行危険なれども、風景は奇佳なり、北境及南部は四國山脈を以て包まれ、西邊に至れば山深く、人跡稀なる處あり。吉野川は土佐より來り、中流(川)に於て伊豫より來る銅山川と合して東流し、廣き河谷を開きて海に入る、四國三郎の別稱あり、此流域最も主要の部なり。那賀川は南部の大流なり。

○徳島市 (六千二百) 此市は四國第一の大都會なり、吉野川口の南岸に建ち、商業繁榮す、蜂須賀氏の舊城市なり。其北の齋田は鹽の本場なり、撫養町は鳴門峽に臨める碇泊地なり。

○氣候産物 管下の濱海は氣候温暖にして雨量多く、諸種の農産物を出す、吉野河谷の藍は全國に最たり。砂糖烟草亦名あり、徳島附近よりは多く、絨織(阿波)を産す



山地より銅、石灰を出し、南海に經多く、鯉節の産あり。

香川縣

讚岐一市  
十二郡

○地形 阿波の境は四國山脉を以て限られ、其他は内海に突出し、岬灣の出入甚だ多し、三崎西北に出て、伊豫灣を擁す。沿海は島嶼散在し、小豆島最も大なり、其の西に鹽飽の七嶋あり、海岸には平地を存し、諸小流之れを潤し、肥沃の農産地ありて、諸種の農産物を出す。

○都邑 高松市(三万)は香川縣廳のある所にして、織物及賣藥の製造あり、其附近に屋嶋、東に志度浦あり、共に源平戦争に關する著名の古跡なり。鐵道は高松より坂出を経て丸龜に通ず。丸龜町は西部の都會なり、其近郊の善通寺には今第十一師團を置く、鐵道是より多度津を経て琴平に達す、多度津は四國の良港にして、神戸へ八十二哩あり。琴平町は象頭山麓にありて、有名なる金刀比羅神社あり、參詣者甚だ多し、其西に觀音寺町あり、西部の都會なり。

○氣候産物 内海に臨み、氣候温暖にして、冬寒薄く、多度津の如きは隆冬にも氷點下に降ると稀なり。平地は米を産し、甘蔗の耕作盛に、砂糖の産額は我國第一(臺灣の外)

たり、引田は糖業の最も盛なる處なり。沿海は鹽の産額多く、又魚族少からず、小豆島よりは醬油を産せり。

愛媛縣

伊豫一市  
十二郡

○地勢 本縣の南境は土佐と腹背をなし、境上に四國山脉連亘せり、北面は長く内海に濱し、今治、半島北方に突出し、讃岐と相對して、伊豫の灣を作る、半島の西は硫黃灘にして、内に興居島あり、島形富士に似たるを以て、伊豫小富士の名あり、佐田岬遠く西に出て、地蔵崎と早吸峽を扼す、其南は豊後と相對して、豊後水道を挟み、岬灣の出入甚多し。海岸に狭き平地あれども、其他は一般山地に屬す、肱川、重信川は多少の流域地を開き、稍々農産物あり。

○都邑 松山市(三万)は愛媛縣廳及第十旅團ある所、海岸に三津ヶ濱あり、市と鐵道相通ず、松山に近く、道後の温泉あり、古昔より有名の浴場にして、浴客常に絶へず、平井河原、森松郡中との間、皆鐵道相通せり。宇和島は南豫の都會にして、今治、八幡濱は碇泊港なり。

○氣候産物 氣候は内海に濱するを以て、著しく温暖にして、降雪稀なれども、夏暑



頗る強し。平地に米、砂糖、蠟、紙を産し、別子の銅山より産する銅は其産額我國第二なり、沿海に塩、及魚類を産すること多し。

高知縣 土佐一市  
七郡

○地形 土佐は南方一面に海を受け、室戸、蹉陀の両岬によりて土佐灣を抱く、此灣は白鳳年間陥没して海灣となれりと云ふ。北の國境は總て山脈を以て圍まれ餘脈管内に逼り、到る處硬き岩石にして奇景多しと雖とも平地に乏し、物部、仁淀、四万十の諸川此間を流る、河谷には多少の農産物を出す。

○都邑 高知市 (三万六千) は海南の都會なり、山内氏の舊城市にして維新の際數多の志士を出せり、又海南學校の如き士氣頗る盛なり、今歩兵第四十四聯隊を置く。市に近く浦戸灣あり、船舶の出入する所神戸へ百四十二哩あり、赤岡、高岡、須崎、中村、宿毛は大概船舶を寄すべき小都會なり。

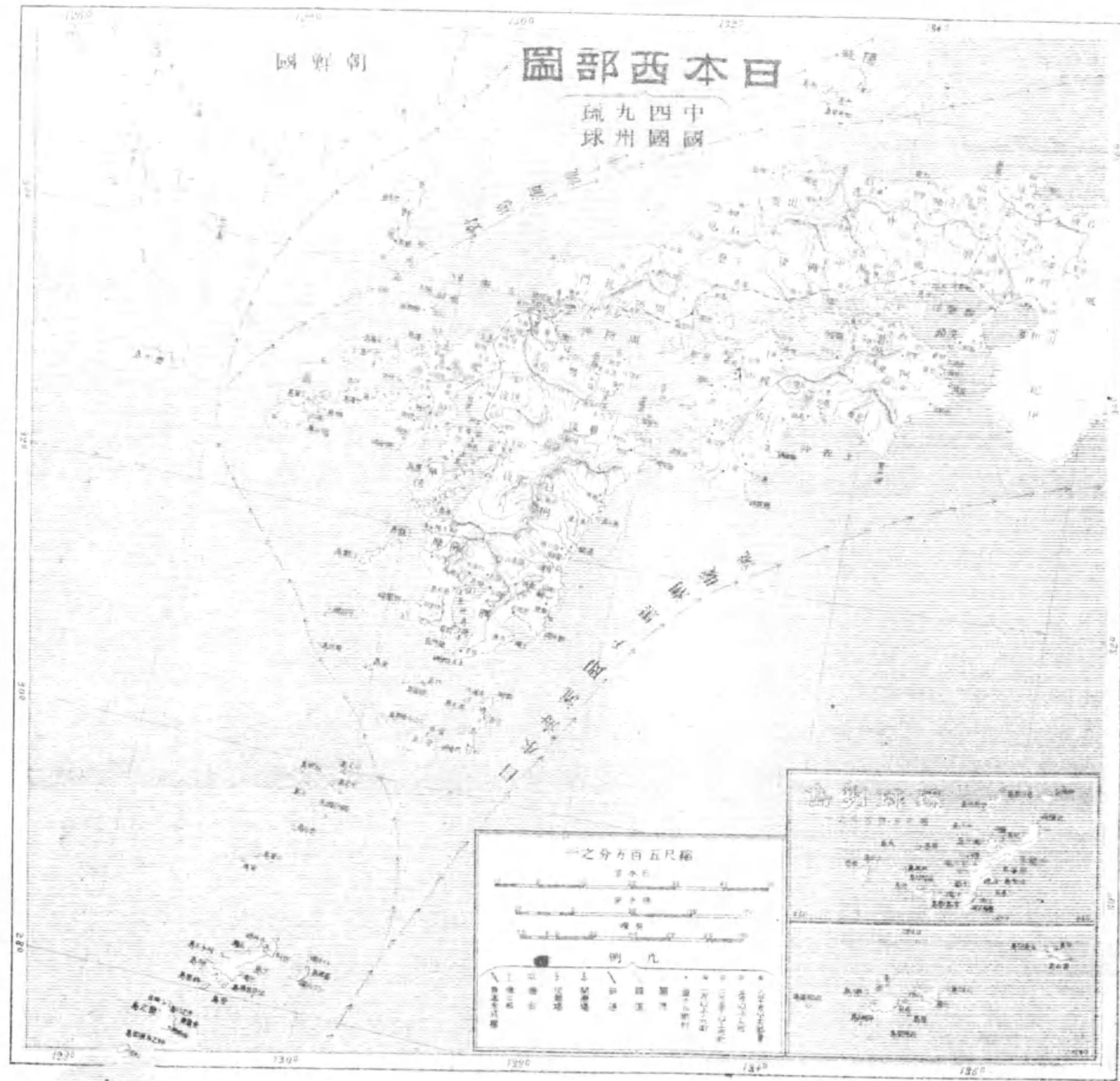
○氣候産物 土佐は南海の風化を受けて、氣候著しく温暖に、夏暑亦甚しからず、雨量は甚だ多くして我國最多雨の部なり、故に植物の發生頗る宜しく、巨大の良材を産し、西海中の沖島には熱帶性の植物を生ず、紙は土佐半紙と稱し、鯉は土佐節と稱



脈管内に逼り、到る處硬き岩石にして奇景多しと雖とも平地に乏し、物部、仁淀、四万十の諸川此間を流る、河谷には多少の農産物を出す。

○都邑 高知市(三万六千)は海南の都會なり、山内氏の舊城市にして維新の際數多の志士を出せり、又海南學校の如き士氣頗る盛なり、今歩兵第四十四聯隊を置く。市に近く浦戸灣あり、船舶の出入する所神戸へ百四十二哩あり、赤岡、高岡、須崎、中村、宿毛は大概船舶を寄すべき小都會なり。

○氣候産物 土佐は南海の風化を受けて、氣候著しく温暖に、夏暑亦甚しからず、雨量は甚だ多くして我國最多雨の部なり、故に植物の發生頗る宜しく巨大の良材を産し、西海中の沖島には熱帶性の植物を生ず、紙は土佐半紙と稱し、鯉は土佐節と稱





せらる、砂糖、石灰又産し、土佐沖の捕鯨、宿毛灣の珊瑚、共に著名なり

○風土 土佐人は武健にして、性質率直と稱せられ、維新の際人物輩出し、明治政府に於て薩長土と並稱せられ、今も武官の出身者多く、民間の志士亦少からず、政論甚た盛なり。

### 第五編

#### 九州 附壹岐對馬

九州は古の『筑紫』にして或は『鎮西』と稱す。内に九國あれば九州と云ひ、之に壹岐對馬を加へて西海道十一國とす、今福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿兒島の七縣を置く、面積二千六百餘方里ありて、六百餘萬の人民之に住めり。

○地勢 九州島は南西より東北に並行せる、南及北の兩山脈及其中間の阿蘇火山脈南より來る霧島火山脈の四山脈を以て構造せらる、概して海岸の出入多く特に西面は岬灣出入し、島嶼群點し形勢甚だ佳良なり。

○風土 九州は太古我國祖の都し給ひし所にして、本邦の祖國なり。氣候温暖に



して地味肥へ産物多く、特に石炭の供給所なり。此地は中古以來菊池少貳、大友、島津、龍造寺、加藤、小西、黒田、細川、鍋島等諸豪族の據りて、或は起り或は仆れ、互に相競逐せし所、且屢、外寇の衝に當り其難を被れり。人質剛健にして武を好み氣節を尙ひ、風俗撲野なり、近古諸種の人物輩出し近くは維新の大業を翼賛せし人尠なからず。

福岡縣

筑前一市九郡筑後一市六郡豊前ノ内四郡

○地勢 九州南山脈管内を西より東に横過し遂に門司ヶ關に達す、此山脈中に寶滿山、福知山等あり。此脈附近は石炭を藏むること夥し、豊前には英彦山あり。北は響灘、玄界灘に面し、鐘ヶ崎、遠く挺出す、志賀島及び海ノ中道によりて博多灣を抱く。豊前は瀬戸内に臨り、沿岸一帯は平地にして地味肥へたり、遠賀川南の高地に發し其支流を率ゐて北流し、響灘に入る、此流域、炭脈最も豊なり。

筑後 筑後は有明海に濱し平野遠く開け、地味甚だ肥へたり、筑後川(筑後三郡)は豊後より來り北境を流れ、廣大の流域を開きて有明海に入る、此河は菊池氏の小貳、大友と對戦せし所にして、河中に武光の太刀洗石あり、頼山陽の(歸來河水笑洗刀血、潮奔浦吐紅雪)の狀尙は想見すべし。河道は運送灌漑共に便利なり、高良山(屏風山)此平野の間に連亘せり、頂上

に武内宿禰を祀る玉垂宮あり。

○都邑 福岡市(六万)は博多灣に臨み大川を以て博多と境す、昔は福岡、博多は別市なりしも今は共に一市となる、黒田氏の舊城市にして歩兵第二十四聯隊あり、九州鐵道の要路に當り、門司へ四十七哩あり、博多港は船舶の往來繁し、千代の松原は元寇の舊跡にして今公園となる。市の附近には箱崎八幡宮あり、醍醐天皇の宸筆なる、敵國降伏の勅額あり、又香椎宮等あり。南部に太宰府あり、天滿宮を祀る、都府樓の跡尙存し土中より其古瓦を出す、及其西に天拜山あり、菅公の天恩を拜し給ひし遺所なり。

小倉町は九州北端の一都會にして、豊前北部にあり、人口二万を有す、小笠原氏の舊城市なり、西部都督部及第十二師團あり、鐵道是より東南に別れ行橋、中津を経て、宇佐に達す。門司は九州鐵道の起點にして、馬關と早稲峽を挟み、陸路及海路の要點を占む、其埠頭は船舶常に輻湊し、特別輸出港なり。

○久留米市(八千)は筑後の都會なり、筑後川の南岸にあり、有馬氏の舊城市なり、第二十四旅團を置く、市に水天宮あり、又飛白織盛なり、世に「久留米緋」の稱あり、其南に



柳川町あり。大牟田町は三池に近く、石炭の産所なり。筑後河口に若津港あり。米穀の輸出所なり。筑後河口に在るを以て或は大川港と云ふ。

○氣候産物 北面、玄界洋に濱し、氣候總て其風化を受け、九州に在りては寒氣強く、冬季屢降雪あり。平原は地味大に肥へ、米穀を産すること甚だ多く、年額米は百五十万石を出す。其他藍、茶、蠶を産し、石炭は本邦第一にして、其産額三百五十万噸に上り、我國全産額の六割五分を占む。鐵、織物、木材、紙、水産等産物甚だ豊なり。故に民度低からず、近來稍奢侈の弊風を養成せんとするに至れり。

佐賀縣 肥前一市 八郡

○地勢 佐賀縣の管轄は肥前東半を領し、縣の中部に九州北山脈あり、脈中に雷山、天山、背振山等あり。北は壹岐海峡に臨み、松浦半島突出し、唐津、伊万里の兩灣あり、南は有明海に臨む、海岸には肥沃の平地ありて農産尠からず。

○都邑 佐賀市は内海濱の平地にあり、縣廳所在地にして鍋島氏の舊城地なり、人口三万に近し、鐵道東西に通じ、東は鳥栖に於て九州本線に連り、西は武雄有田を経て長崎に達す。唐津は北海の良港にして、石炭米の輸出多し、特別輸出港なり、伊万里

有田は陶器の産所にして「肥前燒」の名あり、何れも鐵道の便あり、小城、蓮池は共に舊小城地なり。

○氣候産物 福岡と同じく、九州に於ては寒暑稍懸隔す、平地よりは米、茶、烟草、能く産し、石炭の産は福岡に次ぐ。陶器は産額頗る多し、當縣よりは維新の際數多の有志輩出したる。

長崎縣 肥前一市 九郡

○地勢 長崎縣管轄は肥前の西半、及壹岐對馬の二島を領し、地域廣からず、從て平地に乏し、然れども岬灣の出入、島嶼の多きと全國に冠たり。故に形勢甚だ佳良なり。岬灣の重なるものを擧ぐれば、北に松島半島あり、平戸島其前に當り、其間を雷の瀬戸と云ふ。南に彼杵野母島、原の三半島あり、其間には大村灣、天草洋、有明海等灣入せり。五島は其西海上に羅列せる五個の島なり、最大島を瀬江島と云ひ、中通島之に次ぐ、北海に壹岐あり、其北の海峡を對馬海峡と云ふ、之を隔て、對馬あり、對馬は上島、下島の二大島より成り、北は朝鮮海峡を隔て、朝鮮に對す、多良岳は大村に近く、聳へ、溫泉岳は島原半島にあり、共に霧島火山脈に屬する火山なり、溫泉岳の頂



上よりは今に硫烟を吐く。

○都邑 長崎市は古より外國との交易場にして、長崎奉行を置きて貿易を督せしめたり。故に古より海外との關係最も深し、市に縣廳及居留地あり、九州鐵道通じ門司へ九十八哩あり、海路は各國に至るべく、海陸共に便なり、人口既に七万五千に達し、甚だ繁昌せり。大村は舊城市にして大村灣(浦)に濱し、第二十三旅團を置く、風景頗る佳なり。佐世保は軍港にして鎮守府あり、鐵道又通せり。島原は同半島の港にして單に港とも稱す。福江は五島の都會にして、平戸は又同島の都會なり、壹岐に郷野浦あり、對島に嚴原あり、嚴原は島廳のある所、竹敷港に警備隊を置きて朝鮮海峡の警備とす。

○氣候産物 本縣は海中に突出するを以て、海風に調和せられ、氣候温暖にして平和なれども、夏日の夕、長崎の夕風とて海風全く絶へ、暑氣釜中に在るが如きとあり。管内総て平地に乏しきを以て農産物少し、只烟草は著名に、『長崎烟草』の名あり、石炭の産額は佐賀に次ぐ、陶器又産す、海産は甚だ豊にして、全國に於て千葉縣に亞ぐ、最も盛なるは五島附近の捕鯨なり、是れ『五島鯨』の名あるものなり。鳥賊(鮑)海鼠之

に次ぎ、其他海族甚だ多し。住民は機敏にして商業に通じ、古來外國との往來繁きを以て海外思想發達し、海外に出稼又は移住する者少なからず。

熊本縣 肥後一市 十二郡

○地勢 本縣は肥後全國を領し、縣の南部は九州南山脈通過するを以て、山深く日向どの境界には五家(カ)米良(メ)の如き山莊あり、又高山には日向の境に市房山、江代山あり。球磨川此山間を急下するを以て流峻に日本三急流の一に數へらる。薩摩境に三太郎峠ありて交通頗る不便なり、東部に阿蘇大火山ありて常に噴烟せり、其脈東北に蟠まりて温泉甚だ多し、地勢一般に西の方、内海に向ふて緩斜し、菊池川、白川、緑川共に西流して内海に入る。海濱は沃野開け、『肥後米』の産所なり。宇土半島中央より出て、天草群島其前に當り、中間に八代海あり、此海上には毎年秋期、『不知火』の現出を以て著名なり、九州を『不知火の筑紫』と云ふは是より出てたり。

○都邑 熊本市は九州中央の都會なり、細川氏の舊城市にして西に金峰山(カミダケ)を負ひ、市街は白川に跨り、人口五万五千を有し、市中繁榮なり。熊本城は加藤清正の築く所、壯大を以て名あり、西南の役に賊の圍中にあると三ヶ月能く之を固守し得たり、



今は兵火の爲め城郭のみを存せり、城中に第六師團を置く、又市には縣廳及第五高等學校あり、鐵道南北に通ず。市の附近に成趣園（清正を）及本妙寺（記る）等あり、植木木ノ葉田原坂等は西南の役に有名なる戰場なり。八代町には八代神社（征西將軍）あり、此地は九州鐵道の終點にして、門司に百四十三哩あり、宇土、人吉、高瀬は舊小城地なり、山鹿は温泉場にして、隈府に菊池神社あり、三角は特別輸出港にして、天草に町山口町あり。

○氣候産物 氣候温暖なれども夏暑頗る強し、平地には能く米を産し、其額百二十万石に達す、麻、茶、蠟、烟草等の農産多く、山地に銅、硫黃、セメントを産し、天草より石炭を出す。南朝の時菊池氏の據りて孤忠を爲せし處、後加藤、細川の二氏相次て之を領す、人質剛直と稱せらる。

大分縣

豊後十郡 豊前一郡

○地形 本縣の東方は内海に濱し、其海岸に平地あり、南部は九州南山脈の爲め山地多し、中部には阿蘇火山脈通過し、肥後境に祖母山、九重山あり、是より由布岳、鶴見岳となり、遂に國東半島となりて内海に突出す、皆火山に屬し、其附近温泉多し。地

形は此阿蘇火山脈の爲め兩分せられ、北を中津平原とし、驛館川、山國川之を潤す、南を大分平原とし、大分川及大野川の流域なり、此兩平原共に農産物少なからず。

○都邑 大分町は縣廳所在地にして、大分灣に近く、人口一万二三千に過ぎざれども、諸官衙等ありて稍賑合へり、其北に別府及日出の名邑あり、南に臼杵、佐伯の良港あり、西に竹田あり、共に舊小城地なり。中津は豊前の都會にして、山國川口にありて頗る繁昌せり、山國川の上流に耶馬溪の奇景あり。宇佐には有名なる宇佐八幡宮あり。

○氣候産物 内海に濱し、氣候温暖にして、寒暑共に和順なり、平地には米、烟草、麻を産す、蕨の製造各地共甚だ盛なり、山地に木材を産し、海産に鮑、烏賊あり。

宮崎縣

日向郡

○地勢 本縣管内は頗る廣漠なれども、人口は頗る稀疎なり、縣の西北部は九州南山脈の爲め山深く、太古諸尊の都し、玉ひし「高千穂の庄」あり、南部は霧島山脈横はり、霧島山は東西の兩峰に分れ、其最高峰たる高千穂の峰は五千五百尺に聳へたり。東岸は一帶日向洋に沿ひ、海岸の出入少し、五個瀬、美々津、一の瀬、大淀の諸河流、肥後



境の高地より發源し東に下り日向洋に入る管内一般山地にして平原に乏しく且つ肥沃の地少なし。

○名邑 宮崎町は縣廳のある所海陸の交通共に未だ不便なれば人口も亦多からず其北に佐土原高鍋延岡あり共に舊小城地なり細島は汽船の碇泊所なり南部に

飲肥あり又其西に都の城あり。○氣候産物 管内は氣候温暖にして南部は雨量甚だ多く我國最多雨の部なり荒漠の野に牧馬多く農産は米麻に過ぎず木材は第一の産にして巨大の良材を出す北部に銅銀を産し鳥賊鯨等の海産は日向洋より出せり。

覺島縣

薩摩一市七郡 大隅五郡

○地勢 本縣は薩摩大隅の二國を領し其形勢は九州の南部より兩脚狀をなして南海に突出し南端に開聞佐多の兩岬ありて鹿兒島灣を抱く灣内に櫻島あり。此兩半島は霧島火山脈の通過する處に當り土地凡て火山質にして平地に乏しく僅に灣邊に平地を存するのみ。川内川は北部の大川にして西流して海に入る西海上に長島觀島あり南海に種子屋久の兩島あり其南に大島鬼界島徳之島及與論島

等あり。列島の西側に沿ふて土噶喇七島あり或は河邊七島と云ふ此の別島は霧島火山脈に當る火山島なり。

○郡邑 鹿兒島市は九州南部の一都會なり鹿兒島灣に臨み櫻島前面に屹立す島津氏世々の舊城市にして港を兼ね人口五万五千あり後に城山あり西郷隆盛以下戦死の所なり。南に谿山及薩摩燒の産所なる揖宿あり。鹿兒島の北に市來宮城阿久根あり○大隅に加治木濱の市及烟草の名所なる國府あり何れも小都會なり○氣候産物 氣候著しく温暖にして降雪甚だ稀なり。南端は雨量多く熱帯性の植物を生ずる所あり本縣は烟草甘蔗の本場にして皆薩摩の名を以て呼ばる。麻茶及馬を産し黄金の産は全國第一にして銀亦産す鯨及其他の海産多し。薩南諸島よりは熱帯性の珍奇の動植物を産せり。人質勇悍にして武を競ひ多く俊傑の士を出す維新の際西郷大久保を初め數多の志士輩出したるは人の知る所なり。

沖繩縣

琉球二區五郡

○島勢 琉球群島は薩南群島の輿論島より南西に羅列する五十五島の總稱なり而して島彙自ら二群に分れたり北方なる一島彙を沖繩諸島とし南なる一群を先



島諸島とす。沖繩諸島中、沖繩島は主島にして島形南西より北東に延び、長さ四十里あり、地形に沿ふて一帯の山脈ありて、平地に乏し、其他諸島も概ね其島背山脈を負へる山嶼なり。

○那覇邑(三万四千) 那覇は沖繩島の那覇江北岸にある良港にして島内第一の都會なり、沖繩縣廳こゝにあり、鹿兒島へ海路三百七十三哩あり。首里區(二万五千)は尙氏の舊城地にして源爲朝の渡り居りし處と云ふ。先島群島(小琉球)は宮古、石垣、西表の三大島あり、西表以南を八重山列島と云ふ。其與那國島は臺灣島との間海路五十七哩を隔てたり。

○氣候 其位置熱帯に近く、且黒潮に洗はるゝを以て、氣候温熱に寒暑の差甚だ少く、冬間(平均十度)も東京の五月頃に均しく、降雪を見ず、夏月の平均温度は二十八度にして常に清涼の風あり、降雨は甚だ多く且つ陰晴常ならず。

○産物 植物の産甚だ多く、砂糖、藍は本島の主産と謂ふべし、飛白織、泡盛酒、上布、夜光貝は内地に出し、其他珍奇なる動植物を産す。

○風土 本島は古より島津氏の附庸地にして鹿兒島とは往來ありしも南溟中に

あるを以て人質頑陋にして怠惰なり、而して婦女は却て能く労働す、習慣言語共に内地とは別種なり。今其風俗の概略を示さん、家は颶風多きを以て皆低くして堅牢を主とし、其用材は粗悪なり、屋根は瓦を疊み、白堊を以て其間を塗る、家の周回は石垣を繞らし、内部は内地の農家に似たり、外觀甚だ陋なり。○衣服は専ら綿布麻布を用ひ、或は芭蕉布、上布の類を用ふ、男女は潤袖の單衣にして、其長け甚だ短く、屨かに膝に及ぶ、女子は長さ上衣を着くれども、襪を右にし或は左にする等一定せず、男女共に髪を束ねて笄を用ふ、中等以上は銀笄にして、下等は眞鍮又は鐵笄とす、近來少年は散髪するものあり、一般に跣足にして上流人にあらざれば草履、木履を穿たず、女子は六七歳にして五指に黠し、二十四五歳に及べば手甲に圓形又は長形の文身をなす。○食物は甘藷を常食とする者多く、或は蘇鉄の實及其幹を粉として之を食す、豚肉は其最も好む所なり、又嗜んで泡盛酒を飲用す。

本島の祖を天孫氏とす、傳世二十五代に及び姦臣の爲めに滅さる、當時源爲朝本島に渡り、大里按司の女を納れて男を生む、舜天王是なり、其後天孫氏の裔に譲り、後明に通じ其冊封を受く、徳川氏に至り島津氏に命じて討伐せしむ、是より全く我國の



正朔を奉ずるに至れり、明治五年琉球藩を置く次で沖繩縣とす。

附 言

日本地理講義も既に本洲四國九州を終りたり、即ち現今政治上同一制度を施行せらるゝ重要部は既に講し了りたり、抑々地理科は記憶に訴ふる部分多く之を固定の智識とせんには頗る温習を要す、若し温習を怠る時は既に日本全体を習了しても講義録を離るゝ時は其腦裏に存するもの幾許もなきの境遇となるべし、省みざるべからざる事なり、然れども徒に反覆素讀するのみにては其効少きを以て其要領を示す爲め、既に學べる部分より數個の問題を出して温習の方針を示さんとす(讀者に告ぐ短簡なる答を各自の覺に問題の下に記入し置くとも最も適當なるべし)

總論之部

- (一) 我國の地球上に於ける位置を言へ。
- (二) 我國の氣候に對する位置は如何。
- (三) 我國位置の重要な所以を考ふべし。
- (四) 我國の境域は如何。
- (五) 我國の幅員は如何。

- (六) 各大島の面積及各島の比較如何。
- (七) 我國政治區劃は如何。
- (八) 海岸線の延長及我國の海岸線の他國との比較如何。
- (九) 本州の太平洋岸日本海岸の形勢を觀察せよ。
- (十) 瀬戸内海の沿岸を調べよ。
- (十一) 北海道海岸の形狀如何。
- (十二) 九州の海岸線如何。
- (十三) 四國の海岸線の形狀如何。
- (十四) 北海道九州四國の海岸線を比較觀察せよ。
- (十五) 台灣の海岸線及び其四岸と東岸とを比較せよ。
- (十六) 我國土の延長せる形狀如何。
- (十七) 國中に於ける凸凹の有様を述べよ。
- (十八) 我國の重なる平野を挙げよ。
- (十九) 日本國土の構造は如何。
- (二十) 樺太山系は如何。
- (二十一) 崑崙山系は如何。



- (一〇) 火山脈は如何。
- (一一) 北日本南日本表日本裏日本の區別如何。
- (一二) 樺太山系に屬する山脈を挙げよ。
- (一三) 崑崙山系に屬する山脈如何。
- (一四) 我國河流特徵如何。
- (一五) 表日本の水系如何。
- (一六) 裏日本の水系如何。
- (一七) 我國の風景如何及風景に富む所以如何。
- (一八) 我國に温泉多き所以を考へよ。
- (一九) 我國は地震國なり其故如何。
- (二〇) 黒潮の流系を圖して見よ。
- (二一) 近海を流るゝ諸寒流の流系を記せよ。
- (二二) 我國の氣候は亞細亞に於ては如何なる部分なるや同溫線を書き見よ。
- (二三) 夏期の氣候及冬期の氣候如何。
- (二四) 降雨の量其場合によりて多寡を言へ。
- (二五) 風位は如何なる方向多きや夏の風向及冬の風向如何。

人事地理の部

- (一) 植物の産には如何なるものありや。
  - (二) 獸類は如何なるものを産するや野獸家畜の各々に就きて答へよ。
  - (三) 我國の水産は如何。
  - (四) 鳥類は如何なる類を多しとするや。
  - (五) 蟲類には如何なるもの多きや琉球台灣には如何。
- 人事地理の部
- (一) 我國を血族國家と稱する所以を答へよ。
  - (二) 大和種族の性質を述へよ(長所及短所に就き)。
  - (三) 「アイヌ」種熊鷹種其他の種族如何。
  - (四) 我國人口の増減來歴如何。
  - (五) 現在の人口及其住民の疎密を言へ。
  - (六) 國民の風俗(衣食住)各々に就き述へよ。
  - (七) 日本教育の主義如何。
  - (八) 現在教育の階梯順序を問ふ。
  - (九) 初等教育中等教育高等教育の各々の有様如何。
  - (一〇) 特殊教育(教員養成軍事教育技術教育)の景況如何。



- (三) 著書、新聞、雜誌等の景況を問ふ。
- (四) 我國人の宗教に對する有様如何。
- (五) 神道、佛教、基督教の各々の有様如何。
- (六) 我國の土地所有の事歴及田畑等の景況を答へよ。
- (七) 我國は生産物饒なる國なりや否や。
- (八) 農業及農産物の重なる有様。
- (九) 工業及工産物の重なる有様。
- (一〇) 林業及林産の景況。
- (一一) 牧畜及畜産の景況。
- (一二) 漁業及水産の景況。
- (一三) 礦業及礦産物の重なる有様。
- (一四) 内國商業の景況。
- (一五) 外國貿易の景況及重なる輸出品及輸入品を擧げよ。
- (一六) 我國と取引貿易の盛なる國々を問ふ。
- (一七) 交通の景況如何。
- (一八) 道路の有様如何(國道、縣道、里道の別)。

- (一九) 我國鐵道の景況如何。
- (二〇) 郵便、電信、電話の現況如何。
- (二一) 我國海軍の有様及近來の發達。
- (二二) 我國體を明に覺へよ。
- (二三) 我政体は如何(三大權)。
- (二四) 立法司法行政の三大部。
- (二五) 地方行政の有様如何。
- (二六) 財政及納稅義務。
- (二七) 租稅とは何如及其重なる稅目を擧げよ。
- (二八) 歳入及歳出とは如何。
- (二九) 國民の參政權如何。
- (三〇) 政黨及重なる政黨を問ふ。
- (三一) 國防及我國の國防。
- (三二) 兵役の義務及其年限。
- (三三) 陸軍管區は如何。
- (三四) 陸軍々隊師團旅團の別及其所在地。



- (八五) 歩兵聯隊の配備及其駐在地。
- (八六) 海軍區鎮守府軍艦。
- (八七) 外交の有様及其來歴を記せ。
- (八八) 我國の條約國を擧げよ。
- (八九) 條約國に駐在する公使領事の職務如何。

地方誌之部

- (九〇) 關東八州の地勢及氣候は如何。
  - (九一) 關東人の性質及特徴如何。
  - (九二) 東京府の境域及形勢を述へよ。
  - (九三) 東京人の特質如何。
  - (九四) 東京市の概況を記せよ。○十五區○下町・山の手の別○市の沿革○市の交通○市民の遊覽地。
  - (九五) 東京府の各部邑を擧げよ。
  - (九六) 東京の風土如何。
  - (九七) 豆南諸島の概況○伊豆七島○八丈島
- 各府縣の問題は概ね東京府の問題に準すべきもの多きを以て一々之を

記せず只特に著しきもののみを擧ぐべし

- (九八) 埼玉縣に於ける重要な名邑及産物の最も著名なる物を問ふ。
- (九九) 神奈川縣の地勢と鎌倉との關係如何。
- (一〇〇) 横濱市のことを記せ。
- (一〇一) 神奈川縣著名の産物を問ふ。
- (一〇二) 茨城縣の風土如何。
- (一〇三) 千葉縣著名の産物を問ふ。
- (一〇四) 栃木縣の地勢及著名産物を問ふ。
- (一〇五) 群馬縣下の重要産物を擧げよ。
- (一〇六) 奥羽の七州及管轄縣名を擧げよ。
- (一〇七) 奥州と羽州との風土の相違を記せ。
- (一〇八) 奥羽人の特質如何。
- (一〇九) 福島縣著名の火山及著名の産物を問ふ。
- (一一〇) 宮城縣にある日本三景の一及其風景。
- (一一一) 仙台市の概況。
- (一一二) 岩手縣著名の産物。



- (二二) 青森縣の略圖を作れ。
- (二三) 青森縣の氣候如何。
- (二四) 秋田縣の礦産物を擧げよ。
- (二五) 最上川に就き其流域を記せ。
- (二六) 中央高原の地勢風土如何。
- (二七) 新潟縣の沿岸に就き記せ。
- (二八) 新潟縣の諸都邑を擧げよ。
- (二九) 新潟縣の風土産物を問ふ。
- (三〇) 長野縣の地勢及諸高山を擧げよ。
- (三一) 信濃河沿水地を記せ。
- (三二) 山梨縣の地勢如何。
- (三三) 南日本の地域を擧げよ。
- (三四) 本州中部の風土を記せ。
- (三五) 富士山及其附近を記せ。
- (三六) 伊豆の地勢風土如何。
- (三七) 名古屋市及其附近の各名地を擧げよ。

- (一) 愛知縣の産物を問ふ。
- (二) 岐阜縣下に水害多き原因如何。
- (三) 三重縣の都邑及名所を擧げよ。
- (四) 三重縣の特産物。
- (五) 北國の氣候、風習如何。
- (六) 福井縣の地勢及特産を問ふ。
- (七) 金澤市及其他石川縣の都邑を記せ。
- (八) 富山縣の地勢を記せ。
- (九) 近畿各地の地勢風土如何。
- (一〇) 琵琶湖に就き記すべし。
- (一一) 京都市及其各名所舊蹟を擧げよ。
- (一二) 京都府下の特産物を擧げよ。
- (一三) 奈良市及其名所舊蹟を問ふ。
- (一四) 和歌山縣の地勢を問ふ。
- (一五) 大坂市の繁榮する所以を地勢上より記せ。
- (一六) 大坂府の風土産物を問ふ。



- (一四〇) 山陰山陽兩道の風土を比較せよ。
- (一四一) 瀬戸内海に就き知れる所を記せ。
- (一四二) 神戸市より東京に至る海陸の順路を記せ。
- (一四三) 兵庫縣下の特産物を挙げよ。
- (一四四) 岡山縣下の特産を問ふ。
- (一四五) 廣島縣下の諸都邑を挙げ其概況を附記せよ。
- (一四六) 山口縣の風土を記せ。
- (一四七) 島根縣下の各名邑を挙げよ。
- (一四八) 鳥取縣下の諸名邑を挙げよ。
- (一四九) 四國の地勢風土如何。
- (一五〇) 四國島の略圖を作れ。
- (一五一) 吉野川に就き記せよ。
- (一五二) 香川縣の特産物を挙げよ。
- (一五三) 愛媛縣の沿海を記せ。
- (一五四) 高知縣の風土を言へ。
- (一五五) 瀬戸内海岸の氣候は總て如何なる傾きあるや。

- (一六一) 九州の形勢及風土を記せよ。
- (一六二) 九州の略圖を畫け。
- (一六三) 福岡縣の一大特産物に就き記せ。
- (一六四) 筑後河に就き記せよ。
- (一六五) 福岡市及其附近を記せ。
- (一六六) 佐賀市及其附近を記せ。
- (一六七) 長崎縣の沿海の形勢を記せ。
- (一六八) 長崎縣の風土如何。
- (一六九) 熊本市及其附近を記せ。
- (一七〇) 熊本縣下の風土如何。
- (一七一) 大分縣の地勢如何。
- (一七二) 宮崎縣の風土如何。
- (一七三) 鹿児島市及其附近を記せ。
- (一七四) 鹿児島島の風土如何。
- (一七五) 沖繩縣の島勢を記せ。
- (一七六) 沖繩縣の風土及沿革を記せ。



以上は只其例を示したるに過ぎず日本地理の問題決して之れに止まらず故に各自に問題を撰み自問自答を希望す次に北海道并に台湾の地理を講じ終りに再び問題を附すべきを以て讀者は通讀の際如何なる場所が問題に擧げらるべきかに注意し置くべし

北海道

北海道は我が邦の最北部に位する一大島及び千島群島を以て成る本島は蝦夷島と稱し内に十國あれば十州とも稱す。北は宗谷海峡によりて露領樺太に對し、東北は千島群島によりて堪察加と密邇し、其の間にオコック海を抱く、南は津輕海峡によりて本州に向ひ、日本海太平洋を左右にす。明治二年初めて北海道と稱し十國に分たれたり、明治八年樺太島を露西亞に與へて得撫群島得撫島以北占守島に至るを我に入れ千島國に屬せしむ。面積六千〇九十五方里あれども、人口は僅に六十五万余にして一方里内に百六人を容るゝに過ぎず。北海道廳を置いて全道を管せしむ。

形勢 本島の地脈は樺太山系によりて構造せられ、其の樺太地脈の一旦陥りて再び宗谷岬より起り南々東に走り、島の中央に於て千島火山帯に連る是れを東北山脈と稱し、平均二千尺の高度に過ぎず、東北山脈と千島火山脈と交叉する處は地勢最も高峻なる中央山麓を作る、又中央山麓より分れ南十勝、日高の堺を走り襟裳岬に達する者を日高山脈と稱す、芽室岳、神威岳、樂古山等あり。



千島火山帯は千島列島を噴起し、本島に渡り雄阿寒岳、雌阿寒岳等となり、中央に於て東北山脈及び日高山脈と交叉す、中央の最高山をオプタテシケ山(最高點六千三百尺)とす、十勝岳、石狩岳等あり、高さ各五千尺以上に達し、山麓甚だ鬱結せり。札幌の西には樽前、有珠、マカリヌブリ(後方半)等時つ、渡島には恵山、駒ヶ岳等の噴火山、内浦灣の周圍に聳ゆるを以て英人は此の灣を火山灣と稱したり。

以上諸山脈の四邊には廣大なる平野ありて、十勝平野、釧路平野を最も大なりとす、其他全道の諸原野を合計すれば地積殆ど一百万町歩に上れり、此等の平野は石狩平野の一部を除くの外、茫漠たる未墾の地にして、人烟稀に、豊饒の土地空しく人の耕耘を俟つに似たり。

河流 島の幅廣くして、分水界遠きと、河流の屈曲多きを以て、長大の河流を涵養せり。本邦第一の長流なる石狩川は中央山麓より發して西流し、上流に於て二千尺の大瀑布となり、幽谷を刻みて上川原野に出で、雨龍空知の大支流を合せ、遂に石狩港に注ぐ、全長百六十七里、河口の幅四百余間あり、下流には船舶輻湊し、魚鮭多し、上流の上川原野には離宮撰定地あり。石狩川に次ぎて天鹽川(七十)、十勝川(五十)あり、以上を北海道の三大河と云ふ。

其他釧路川を始め、河流多く、其の流域は何れも將來有望の原野にして、耕地又は牧場に適するもの、茫々涯りなし、殊に石狩川灌域の如きは五億七千八百万余坪に上ると云ふ。

湖水は北見の猿間湖最も大にして、周圍十八里余あり、根室の楓連湖、北見の網走湖等も稍々大なり。此の他火口湖多く、膽振の洞爺湖、支笏湖、釧路の阿寒湖、釧路湖等是れなり。

沿海 本島は殆ど菱形をなし、其の海岸は皆弓形に彎曲し、平遠の砂濱多し、赤鯉の尾は渡島半島にして、其の端は津輕海峡に對し、東に恵山、西に白神の兩岬突出す、其の中間は函館灣にして、灣頭に函館港あり。恵山岬の西北に畧圓形の灣あるは内浦灣なり、灣口に繪鞆岬突出し、内に室蘭の軍港あり、實に北門の要鎮たるに適す。繪鞆岬より襟裳に至る海岸は弓形をなし、襟裳岬より根室半島の納沙布岬に至るまでの海岸も亦殆ど同形をなし、其の東に厚岸灣、花咲港あり、此の海岸は昆布及び鮭を産する事夥し。納沙布岬と知床岬との間は根室灣にして、灣内の根室港は東



北沿海唯一の要港なれども水浅く大船を容るゝに適せず。知床岬より宗谷岬に至る北見の沿海も東北に向へる弓形をなし、冬時は沿岸氷塊を漂はし、怒濤海蝕を囓んで良港に乏し。宗谷港は樺太島と相對し、其の間を宗谷海峡と云ふ。西に利尻禮文の二火山島あり、野沙布岬より後志の積丹半島に至る沿海には苦前、留萌、増毛、小樽等の諸港あり。小樽港は陸には鐵道の便利あり、海には定期航海の汽船ある良港なり。積丹半島より渡島の白神岬に至る沿岸には岩内、壽都、江差、福山等の諸港あり。

住民 本道は維新後開拓使を置き、て全道を管せしめしが、後、札幌、函館、根室の三縣に分割し、後又廢して北海道廳を置き、全道を管せしむ。現今は自治制の如き未だ内地と同一の制を布くに至らずと雖も、本道の發達に従ひ、兵制、代議制の如き漸次内地と同じく實施せられんとす。特に札幌、函館の兩所は發達著しきを以て別區として之を治めしむ。本道は古來蝦夷島と稱し、中古以來蝦夷人即「アイヌ」人專住の地なりしを以て名けられたり。此の「アイヌ」人は古、本州の地に蔓延せしかども屢々征討を蒙り、遂に本道に退き、今は僅に邊隅に蟄居し、其の人口一万六千余に過ぎず。体格は偉大にして鬚髯多く、顔青くして、眼窠深く、額高し。本道は土地廣大に人口は未だ稀少なるを以て、若し本州の如き住民の密度に至らしめんには猶三千余万の人を容るべし、然れども人口の増加は頗る速にて、明治五年には一方里に付僅に二十人なりしが、同十五年には二十九人となり、同二十六年には六十二人となり、現今に及んでは、已に百五人に進めり。

處誌 札幌は石狩平原の西南部にあり、本道の中央府にして、全道を管轄する北海道廳を始め、第七師團、農學校、師範學校、中學校、病院、及び各種の製造所、諸會社等あり、人口三万四千市街般賑なり。鐵道は東北、炭山地方へ、西は小樽、南は室蘭へ通じ、交通至便なり。小樽は札幌の西二十二哩にあり、小樽灣に臨み、本道内の産物は多く茲に集まり、内地に輸送せり、船舶常に幅輳す、人口三万を有し、北海樞要の港なり、又此の地は本道の内地に入るの門戸たるを以て、將來益々繁盛を致すべし。

壽都、岩内は共に後志の西海岸にある小都會にして、増毛、留萌、苫前は天塩海岸の名邑なり。

函館は函館灣に臨み、人口七万二千を有する、北海道第一の都會にして、豪商軒を聯



ね、學校、諸會社、銀行等ありて、商況殷盛なり、船舶の出入頻繁にして、重なる輸出品は、**昆布**、**硫黄**等にして、輸入品は、**石油**なり。福山は渡島の西南隅にあり、元松前家の城市なりしを以て松前と稱したり、本道中最も舊き名邑なり、嘗て「松前二千軒函館千軒」の稱ありしかども今は遠く函館に及ばず。江差は西海岸の名邑なり。  
 室蘭軍港は第五海軍區の鎮守府豫定地なり、鐵道、札幌と相通じ、海には函館と汽船の便あり。室蘭より東、日高の海岸に亘りては、**苫小牧**、**浦河**、**幌泉**の、小邑あるに過ぎず。

根室は我國東北端の要港にして、此の附近及び千島の貨物集散所なり、人口一万四千、市況漸次繁盛ならんとす。其の西、釧路には厚岸、釧路の兩港ありて、釧路港は特別輸出港として、盛に硫黄岳産の硫黄を出す、之が爲め鐵道を布設せり。

北見に網走、紋別、枝幸の、船舶あり。  
 千島國は千島火山帶の噴起に係り、凡六百五十二哩の間に大小三十二島あり、其總面積は四國島より稍、小なり、然れども住民は南諸島に少許あるに過ぎず。擇捉島を最大とし、幌漣國後、得撫、色丹之に次ぐ。此の列島の東は世界最深の、**クスカロラ**

海床に臨む。沿海は冬間波浪高く、春季に至れば巨大なる浮氷流れ來ること往々之れあり。

各島には天然の良港多し。擇捉の紗那港。新知のブロン港の如きは船舶の碇泊に便なる良港なり。

千島群島より産する物品少なからず、中にも硫黄は其産額の多きこと恐らくは、世界に冠たるべし。又臘虎、胤肭臍、鯨、鮫、昆布を始めとし、頗る種類多き魚貝、海藻あり、採集其の宜きを得ば、將來有望の地なり。海軍大尉郡司成忠報効義會を組織し、志士を糾合して、今や極北占守島の開墾に従事せり。

○交通 北海道は人口未だ稀疎に未墾の山林原野多きを以て、交通甚だ困難なり、即ち道路は函館より起り、南方の海岸を通じて、根室に達すべき南海街道と一線は、北海岸を沿ひ、根室に達する北海街道とあれども、何れも未だ完備せりと謂ふべからず、内地の跋涉の如きは、頗る困難なる所あり。

鐵道は採炭事業の爲め、却て割合に多く、日本海岸の手宮驛を起点とし、小樽、札幌を経て、空知、太歌志内、幌内、郁春別の諸炭山に至る。又岩見澤より、岐れ追分を経て、夕



張炭山に至り。追分より又岐れて室蘭に至る約百八十哩を布設せり之を北海道炭礦鐵道と云ふ。又釧路にも硫黃採掘の爲め少許の鐵道あり。海路は函館を本據とし小樽室蘭釧路根室との間に定期汽船の往復あり千島各島には夏期臨時に汽船往來するのみ。

○氣候 本道は我が國の極北なるを以て氣候固より寒冷なれども決して人生の發達を妨ぐる程の寒地にあらず且つ人口の次第に増殖するに従ひ漸く寒氣を減ずるは事實なり。本道の東海岸は親潮の寒流に洗はるゝを以て寒威頗る強く平溫度五度乃至六度の間にあれども。西海岸は之に反して對馬暖流に洗はるゝを以て稍々溫暖に八度餘の平均なり。中央内地は海風の調和なく山脈蟠るを以て寒氣烈しく氷点以下三十五度の烈寒に下ることあり。要するに本道の氣候たる冬期長くして夏期は短く已に十月に至れば初雪を見而して四月に至りて未だ融解せず六七月に及べば暖氣俄に催し草木の發生速にして桃櫻梅李皆な一齊に開くに至る。

雨量は一般に寡し但し西南海岸より中央山地に亘りては北海道中にありては稍多く東北海岸は寒流の爲め蒸發少く降雨稀に本邦中の最寡雨の地なり。故に大河は西南岸より中央山地に涵養せられ日本海に注入す。積雪は北陸地の如く深からず。大抵二三尺を極度とす

○産物 北海道は原野廣く且つ土地肥沃なれども住民の多からざるを以て充分の發達をなさず然れども水陸共に天然の産物に富み採殖其の法を得ば財源の豊なる測るべからず實に我が國の寶庫とも謂ふべきなり

先づ農産物より舉ぐれば麻馬鈴薯甜菜等を主要とす。牧畜は到る處に適し牛馬尠なからず。林産も豊にして到る處喬樹密生し森林の地積五百五十万町歩を下らず。林間には熊多く其他の野獸亦少なからず。鑛産は甚だ豊富にして各種の産あれども就中石炭は無盡藏とも謂ふべく石狩の幌内を始め郁春別夕張空知等は産額甚だ多し。硫黃は石炭に次ぎて産出多く釧路の北部なる火山地方を第一とし千島其他よりも産せり

水産の豊富なることは獨り我が邦第一たるのみならず世界の三大漁場の一として其の名高し鱒、鮭、昆布、鱈、鳥賊、鯨、海豹等其の近海に群集し千島近海には又



臘虎、腥膻膾の如き貴重の水産あり。以上諸水産物の内最も多産なるは鮓にして全道の沿海各地に於て漁獲する額實に夥し。昆布は日高、天鹽、根室の近海より産する物最も有名にして支那内地へ輸出する額多し。本道の水産は將來實に有望なる日本の一大産物なり。

臺 灣

臺灣島は元と清國領島にして古は我が國よりは「高砂島」と稱し或は又「中崎島」「東台島」とも稱したり西洋人は「フォルモサ島 (Formosa)」と稱せり是れ葡萄牙人の始めて此の島を望みて名けし美麗島の意なり。

本島は明治二十七八年の役戦勝の結果により明治二十八年六月樺山總督は清國使節李經芳より全島の引渡を受け茲に全く大日本帝國の版圖に歸せる名譽の新領地なり。

○位置は琉球の南に接して起り南は米國の領島なる比律賓群島の呂宋島とは巴西海峡を隔て、相對峙し。西は臺灣海峡を隔て、清國福建省と相望む東方は澎

茫たる太平洋に瀕す。

○島形は恰も棚葉狀をして南北の延長九十五里東西の幅廣き處三十三里あり。面積二千二百五十三方里あり。現今臺灣總督府を置きて全島を統轄せしめ其下に臺北、臺中、臺南の三縣及び宜蘭、臺東、澎湖の三廳を置きて之を治む。

○地勢 島の形勢は南西より北東に延び殆ど島の中央を南北に亘る高峻なる中央大山脈ありて脊梁をなせり此脈島の中部に於て最も高峻となり其の最高點は嘗て玉山又はモリソン山と稱せし新高山なり海拔一萬三千八百餘尺ありと云ふ即ち日本第一の高山なり故に此脈を新高山脈と稱すべし其の北に峙てる高峰を

シルグチア山と稱し是れ又海拔一萬二千八百尺に餘ると云ふ即ち本島の双高峰なり其の他此脈中には一萬尺以上の高峰二三頂あり本島は此の新高山脈あるが爲め地勢自ら東部及び西部に兩分せらる。東部には此の支脈錯出し山深く地高く平野に乏しく其の峽間所々に蕃族の巢窟ありて從來全く暗黒の境なりしが我が領地に歸して以來内地の人續々探檢するを以て稍々其の狀を覗ふを得るに至れり。



西部は東部に反して地域頗る開け海濱に至れば肥沃の平野頗る廣遠となる台西平原是なり此の平原は一般に河流灌溉の便ありて田圃相連り台灣主要の部分なり。

島の北角には一群の火山集合す此の脈は西方澎湖島より來り淡水港に近く觀音山あり其の北に大屯山彙あり此の山頂には近來噴火せし遺跡を存す其の東南にある燒山一名三貂山にも數多の噴火口あり此の附近所々に硫黄泉涌出せり此の火山脈は東に趨りて琉球帶琉球群島の裏面(西南側)に沿ふて内地に亘り霧島火山脈に連るべしと云ふ

◎河流 台灣の水系は中央の新高山脈の爲め分れて太平洋系及び台灣海峽系となる其の流域の廣からざるを以て長大の流系をなす能はず又流れ急にして強雨に逢へば河水忽ち四近に溢れ交通杜絶するに至る。本島第一の大河を淡水河とす上流を大姑陷河(或は大嵯拔河と書す)と云ひ中央山脈なるシルグアア高峰の北麓より發し北流して新店川及び東北より來る基隆川と會流し漸く大となり西流して淡水港を過ぎて海に入る其の流域は本島第一の農産地なり又河道は通路となり河口より艫舢に至るまで小蒸汽船上下せり此の河の上流は奇巖多く風景頗る愛すべしと云ふ。

臺灣海峡に注ぐ河流には大甲溪、大肚溪、濁水溪等の諸流あり皆灌溉の利ありて流域には農産物多し。太平洋に流入する水系は數多あれども皆な小なるを以て記するに足るものなし。

○海岸 臺灣は内地の他の諸島に比すれば海岸の屈曲頗る乏しく延長三百五十二里(本島)に過ぎず之れに澎湖諸島の海岸線の延長七十五里を加ふるも總延長四百二十七里に過ぎず故に面積に比すれば甚だ少なり(備考本州の面積一万四千四百九十二方里にして海岸線二千四百七十五里。九州は面積二千三百十二方里にして海岸線一千八百四十七里。四國は面積一千五百一十一方里にして海岸線は六百七十六里。北海道は面積五千五十七方里にして海岸線は六百二十九里なり。)

東海岸は概して斷崖急に海に迫りて數千尺の峻岸となり港灣甚だ少く唯東北部に在る蘇澳灣は水深く稍々船舶の碇泊に便なり其の南にある花蓮港は屢に船を寄するに足るのみなり。西海岸は東岸に反して沿海一帶遠淺をなし諸河流より



吐出する泥沙堆積して港灣に乏しく厓に安平、打狗、鹿港等の諸港あり其の内、安平、打狗の兩港は清領以來既に開港場となり内地産の輸出所なれども良港と謂ふべからず。

北海岸には基隆、淡水（即ち滬尾）の兩開港場あり。基隆は本島第一の良港と稱せられ灣内廣く大船巨舶を容るゝに足るべしと雖も東北風を防ぐに足らず一大修築を要すべしと云ふ然れども此の港は内地に近きを以て臺灣の門戸となり當今内地との往來は一に此の港に依る。淡水港は淡水河口より溯ること半里餘なる滬尾にあり沙洲堆積すれども之を深は、良港なるべしとの説あり。北角海岸の最東に突出する三貂角は明治二十八年五月北白川能久親王殿下の近衛師團を率ゐて初めて上陸せられし地にして其の角内の洩底灣は實に其の上陸地点に擇まれたる碇泊所なり。

本島の極南端を南岬と云ふ其の端分れて南岬及び西南岬となり内に南灣を擁す此の灣は東定期風の時は碇泊に便なれども西南の定期風の時には船を繋ぐべからず。

臺灣海峡に澎湖群島あり本島との間を澎湖水道と云ふ。重なる島を澎湖島、白砂島、漁翁島とす。此三島巴の狀をなして相對す。澎湖島の馬公港は臺灣第一の良港と稱せらるる港口に砲臺及燈臺あり實に臺灣海峡の要鎮たり。

○交通 臺灣島の交通は從來清國領地たりし間は最も不完全にして道路修まらず且河流短急にして運輸を資くるなく人事天然共に交通を妨げたり。西部平野には狹隘の徑路なきにあらざれども河流には橋梁なく降雨一たび漲れば忽ち交通を絶つに至る况んや東部の如きは山岳重疊し僅に溪間の蕃民時々獸獵の爲め跋渉するのみなり。沿海は從來支那と帆船即ちジャンクの往來せしに過ぎざり。近時に至り内地の各港と定期航海を開き西海岸東海岸を巡るの船舶あり然れども風波一たび怒れば甚だ危険の虞あり。

鐵道は北部の臺北より東は基隆（二十）に至り南は新竹（四十）に到る六十哩に過ぎず其の構造も不完全にして速力甚だ遅緩なり。以上述べたるが如く交通甚だ不便なれば本島をして速に發達せしむるには道路の開通鐵道の布設最も急務なりと云ふべく今や蕃地にも道路を開き、臺灣鐵道延長の計畫等あり。



○氣候 本島の南半は熱帯に属すれども他の熱帯地方の如く炎熱甚たしからず是れ全く島地にして海風の調和によれり。全年の平均温度は二十一度乃至二十五度にして九州の南部地方より高さこと五度乃至十度なり。

夏季は二十七度より二十九度を平均とし、時に三十七八度に昇れども山頂より涼風吹き下りて暑熱を掃ひ、夜間は殊に冷氣を覺ゆ人の健康に適せず。冬季の平均温度は十三度乃至十九度なれば恰も東京四五月の温度に比すべし。

晴雨は常に定まらず特に北部は降雨甚だ多く内地には斯の如き多雨の地なし而して秋冬に最も多く春夏には少し。風は夏季西南の氣候風吹き冬季は東又は北東の貿易風吹き風威概して強く殊に一月を最もとす夏秋の交には屢々颶風初起の猛威を被り怒濤沿岸を洗ひ危険多し。

○産業 本島は熱と水蒸氣との爲め各種の産物に富み支那海中の金庫と稱せらる就中茶、砂糖、樟腦、石炭の四種は本島の四大産物と稱す。茶は専ら北部に栽培せられ一ヶ年七回摘葉し得べく良好の烏龍茶として各國に配送す。砂糖は南部を主とし其の産額甚だ多く曾て清國の一財源となり多く我國に輸入したり。樟腦

は中央の山地より出し又各國に輸出す。石炭は全島概ね産すれども北部基隆附近は有名の産地なり。

以上の外各種農産饒なり殊に米と甘藷は最も有名にして共に一年二回の收穫あり、藍、烟草、落花生、胡麻、生姜、鳳梨、檸檬等の産甚だ多し。林産には樟樹の外、杉、松、及無花果樹、榕樹等の熱帯植物鬱蒼たり。動物には内地に産せざる豹、山猫、水牛あり又鹿、猪は最も多く鳥類は鷄、鴨等多く食用に供すべし。

海産物には海參、牡蠣等あり。鑛物には石炭の外、石油、硫黃、砂金等を産す。要するに本島は熱と水蒸氣とによりて各種の天産物に富めども從來施政の其の當を得ざりしか爲め産業未だ盛ならず天然の寶匣未だ其扉を開かざるものあるべく、近來銳意各種の財源を發きつゝ、あれば將來我國の大財源地となるべし。

○住民 島の北部及西部平原の住民は概ね昔て支那より移住せしものなれば風俗習慣等總て支那人と異なる所なし、是れ所謂臺灣人なり、東部山地方の住民は前者と頗る異にして本島の原住民なり之を生蕃と稱し、凶暴なる蠻民にして殺戮を嗜み支那人を疾むこと甚しく、特に木瓜、太老閣の二生蕃の如きは好んで首狩をなし



首級を多く得るを以て榮となすに至る。彼等の生業は専ら獸獵及漁業をなし傍ら農業を營む。又熟蕃と稱するは東部山地と西部平原との間に住み耕作魚漁を營み性愚直なりしが今は全く支那人の弊風に感染し甚だ狡猾となり頗る化し難き民なり。

本島の原住民たる生蕃人は元と何地より移住せしや詳ならずと雖ども其の東岸に沿ひて南より流れ来る洋流に漂ひて比律賓或は其の他の南洋群島より來れる馬來種ならんと云ふの説確なるが如し

○處誌 台灣島は我が戰國の頃より屢々本邦人の渡航する者ありて既に其の一部を略取し高砂島或は中蜻島と稱したり其の後和蘭人一時之れに據れり又明人鄭成功も此の島に據りしが其後種々の變革の末紀元二千三百四十三年遂に全く清領に歸せり近年清廷より劉銘傳劉永福等を遣はして之を治めしが馬關條約によりて我が皇化に浴するを得るに至れり。此の地は其位置軍事上南門の鎖鑰たるのみならず商業上亦た有望の地なり將來本島を誘導して南溟の藩屏となし以て其富源を啓發するは實に我が後進者の任と言はざるべからず讀者請ふ之を心に銘せよ

臺北縣

本縣の管轄は島の北部を領するを以て氣候は臺灣中の清涼なる所なり土地亦肥沃の平野を占め臺灣中至要の部なり淡水河は南部高地より發し上流を大姑陷河と云ふ中流に於て新店基隆の兩河を容れ北流す此流域稻田多く生産額最も多き都なり。縣の北部に觀音山大屯山の火山あり。

臺北(五千万)は總督府臺北縣廳混成旅團國語學校砲兵工廠其他の官衙ありて本島の中心地なり市街稍廣く從來の支那街としては比較的不潔ならず鐵道左右に通し交通も亦便なること島中第一なり。基隆港は臺北を距ると九里の北海岸にあり此の港は本島の門口にして長崎より六百三十七哩あり要塞砲兵を置く此港は臺灣鐵道の起點となり總ての旅客貨物此の港より出入す

基隆港より鐵道に沿ふて桃仔園中壠大湖口あり皆近衛師團兵の苦戰の跡なり其南の新竹は稍々繁華なる市街にして鐵道此地に達せり其南に中港あり。淡水河口に滬尾港(淡水)あり外國との貿易港にして清國福州府との間に海底電線ありて清



國との關係深し

### 臺中縣

本縣の管轄は臺北縣の南に隣り、東は生蕃地に境し、南は臺灣海峡に臨む。縣内には大甲溪、大肚溪、濁水溪等の諸水流、東部高地を下りて並流して臺灣海峡に入る。此の諸溪流の中、濁水溪の流域最も廣く、其の支流數條合しては又分れ縣内を横斷せり。故に霖雨に逢へば此等の流域一面氾濫するに至る。

臺中は縣廳所在地にして明治二十八年八月二十六日近衛師團之を占領せり。今、混成第二旅團司令部を置く。其の北部に大甲、苗栗、後壠等あり、皆近衛師團の激戰場なり。

臺中より以南には彰化、雲林、即ち斗六街、他里霧等の都會あり。此等の各地も亦近衛師團の占領の時頑固の抵抗を試みし所にして、其の後も土匪數々蜂起し、守備隊の苦戦せし場所なり。大肚溪の南に鹿港あり、清國に渡るの要津にして支那、ジャンクの往來繁く、日清の役には兵器彈藥等を此の港より輸入した。明治二十八年八月近衛師團の急先鋒之を占領せり。捕里社は生蕃地の界に近き都會にして

此の地も亦數々土匪の災ありし

### 臺南縣

臺中縣の南に接し、東境は生蕃高地に屬す。此の高地中には我が國の最高峰たる新高山雲を破りて聳へたり。諸溪流此の高地の間より發して西に下り澎湖水道に入る。其の溪流中淡水溪最も大にして南下して海に入る。此の流域平地頗る開け農産物饒し。

本縣管の極南部は岬角となりて南方に突出し、其の端分れて南岬及び西南岬の兩岬となり、中間に南灣を抱く。南岬の端に燈台あり、其海中に在るペーレルート列岩は北緯二十一度四十五分に當り、實に我が版圖の極南なり。

臺南は元の臺灣府にして清領の時は此の府を以て全島の首府と定めし所なるを以て市街繁昌し、人口も亦四万五千に達せり。府は方形の高壁を以て回され、其の狀北京城に類す。曾て和蘭人の據りし處、後明の鄭成功此の府に據り、全島を管せりと云ふ。其の南に安平港あり、外國との貿易場なり。此の港と澎湖島との間に海底電信線を通す。臺南の北に嘉義の市街あり、此地は夏至線直下に位し、是より以南は即



ち熱帶地なり  
 臺南の南に鳳山あり、一時は嘉義と全しく縣治所なりし、台灣の特産なる製糖業甚  
 た盛なり。其の西に打狗港あり開港場にして砂糖の輸出所なり其の南に東港及  
 び枋寮あり。恒春は我が國最南の一名邑にして又我が國最南の測候所あり。其  
 の東北に牡丹社あり此の地は明治七年西郷都督從道の我が軍を率ゐる征討せし部  
 落なり。

宜蘭廳

本廳の管轄は台北縣の東部なる本島の北東角を占む其の三貂角の南の一灣は洩  
 底灣と稱し、明治二十八年五月二十九日近衛師團の上陸地点にして我が大日本中  
 學會を總裁し給ひし北白川能久親王殿下か其の師團長として初めて玉趾を垂れ  
 給ひし處なり。宜蘭は本廳の治所にして其の南に羅東及ひ利澤簡あり。蘇澳港  
 は東岸の良碇泊地にして生蕃地域に最も接近するを以て生蕃人數々出沒して頗  
 る危険なりしが今は頗る其の憂を掃へり

臺東廳

台東廳下は元と清人の不化の地として顧みざりし生蕃地にして其區域廣く到る  
 處山深く探險偏ねからず内地は生蕃人の住所にして危険多し海岸は懸崖多く碇  
 泊所に乏し此海上には黑湖流通し海中に火燒島紅頭嶼あり花蓮港は東岸唯一の  
 碇泊地にして其北に新城あり卑南は臺東廳のある處守備隊及國語傳習所等あり  
 て既に皇化を被れり。

澎湖廳

本廳管轄は臺灣島の西七十五哩の海上にある大小四十餘島を總管せる稱なり澎  
 湖漁翁白沙の三島巴狀をなして相對し中間に澎湖灣を擁す此諸島は明治廿八年  
 三月征臺軍の先鋒の比志島少將義輝支隊の初めて占領せし所なり今要塞砲兵を  
 置く馬公城或は媽宮は廳のある所又良泊の地なり。漁翁島に燈臺の設けあり本  
 島は産物に乏しと雖ども臺灣海峡の要路に當るを以て重要な島なり曾て佛の水  
 師提督クルーベールも先づ之を占領し我が國南軍も先づ第一に本島を占領し以て  
 台灣の占領を幫助せり



北海道地理問題

- (一) 北海道の別稱。
- (二) 北海道の北門の鎖鑰たる所以如何。
- (三) 北海道の廣袤及び人口。
- (四) 北海道の地形如何。
- (五) 千島火山脈の走向及び其脈中の高山を擧げよ。
- (六) 全道の諸原野及び其地積并に地味如何。
- (七) 北海道の河流。
- (八) 北海道の三大河を擧げ其の流域の景況を記せ。
- (九) 湖沼の大なるものを擧げよ。
- (一〇) 北海道の沿海海岸風曲の狀を示せ。
- (一一) 内海灣、岬崎の重なるものを擧げよ。
- (一二) 北海道の政治の沿革を擧げ現今の制を示せ。(因に記す先講の時までは札幌、函館の二區なりしが最近に於て小樽の一區を加へて三區と改められたれば茲に訂正す)
- (一三) アイヌ人種の容観性質人口如何。
- (一四) 北海道人口の増加。(北海道現今の人口は六十五万餘一方里の住民百五人なりしが

最近の統計によれば尙ほ増加して總人口八十五万三千餘に達し一方里に付百四十人に増加せり)

- (一五) 札幌區の景況及び小樽との關係を記せ。
- (一六) 函館區の景況如何。
- (一七) 千島の重なる島々及び其の良港産物を擧げよ。
- (一八) 北海道の交通の便否如何。
- (一九) 北海道鐵道の連絡を圖して示せ。
- (二〇) 北海道の氣候内地と海岸との差、東岸と西岸との差、道中の最暖地最寒及び雨量等を示せ。

(二一) 礦産物の二大産物。

(二二) 水産物に富めると及び其重なる産品を示せ林産物を擧げよ。

(二三) 農産物の重なる物及其他を擧げよ。

(二四) 北海道の略圖を作り重なる山脉、河流、都邑等を記入せよ。

台灣地理問題

- (一) 台灣島は古來我が邦よりは何等の稱呼を與へしや。
- (二) 我が版圖に歸せし來歴を記せ。



- (三) 當今は如何にして之を治むるや。
- (四) 台灣島の概略を圖せよ。
- (五) 島の地形及び山脈を述べ其高峯及び高度は如何。
- (六) 中央山脈より西部と東部との地形を比較せよ。
- (七) 海岸及び其の海中を流るゝ洋流を記せ。
- (八) 台灣の氣候を述べよ。(全年の平均溫度、夏季の溫度、冬季の溫度及び其の内地との比較を示せ)
- (九) 雨量は如何。(雨期、乾期及び風向との關係等を述べよ)
- (一〇) 台灣の三大産物を問ふ。
- (一一) 農産物、林産物、礦産物及び其の他の重なる産物を挙げよ。
- (一二) 台灣の住民(台灣人、熟蕃、生蕃)の別如何)
- (一三) 台北縣の管轄及管内の概況如何。
- (一四) 台北の概況を示せ附台北以南の小都會を挙げよ。
- (一五) 臺中縣の地勢概況を記し縣内の重要な各都會の名稱及び其の位置概況を記せ。
- (一六) 臺南縣の概況。(臺南は如何、夏至線は何れを通過するや、我が版圖の極南及び緯度は如何)

(一七) 宜蘭廳の管轄は如何及び管内の概況。(三貂角、洩底灣、宜蘭、蘇澳等は如何其位置及び概況を示せ。

(一八) 臺東廳の管轄を示し其の管内の概況を記せ。(卑南、花蓮港は如何)

(一九) 澎湖廳管轄の群島并に其三大島を挙げよ。

(二〇) 此の群島の交通上、軍事上重要な所を記せ。

(二一) 北海と臺灣島とに就き左の諸項を比較せよ。

(一) 面積の大小 (二) 人口の多少 (三) 生産力 (四) 位置の肝要 (五) 氣候。

○日本の地理沿革

上來講述し來れる愛す可き我日本帝國は、亞細亞の東偏に屹立し、山の崇水タカミの美、千古依然として曾て其尊嚴を失はず、是れ實に萬國に卓絶したる所にして、全く我邦一種殊別の風土か此國體を造出せりと謂はざるべからず、今小しく地理に關する



沿革を述べて本講を了らんとす。

抑々我帝國統治の基源を原ぬるに、神武大帝六世の皇祖伊弉諾尊伊弉册尊の二柱の神中部なる大八島等を發見し玉ひしより既に大八洲の稱呼ありしものゝ如し所謂大八島とは(一)御子淡道の島今の淡路にして是れ中央地と定め尊の住み玉ひし島なり(二)伊余の二名の島是れ今の四國島を云ふなり(三)隱岐の三子の島即ち今の隱岐島なり(四)筑紫島とは今の九州島なり(五)伊岐島は今の壹岐島是なり(六)津島は今の對馬なり(七)佐渡の島は今の佐渡島是なり(八)大倭豊秋津島是れ即ち本州とす以上八島を總稱して大八島國と謂せり而して此等の諸島には既に先住人民ありて之を領したりしか二柱神の初めて此諸島に征せられしとき土人來服すると子の父母に於けるか如くなりしかば各々舊來の首長たる國神に委して之を治めしめられたり。

二柱神の御子天照太神に至り其御孫瓊々杵尊をして豊葦原の水穗の國を知らしめしめられたり是を以て尊吾國の笠狹岬今の薩摩加世田港と云を大都と定め玉へり是に於て我國運は稍々進歩し八島を總稱するに豊葦原水穗國と云ひ之を

統治し玉ふに瓊々杵尊ありしなり然れども其時までは固より統一の大業成りしにあらず各部落の酋長等は互に相争ひ其大なるものは權勢頗る強くして其四近を支配し所謂邑に君あり村に長あるの勢にして皇化の及ぶ所狭かりし其後數代は只日向の高千穂を中央として愛に都し玉ふのみなりき。

神武大帝に至り國家統一の大志を抱き給ひ遂に高千穂を出て東征の途に上り給ひたり抑々大帝は我國土の趣により水路の便に依るの容易なるへきを明察し給ひ先づ舟師を日向沿岸より發し瀬戸内海に入り其沿岸各地の土蠻を征服し遂に大和に入り創業八年にして中州を年定し大鼎を倭の樞原に定め國家經營の基を開き給へり大帝既に樞原に奠鼎せられ我國土の形狀を望み給ひあきつ(蛤)のとなめ(結)せるかことしと誥ひしより我國を蜻蛉州或は國音により秋津洲と稱するに至れり而して各地方を治むるには國及縣の區畫あり國造縣主等の官を置かれ地方政治も粗々其緒に就けり是れを皇化東漸の第一段とす

其後各地方の國名も次第に起れり即ち筑紫島にては其南を襲の國と云ひ東岸は日向の國と稱し西岸を火の國と呼び東北部は豊の國と總稱したり。又四國島は



既に伊余、土左、粟、讚吉の四部に分れたり。中國にては今の長門の邊は穴門と稱し、其以東は大略今と全しき場所を指して周芳、阿岐、出雲、吉備(三體)伯岐、稻葉、多遲摩、田庭等と稱したり。又今の大阪四近は難波と總稱し、近畿は中央地なれば皇化も行はれ、地名も甚た多く、國名には山脊、倭、河内、伊勢の稱ありし、近畿以東は皇化治からさりしを以て、地名も漸く太平洋に遠江、日本海岸に越の國、中部に科野、關東を牟邪志、房總、半島を總の國と概稱するに過ぎさりし、而して其東は只道の奥と汎稱するに止れり、以上の地名は皆廣き概稱にして其餘の國々は總て百三十五國ありし、而して之を率ゆるは倭、樞原の中央府なれば倭なる名稱は中央を意味し、之れに大字を冠して大倭とは本邦を汎稱すること、はなれり。

神武大帝の創業後は久しく舊來の姿なりしが、第十代崇神帝に至りて、邊隅の皇化に治はざるを憂ひ給ひ、四道將軍を置き、各地主任の巡撫を定め、北陸、東海、西の道丹波道に遣はされ、大に大權の及ぶ區域を擴張せられたり。

第十一代景行帝に至り、西の方筑紫を親征せられ、皇子小碓尊をして、東方を征せしめ、大に治域せしめられたり、成務帝に至りては、小碓皇子東征の結果として政治區









畫は大に發達し、始めて天然の指定せる山河の形勢に従ひ國境なるものを劃して國名を附せられ、東は道の奥に至るまで國の區畫大に定まれり、其後分合廢立の事等ありしが、推古帝に至りては其區畫今の國名と大略異なる所なく、只々異なる處は、道の奥、出羽の二國の區畫なり、又今の安房、能登、志摩、伊賀、加賀、和泉、丹後、美作、大隅の九國は未だ其の名稱を存せざりしのみなり、  
 齊明帝に至り大に帝國の版圖を東に擴め、始めて本州を踰へて蝦夷島に皇化浸漸するの期に至れり、即ち帝の四年越後の國司阿部の比羅夫今の兩羽地方を戡定し、舟師を率ゐて遂に津輕海峡を渡りて始めて蝦夷に入り、渡島蝦夷を征し、翌年再び同島の北半を征服し、後方半蹄郡を置けり、是れ蝦夷島經略の第一着手とす、  
 然るに内地に於ける國の廢立は天武帝の時、伊勢を割て伊賀を、駿河を割て伊豆を置けり、此頃より東海、東山等の道名起れり、文武帝の時、始めて出羽國を置き、又日向を割て大隅を、備前を割て美作を置かれたり、此時に至り畿内七道の稱始めて定まれり、元正帝の時、河内を割て和泉を、越前を割て能登を、上總を割て安房を、陸奥の内に石城、石脊(此二國後廢す)の兩國を、伊勢を割て志摩を置かれたり、孝謙帝の時



大倭を改めて大和國とし攝津職を改めて國とし、嵯峨帝の時越前を割て加賀の國を置かれたり是に至りて維新前まで唱へ來りし六十六國の名及び境域全く定るに至れり。

中央府は神武天皇に至り倭橿原に帝都を定め玉ひしも、其後御代の更る毎に帝都も亦概ね移されたり然れども大和は近畿諸國を制御するに最も便利なる形勢を有せしを以て二三の例を除くの外は大和高原中に帝都を置かれたり元明帝に至り大和の奈良を選定して宮室を經營し都を移されしより始めて七代の間爰に都し玉ふととなれり桓武帝に至りては大和高原の到底日本全國を制御する地にあらしむるを看破し玉ひ我邦の中央にして而も交通の便ある山城の長岡の地を相して大に皇居を營み遷都せられたり是れ即ち京都にして遂に明治維新まで代々都し玉ひたり。

明治維新の始めに至りて陸奥を磐城、岩城、岩代、陸前、陸中、陸奥の五國に分ち、出羽を羽前、羽後の兩國に分たれたり。然るに蝦夷島は比羅夫の征略後は内地の多事に追はれて久しく經營の遑なかりしが後花園帝の時若狭人武田信廣等の經營によ

りて漸く全島を戡定したり明治維新の後全島及千島を合せて北海道と稱し更に十一國に分ち又琉球を一國とし是を西海道の附庸とす爰に全く畿内、八道、八十五國とはなれり。

『國』と謂へる區畫は元と政治區畫なりしが封建の政治始まりて以來豪族の大なるものは數國を領し小なるものは一國を數個に分割して治域と定めたるを以て國は遂に政治區畫の性質を失ふに至れり、徳川氏の時に及びては別に藩と稱する政治區畫ありて維新の際には凡う二百七十一藩ありしが明治四年に至り藩を廢して府縣に改め府を置く三、縣を置く六十なりしが其後廢合分立ありて三府四十三縣となりき。

北海道は別に一道廳を置き、全道を治めしむ、又明治二十八年清國より臺灣の割讓を受けて我版圖に収め總督府を置きて之を統轄せしめ其下の三縣三廳始めは六縣三支廳を置きしを置くを以て今は全國に一總督府、一道廳、三府、四十六縣、三廳あり之を我地方行政區畫とす、此區畫は大小同しからず大は八百九十九方里(縣岩手)、小は五十二方里(府東京)の間にあれども平均は四百〇八方里とす、府縣の下に市郡あり



市は既に記したり郡は元々八百四郡ありしが明治三十年以後廢合せられ今は下の表の如くなれり(今般新に置かれたる郡名には特に左側に圈点を附して別つ)以上は我邦に於ける地誌的沿革の概略なり左に道廳府縣廳の管轄を示さん

○東京府(武藏の内一市八郡及び伊豆諸島小笠原島)

武藏國 東京市 南多摩 北多摩 西多摩 荏原 豊多摩 北豊島 南足立 南葛飾

○埼玉縣(武藏の内九郡)

武藏國 南埼玉 北埼玉 北足立 入間 比企 大里 兒玉 秩父 北葛飾

○神奈川縣(武藏の内一市三郡相模八郡)

武藏國 横濱(市) 橋樹 久良岐 都筑 三浦 鎌倉 高座 中 足柄上 足柄下 愛甲 津久井

○千葉縣(安房一郡上總五郡下總の内六郡)

安房國 安房 上總國 市原 長生 山武 君津 夷隅

下總國 千葉 東葛飾 香取 印旛 匝碓 海上

○茨城縣(常陸一市十一郡下總の内三郡)

常陸國 水戸(市) 東茨城 西茨城 那珂 久慈 多賀 眞壁 鹿島 行方 新治 筑波 稻敷

○栃木縣(下野一市八郡)

下野國 宇都宮(市) 河内 上都賀 下都賀 鹽谷 那須 安蘇 足利 ○群馬縣(上野一市十一郡)

上野國 前橋(市) 勢多 群馬 多野 北甘樂 碓氷 吾妻 利根 山田 新田 邑樂 佐波

○福島縣(岩代二市十郡磐城の内七郡)

岩代國 福島(市) 若松(市) 信夫 伊達 安達 安積 岩瀬 南會津 北會津 耶麻 河沼 大沼

盤城國 東白川 西白河 石川 田村 相馬 石城 雙葉

○宮城縣(陸前の内一市十三郡磐城三郡)

(五六一) 革



陸前國 仙臺市 柴田 名取 宮城 黒川 加美 志田 玉造 遠田

栗原 登米 桃生 牡鹿 本吉

盤城國 刈田 伊具 亙理

○岩手縣 (陸中一市、十一郡、陸前の内一郡、陸奥の内一郡)

陸中國 盛岡市 岩手 柴波 稗貫 和賀 膽澤 江刺 西盤井 東盤井

上閉伊 九戸

陸前國 氣仙

陸奥國 二戸

○青森縣 (陸奥の内一市、八郡)

陸奥國 弘前市 東津輕 西津輕 中津輕 南津輕 北津輕 上北 下北

三戸

○秋田縣 (羽後の内一市、八郡、陸中の内一郡)

羽後國 秋田市 南秋田 山本 河邊 由利 仙北 平鹿 雄勝

陸中國 鹿角

○山形縣 (羽前二市、十郡、羽後一郡)

羽前國 山形市 米澤市 南村山 東村山 北村山 最上 東田川 西田

川 西置賜 東置賜 南置賜

羽後國 飽海

○新潟縣 (越後一市、十五郡、佐渡一郡)

越後國 新潟市 北蒲原 中蒲原 西蒲原 南蒲原 東蒲原 三島 古志

北魚沼 南魚沼 荻羽 東頸城 中頸城 西頸城 岩船

佐渡國 佐渡

○長野縣 (信濃一市、十六郡)

信濃國 長野市 南佐久 北佐久 小縣 諏訪 上伊那 西筑摩 下伊那

南安曇 北安曇 東筑摩 更級 埴科 上高井 下高井 上水内

下水内

○山梨縣 (甲斐一市、九郡)

甲斐國 甲府市 東山梨 東八代 西八代 南巨摩 中巨摩 北巨摩



南部留 北都留

○静岡縣 (駿河一市五郡、遠江六郡、伊豆二郡)

駿河國 靜岡(市) 駿東 富士 庵原 安倍 志太

遠江國 榛原 小笠 周智 盤田 濱名 引佐

伊豆國 賀茂 田方

○愛知縣 (尾張一市、九郡、三河十郡)

尾張國 名古屋(市) 愛知 東春日井 西春日井 丹羽 葉栗 中島 海東

三河國 碧海 幡豆 額田 西加茂 東加茂 北設樂 南設樂 寶飯

飛驒國 大野 益田 吉城

○岐阜縣 (美濃一市、十五郡、飛驒三郡)

美濃國 岐阜(市) 稻葉 羽島 海津 養老 不破 安八 揖斐 本巢

飛驒國 大野 益田 吉城

○三重縣 (伊勢二市十郡、伊賀二郡、志摩一郡、紀伊の内二郡)

伊勢國 津(市) 四日(市) 桑名 員辨 三重 鈴鹿 河藝 安濃 一志

伊賀國 阿山 名賀

志摩國 志摩

紀伊國 南牟婁 北牟婁

○福井縣 (越前一市八郡、若狹三郡)

越前國 福井(市) 足羽 吉田 坂井 大野 南條 今立 丹生 敦賀

若狹國 三方 遠敷 大飯

○石川縣 (加賀一市四郡、能登四郡)

加賀國 金澤(市) 江沼 能美 石川 河北

能登國 羽咋 鹿島 鳳至 珠洲

○富山縣 (越中二市八郡)

越中國 富山(市) 高岡(市) 上新川 中新川 婦負 下新川 射水 氷見



東礪波 西礪波

○滋賀縣 (近江一市十二郡)

近江國 大津(市) 滋賀 栗太 野洲 甲賀 蒲生 神崎 愛知 犬上  
坂田 東淺井 伊香 高島

○京都府 (山城一市八郡丹波の内五郡丹後五郡)

山城國 京都(市) 愛宕 葛野 乙訓 紀伊 宇治 久世 綴喜 相樂  
丹波國 南桑田 北桑田 船井 天田 何鹿  
丹後國 加佐 與謝 中 竹野 熊野

○奈良縣 (大和一市十郡)

大和國 奈良(市) 添上 生駒 山邊 北葛城 磯城 宇陀 高市 南葛城  
宇智 吉野

○和歌山縣 (紀伊の内一市七郡)

紀伊國 和歌山(市) 海草 那賀 伊都 有田 日高 西牟婁 東牟婁

○大坂府 (攝津の内一市四郡河内三郡和泉一市三郡)

攝津國 大坂(市) 東成 西成 三島 豊能

河内國 南河内 中河内 北河内  
和泉國 堺(市) 泉北 泉南

○兵庫縣 (攝津の内一市三郡播磨一市十三郡丹波の内二郡但馬五郡淡路二郡)

攝津國 神戸(市) 河邊 武庫 有馬  
播磨國 姫路(市) 明石 美養 加東 多可 加西 加古 印南 飾磨 神  
崎 揖保 赤穂 佐用 宍粟

丹波國 氷上 多紀

但馬國 出石 城崎 養父 朝來 美方

淡路國 津名 三原

○岡山縣 (備前一市八郡備中十一郡美作十二郡)

備前國 岡山(市) 御野 津高 赤坂 盤梨 和氣 邑久 上道 兒島  
備中國 都宇 窪屋 淺口 小田 後月 下道 賀陽 上房 川上 哲多  
阿賀



美作國

眞島 大庭 西北條 西西條 南東條 東北條 勝北 吉野  
英田 久米北條 久米南條

○廣島縣 (安藝一市七郡備後一市九郡)

安藝國 廣島(市) 安佐 沼田 高宮 山縣 高田 加茂 豊田  
備後國 尾ノ道(市) 御調 世羅 深安 沼隈 安那 蘆品 神石 甲奴  
雙三 比婆 三上 惠蘇

○山口縣 (長門一市五郡周防六郡)

長門國 赤間關(市) 厚狹 豊浦 美禰 大津 阿武  
周防國 大島 玖珂 熊毛 都濃 佐波 吉敷

○島根縣 (出雲一市三郡石見六郡隱岐四郡)

出雲國 松江(市) 八束 能義 仁多 大原 簸川 飯石  
石見國 邇摩 安濃 邑智 那賀 美濃 鹿足  
隱岐國 周吉 穩地 海士 智夫

○鳥取縣 (因幡一市三郡伯耆三郡)

因幡國 鳥取(市) 岩美 八頭 氣高  
伯耆國 東伯 西伯 日野

○德島縣 (阿波一市十郡)

阿波國 德島(市) 名東 勝浦 那賀 海部 名西 板野 阿波 麻植  
美馬 三好

○香川縣 (讃岐一市七郡)

讃岐國 高松(市) 大川 小豆 木田 香川 綾歌 仲多度 三豊  
○愛媛縣 (伊豫一市十二郡)  
伊豫國 松山(市) 温泉 越智 新居 周桑 宇摩 伊豫 上浮穴  
喜多 西宇和 東宇和 南宇和 北宇和

○高知縣 (土佐一市七郡)

土佐國 高知(市) 土佐 幡多 高岡 吾川 長岡 香美 安藝  
○福岡縣 (筑前一市九郡筑後一市六郡豊前の内四郡)  
筑前國 福岡(市) 糟谷 宗像 鞍手 嘉穂 朝倉 筑紫 糸島 早良